



N-VAN

OWNER'S GUIDE

オーナーズガイド

はじめに

ビジュアル目次

目次

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

メンテナンス

万一の場合には

こんなときは

資料

索引

1

2

3

4

5

6

7

8

9

このオーナーズガイドは基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要な情報が掲載された簡易取扱説明書です。詳しい取扱情報は詳細取扱説明書に掲載されていますので、車両にお乗りになる際には、詳細取扱説明書もお読みください。

■詳細取扱説明書のご案内

Honda ホームページにて、詳細取扱説明書を電子データ形式（HTML 版/PDF 版）で、ご提供しています。

取扱説明書の提供ページで、モデル名と年式を選択し、閲覧をしてください。

取扱説明書の提供ページ

<https://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/>

なお、Honda ホームページからは、検索ボックスに『取説』と入力することで、この提供ページを検索できます。

QR コード読み取り機能付のスマートフォンやタブレット PC をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちのスマートフォンやタブレット PC 取扱説明書をご確認ください。



また、紙書籍版の詳細取扱説明書は、Honda 販売店にて、ご購入いただけます。
ご購入を希望される方は、Honda販売店にご相談ください。

検索のしかた

本書に記載の内容を探すにあたって、下記の検索方法を設けています。

1 ビジュアル目次

車両のイメージイラストに装備名称とその装備の説明ページ番号を記載しています。
名称が分からない装備を調べるときや、装備の取付位置から内容を調べたいときにご利用ください。

2 目次

本書の各章と記載内容をページ番号順に記載しています。
本書の記載内容から調べたいときにご利用ください。

3 索引

装備名称や本書の記載内容を数字・アルファベット・五十音順に記載しています。
装備名称や記載内容から調べたいときにご利用ください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■ 車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します（車内の映像や音声は記録しません。）。

- 車両の状態（車速など）
- 運転状態（アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況）
- SRS エアバックシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

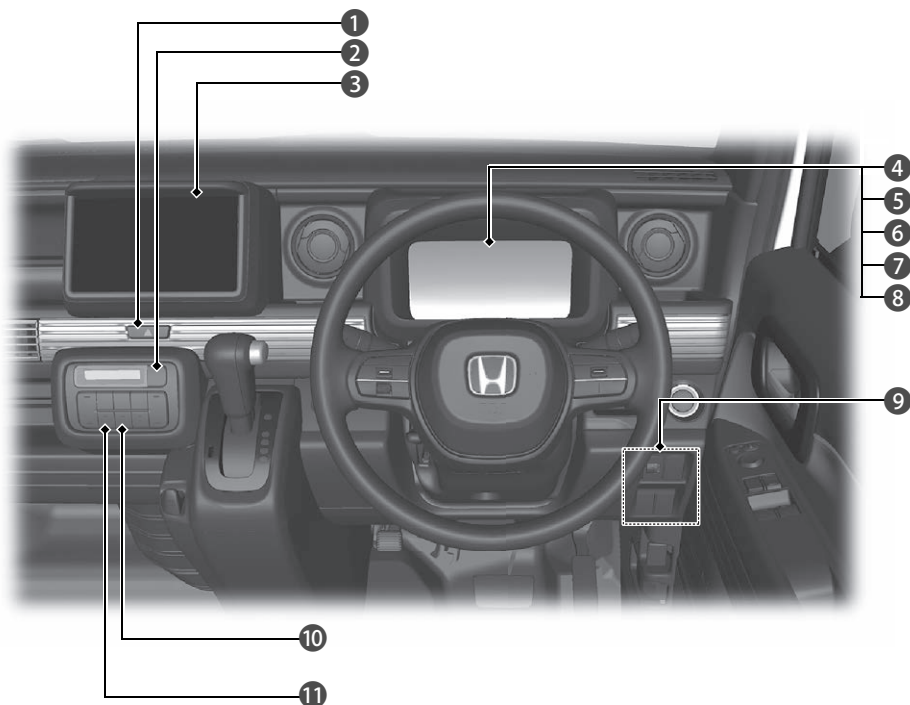
■ データの取り扱いについて

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車、レンタカーの場合は借主の同意）がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

ビジュアル目次

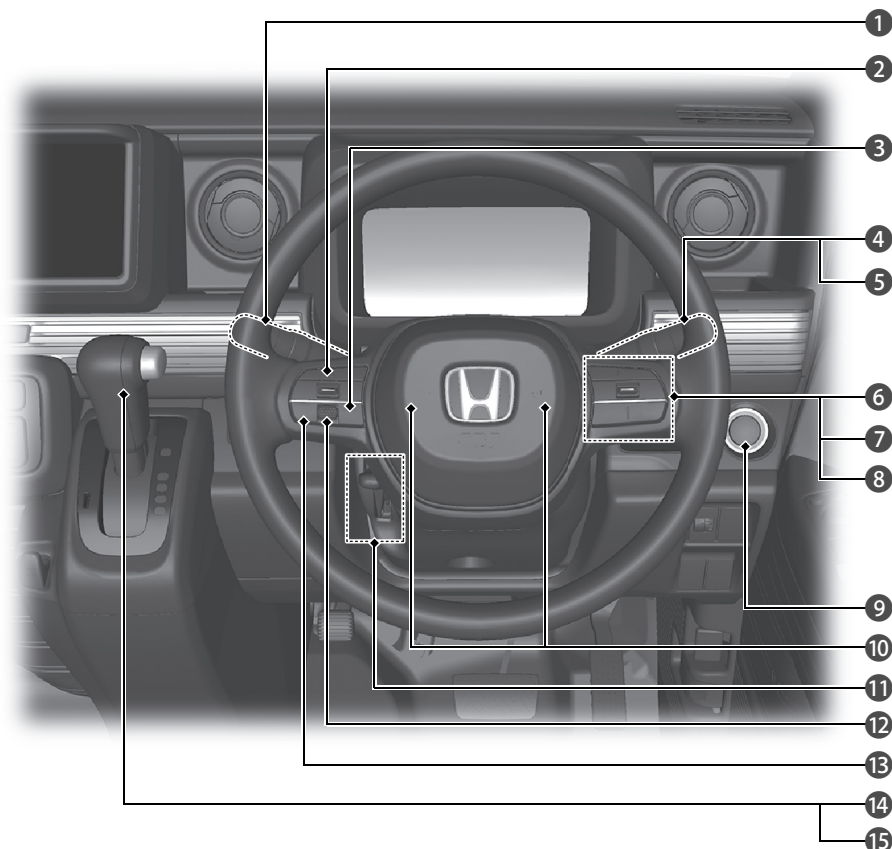


- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| ① 非常点滅表示灯(ハザードスイッチ) | ⑧ 時計 (P. 59) |
| ② オートエアコン (P. 97) | ⑨ ヘッドライトレベリングダイヤル (P. 73) |
| ③ ナビゲーションまたはオーディオ* | ⑩ リヤデフロスタースイッチ / |
| ④ メーター (P. 42) | ヒーテッドドアミラー* スイッチ (P. 78) |
| ⑤ 警告灯 (P. 33) | ⑪ デフロスタースイッチ (P. 97) |
| ⑥ 表示灯 (P. 38) | |
| ⑦ マルチインフォメーションディスプレイ (P. 42) | |

※: ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

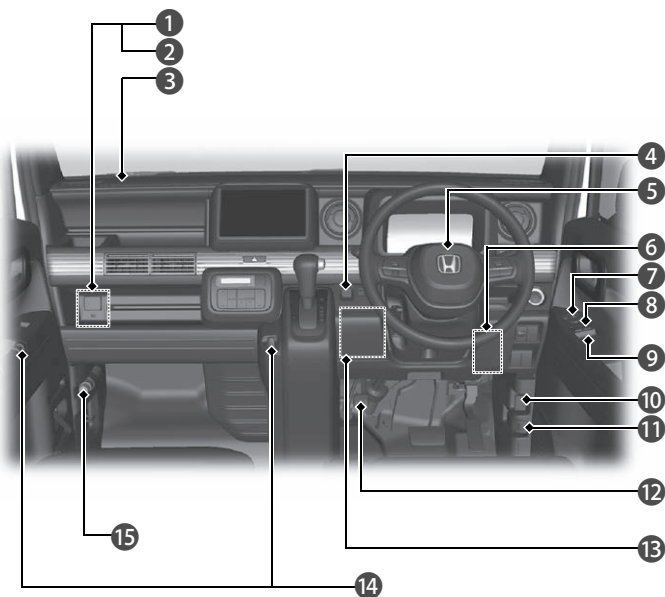


- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| ① ワイパー/ ウォッシャースイッチ (P. 76) | ⑧ LKAS スイッチ* (P. 155) |
| ② オーディオリモートコントロールスイッチ* | ⑨ ENGINE START/STOP スイッチ (P. 71) |
| ③ 発話スイッチ* | ⑩ ホーンスイッチ (トランペット 周辺) |
| ④ ライト / 方向指示器 (ウィンカー) スイッチ (P. 72) | ⑪ ハンドル位置調節レバー (P. 78) |
| ⑤ フォグライトスイッチ* | ⑫ レフトセクターホイール (P. 46) |
| ⑥ スイッチ* (P. 143) | ⑬ スイッチ (P. 46) |
| ⑦ ディスタンススイッチ* (P. 150) | ⑭ セレクトレバー* (P. 108) |
| | ⑮ チェンジレバー* (P. 110) |

※: ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

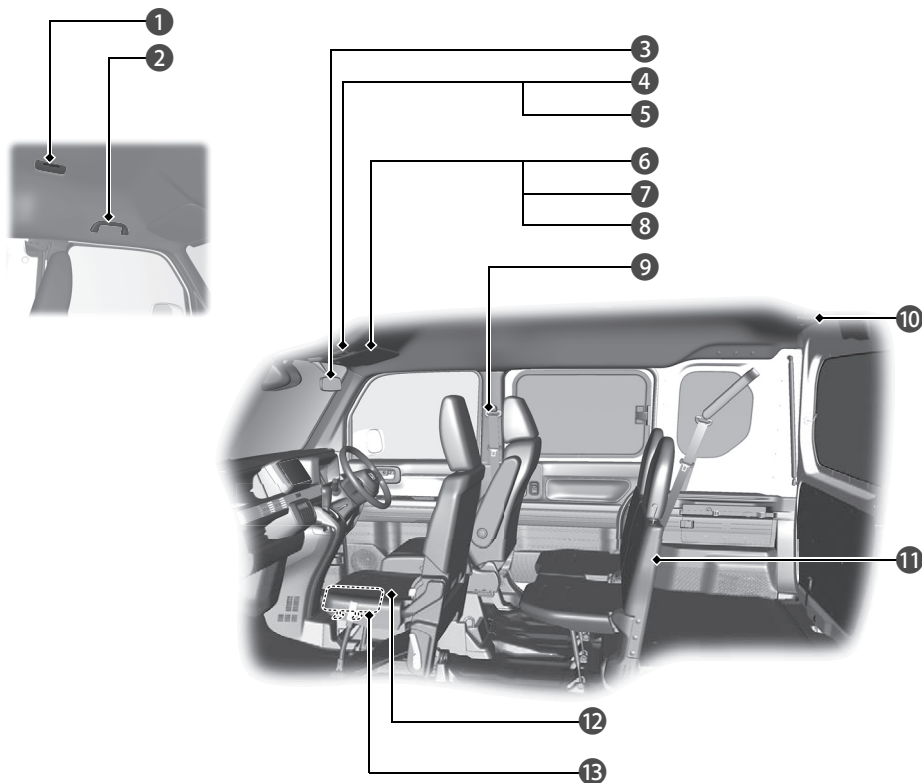
参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| ① USBジャック(充電専用)* (P. 93) | ⑨ パワーウィンドースイッチ (P. 69) |
| ② アクセサリーソケット (P. 93) | ⑩ フューエルリッドオープナー (P. 180) |
| ③ SRS エアバッグシステム(助手席用) (P. 19) | ⑪ ボンネット解除ノブ (P. 190) |
| ④ ECON スイッチ (P. 111) | 無段変速オートマチック車 |
| ⑤ SRS エアバッグシステム(運転席用) (P. 19) | ⑫ パーキングブレーキ (P. 171) |
| ⑥ 室内のヒューズボックス (P. 236) | マニュアル車 |
| ⑦ ドアミラー調節スイッチ* (P. 79) | ⑬ パーキングブレーキ (P. 172) |
| ⑧ マスタードアロックスイッチ* (P. 65) | ⑭ コンビニフック (P. 91) |
| | ⑮ 発炎筒 (P. 214) |

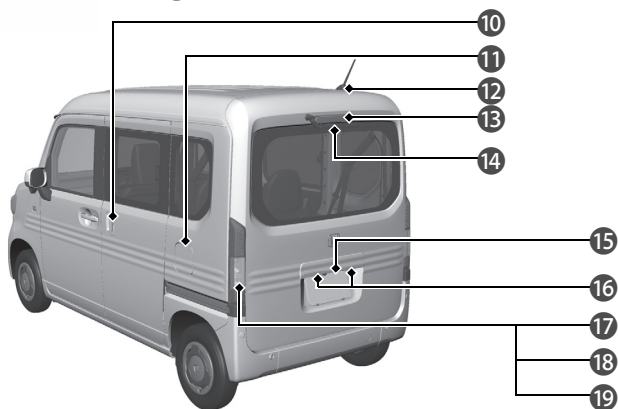
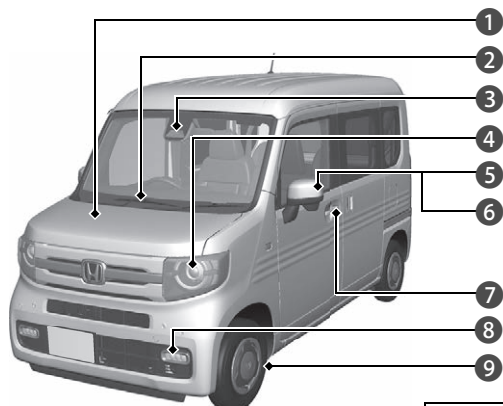
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| ① 助手席側室内灯* (P. 90, P. 198) | ⑧ バニティミラー* |
| ② グラブレール* | ⑨ シートベルト (P. 13) |
| ③ ルームミラー (P. 79) | ⑩ カーゴスペース照明灯
(P. 90, P. 199) |
| ④ 室内灯 (P. 90, P. 198) | ⑪ リヤシート (P. 86) |
| ⑤ マップランプ* (P. 90, P. 198) | ⑫ フロントシート (P. 80) |
| ⑥ サンバイザー | ⑬ フロアボード (P. 85) |
| ⑦ サンバイザーラベル (P. 23) | |

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



- ① エンジンルーム内のメンテナンス (P. 189)
- ② ワイパー (P. 76, P. 200)
- ③ フロントセンサーカメラ (P. 168)
- ④ ヘッドライト (P. 72, P. 193)
- ⑤ ドアミラー (P. 79)
- ⑥ サイドアンダーミラー (P. 80)
- ⑦ ドアの施錠 / 解錠 (P. 60)
- ⑧ フォグライト* (P. 195)
- ⑨ タイヤ (P. 202, P. 215)
- ⑩ スライドドアの開閉 (P. 67)

- ⑪ 給油のしかた (P. 180)
- ⑫ アンテナ (P. 99)
- ⑬ ハイマウントストップランプ (P. 197)
- ⑭ リヤワイパー (P. 77, P. 201)
- ⑮ テールゲートの開閉 (P. 66)
- ⑯ 番号灯 (P. 198)
- ⑰ 制動灯 / 尾灯 (P. 196)
- ⑱ ウィンカー (P. 197)
- ⑲ 後退灯 (P. 197)

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

目次

■はじめに	1	ドアの施錠と解錠	60
検索のしかた	1	キー	60
安全に関する表示	2	Honda スマートキーの 微弱電波	61
その他の表示	2	車外でのドアの施錠 / 解錠	63
車両データの記録	2	車内での施錠 / 解錠	65
■安全なドライブ	12	テールゲート	66
安全なドライブのために	12	テールゲート開閉時の注意	66
安全のための確認事項	12	スライドドア	67
シートベルト	13	スライドドア開閉時の注意	67
シートベルトについて	13	セキュリティシステム	67
シートベルトの着用	15	イモビライザーシステム	67
シートベルトの点検	18	セキュリティアラーム システム*	68
シートベルトの アンカーポイント	18	ウィンドーの開閉	69
エアバッグ	19	パワーウィンドーの開閉	69
エアバッグの種類	19	後席ウィンドーの開閉*	70
SRS エアバッグ	19	ハンドルまわりのスイッチ操作	71
エアバッグシステム警告灯	21	ENGINE START/STOP スイッチ	71
エアバッグのお手入れ	22	ライトの使いかた	72
衝突後ブレーキシステム	22	ヘッドライトレベリング ダイヤル	73
衝突後ブレーキシステム について	22	オートハイビーム	73
お子さまの安全	23	ワイパー / ウォッシャー	76
お子さまの安全を守るために	23	リヤデフロスター / ヒーテッドドア ミラー* スイッチ	78
乳幼児の安全	24	ハンドルの調節	78
大きなお子さまの安全	25	ミラー類の調節	79
排気ガスの危険性	30	ルームミラー	79
一酸化炭素について	30	ドアミラー	79
■計器の見かた	31	サイドアンダーミラー	80
警告灯と表示灯	31	シートの調節	80
警告灯	33	フロントシート	80
表示灯	38	リヤシート	86
メーターとマルチインフォメーション ディスプレイ	42	リアシートリマインダー	88
メーター	42	ヘッドレスト	89
マルチインフォメーション ディスプレイ	45	アームレスト*	90
■各部の操作	59	室内灯	90
時刻 / 日付の設定	59	収納装備	90
時計の時刻 / 日付を 合わせる*	59	その他の室内装備品	93

エアコン	96	フロントワイドビュー	
エアコンの吹き出し口	96	カメラ	168
オートエアコンの使いかた	97	ソナーセンサー	170
オートエアコンのセンサー	98	ブレーキ操作	171
■オーディオ	99	ブレーキシステム	171
オーディオ装置	99	ABS（アンチロックブレーキシステム）	173
アンテナ	99	電子制御ブレーキアシスト	174
■運転	100	エマージェンシーストップ	
運転の前に	100	シグナル	175
運転の準備	100	駐停車操作	176
運転操作	102	駐車する	176
エンジンの始動	102	パーキングセンサー	
走行時の注意点	105	システム	177
無段変速オートマチック		給油	180
について	107	指定燃料について	180
シフト操作	108	給油のしかた	180
シフト操作	110	ターボ車* について	183
ECON スイッチ	111	取り扱い	183
アイドリングストップシステム（無		■メンテナンス	184
段変速オートマチック車）	111	メンテナンスの前に	184
アイドリングストップシステム		点検整備について	184
（マニュアル車）	114	メンテナンスを安全に	
VSA（ビークルスタビリティ		行うために	184
アシスト）	117	メンテナンスに関する	
4WD（四輪駆動機構）*	118	注意事項	185
Honda SENSING	119	オイルメンテナンス表示*	186
各機能を作動させるための		オイルメンテナンス情報の	
スイッチと表示	120	表示	186
衝突軽減ブレーキ		オイルメンテナンス表示の	
（CMBS）	121	リセットのしかた	188
踏み間違い衝突軽減		エンジンルーム内の	
システム*	129	メンテナンス	189
急アクセル抑制機能*	131	エンジンルーム内のメンテナンス	
路外逸脱抑制機能	134	項目	189
歩行者事故低減		ボンネットを開ける	190
ステアリング	139	推奨エンジンオイル	191
アダプティブクルーズコントロール		ウィンドウウォッシャー液の	
（ACC）*	143	補給	192
車線維持支援システム		電球の交換	193
（LKAS）*	155	ヘッドライト電球	193
先行車発進お知らせ機能	161		
標識認識機能	164		

前面方向指示器 / 前面非常点滅		
表示灯電球	194	
車幅灯電球*	195	
アクセサリライト /		
車幅灯電球*	195	
フォグライト電球*	195	
側面方向指示器 / 側面非常点滅		
表示灯電球	196	
制動灯 / 尾灯電球	196	
後面方向指示器 / 後面非常点滅		
表示灯電球、後退灯電球	197	
ハイマウントストップランプ		
電球	197	
番号灯電球	198	
その他の電球	198	
ワイパーブレードラバーの		
点検と整備	200	
ワイパーブレードラバーの		
点検	200	
フロントワイパーブレードラバーの		
交換	200	
リヤワイパーブレードラバーの		
交換	201	
タイヤの点検と整備	202	
タイヤの点検	202	
タイヤとホイールの交換	204	
タイヤのローテーション	205	
冬期のタイヤ	206	
Honda スマートキー	206	
Honda スマートキーの取り扱いと		
電池交換	206	
エアコンのお手入れ	208	
エアクリンフィルター*	208	
清掃	208	
車内の清掃	208	
車外の清掃	210	
アクセサリーと改造	212	
アクセサリー	213	
改造や部品交換について	213	
■万一の場合には	214	
工具、発炎筒	214	
工具の種類	214	
発炎筒	214	
パンクしたとき	215	
パンクしたタイヤの交換	215	
エンジンが始動しない	224	
エンジン状態の確認	224	
Honda スマートキーの電池が		
切れたとき	225	
緊急時のエンジン始動方法	225	
緊急時のエンジン停止方法	226	
バッテリーがあがったとき	226	
ジャンプスタートの方法	226	
セレクトレバーが動かない	229	
オーバーヒート	230	
オーバーヒートしたときの		
対処方法	230	
警告灯の点灯 / 点滅	231	
「エンジン油圧異常」の警告		
メッセージが表示された	231	
充電警告灯が点灯した	232	
PGM-FI 警告灯が		
点灯 / 点滅した	232	
ブレーキ警告灯 (レッド) が		
点灯した	233	
EPS (電動パワーステアリング)		
システム警告灯が点灯した	233	
ヒューズ	234	
ヒューズの設置場所	234	
ヒューズの点検と交換	238	
けん引	239	
非常時のけん引	239	
テールゲートが開かないとき	242	
■こんなときは	244	
■資料	246	
仕様	246	
仕様	247	
オープンソースライセンス	249	
■索引	250	

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
 - ❑ 車内での施錠 / 解錠 P.65
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
 - ❑ フロントシート P.80
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ インストールメントパネルからできるだけ離れるように、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
 - ❑ フロントシート P.80
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
 - ❑ シートベルトの着用 P.15
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
 - ❑ エアバッグ P.19
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
 - ❑ お子さまの安全 P.23
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]またはチェンジレバーを上り坂の場合[1]、下り坂と平地の場合[R]にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
 - ❑ シフト操作 P.108, 110
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
 - ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

❑ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.42

フロントシート助手席側のシートを倒して荷室として使用する場合は、重量物の積載は避けて下さい。

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■ 三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■ シートベルトの着用

シートベルトの着用に当たっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください

■ シートベルトリマインダー



パワーモードを ON モードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーや警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- 助手席シートに荷物などを置いたままシートバックを倒さないでください。センサーの誤作動や破損のおそれがあります。
- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。

無段変速オートマチック車

- セレクトレバーを[R]に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。

シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



⚠ 注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはない。

誤作動や故障の原因となります。

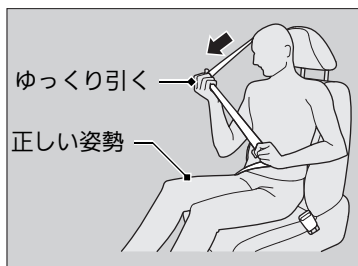
シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

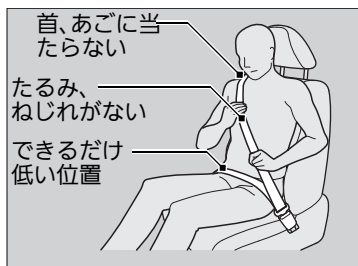
シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



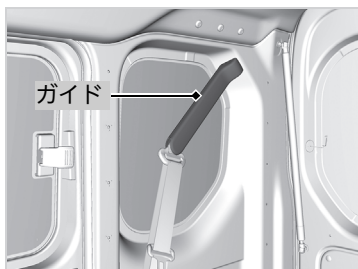
4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

⚠ 警告

シートベルト着用時にアームレストに引っ掛けない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

リヤシートのショルダーアンカー部のガイドを引っばるなどして、シートベルト引き出し方向以外に強い力をかけないでください。ガイドが変形することがあります。



シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

⚠ 注意

助手席の同乗者がシートベルトを着用中に助手席側のドアの開閉を行わない。

シートベルトがロックする場合があります、締め付けられて思わぬけがをするおそれがあります。ドアの開閉はシートベルトを外してから行ってください。

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

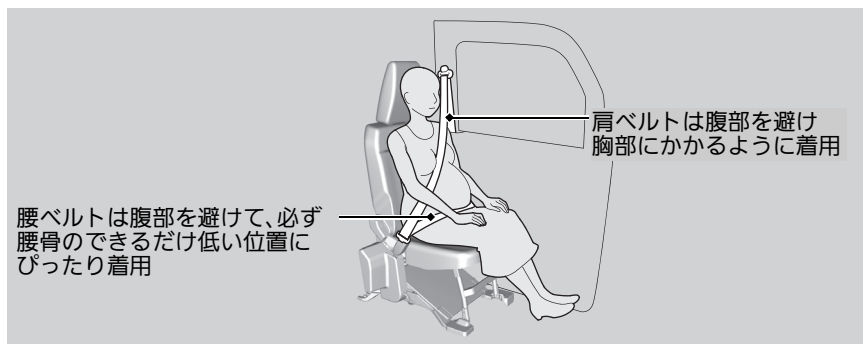
シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかり引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

- ❑ シートベルトについて P.13
- ❑ シートベルトの点検 P.18

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⚠ 注意

助手席の同乗者がシートベルトを着用中に助手席側のドアの開閉を行わない。

シートベルトがロックする場合があります、締め付けられて思わぬけがをするおそれがあります。ドアの開閉はシートベルトを外してから行ってください。

⚠ 注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合はシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにする

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。

点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント

フロントシート



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。

フロントシートには三点式シートベルトが使われています。

リヤシート



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグ

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。

- **SRS エアバッグ**: フロントシートの前方向エアバッグ

警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

この車にはイベントデータレコーダー (EDR) が装備されています。

SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。

■ 車両データの記録 P.2

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS: サプリメンタルレストRAINTシステム (Supplemental Restraint System) の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■ 格納場所

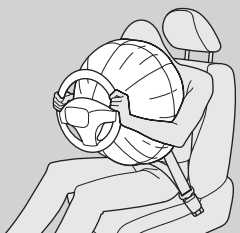
運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

■ SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの车速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRSエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果が無いので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

⚠ 警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

⚠ 注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■ エアバッグシステム警告灯



■ パワーモードを ON モードにしたとき
パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■ 異常が発生したとき
エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■ エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

衝突後ブレーキシステム

衝突後ブレーキシステムについて

エアバッグシステムが衝突を検知して作動したとき、衝突後ブレーキシステムがブレーキをかけるとともに駆動力を抑制させ、二次衝突による被害を軽減します。

このシステムの作動で必ずしも二次衝突の被害を軽減できるとは限りません。事故の状況によって変わります。

衝突が発生した場合は、周囲の状況を確認し、適切に車両を操作して停車させて下さい。

マニュアル車

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。
エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。

■ エンジンの始動 P.102

■ 衝突後ブレーキシステムの作動条件

走行中に前方向または横方向からの衝突により、エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが作動したときに衝突後ブレーキシシステムが作動します。

ただし、システムを構成する部品が破損している場合は作動しません。

■ 衝突後ブレーキシシステムの解除条件

衝突後ブレーキシシステムが作動したとき、次のいずれかの条件でシステムが解除されます。

- 車両が停車したとき
- アクセルペダルを離れたあとに踏み込んだとき

お子さまの安全**お子さまの安全を守るために**

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドーなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドーなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

ジュニアシートは後席に設置する。

助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

この車に設置することはできません。

⚠ 警告

お子さまは助手席に乗せない。

助手席にチャイルドシート、ジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下する場合があります、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

お子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

■ 幼児のチャイルドシート

この車に設置することはできません。

⚠ 警告

お子さまは助手席に乗せない。

助手席にチャイルドシート、ジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下する場合があります、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

お子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

大きなお子さまの安全

■ シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■ 確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

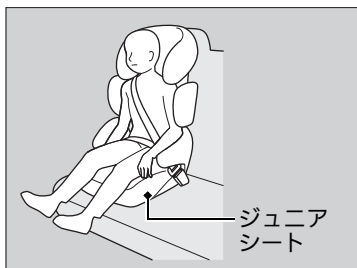
⚠ 警告

お子さまは助手席に乗せない。

- 助手席にジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下のおそれがあり、重大な傷害を負ったり死亡したりすることがあります。
- お子さまはジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

❏ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合 P.29

■ ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ ジュニアシートの選びかた

■ ジュニアシート選択の条件

ジュニアシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

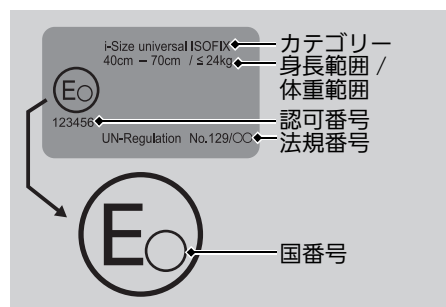
- ジュニアシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
 - ジュニアシートが取り付けの車の座席にあったものであること
 - ジュニアシートが安全基準に適合したものであること
- UN R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■ ジュニアシートの規格

UN 基準の認可を受けたジュニアシートには、認可マークが表示されています。ジュニアシートについている認可マークを確認してください。

Honda純正のジュニアシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

UN R129 認可表示(例)



■ シート位置別チャイルドシート情報



	添付のリストに記載された特定幼児拘束装置に適している。これらの拘束装置は、「特定車両」「限定」または「準標準」カテゴリーのいずれでもよい。
	後ろ向きのチャイルドシート装着禁止
	チャイルドシートの取り付け不可

- *1シートベルトで固定が可能です。
*2シートベルトで固定が可能です。取り付ける場合、運転席のシートポジションによっては、使用できない可能性があります。

			シートの位置及びシート位置 番号		
			①	②	③
	サイズグループ 重量 身長		助手席	後席 (左側)	後席 (右側)
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	グループ 0	10kg 以下	無	無	無
	グループ 0+	13kg 以下			
	グループ I	9 – 18kg	無	無	無
	グループ II	15 – 25kg			
	グループ III	22 – 36kg			
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	150cm 以下		無	無	無
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）*3	Honda 純正チャイルドシートリスト 参照		無	有*1	有*2
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	—		無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	グループ 0	10kg 以下	無	無	無
	グループ 0+	13kg 以下			
	グループ I	9 – 18kg			
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	グループ I	9 – 18kg	無	無	無
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	150cm 以下		無	B3	B3

*1: シートベルトで固定が可能です。

*2: シートベルトで固定が可能です。取り付ける場合、運転席のシートポジションによっては、使用できない可能性があります。

*3: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。

Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります。チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

⚠ 警告

シートベルトは必ず正しく着用する

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■ 推奨チャイルドシート

日本純正チャイルドシートリスト

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

2 計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯

警告灯や表示灯は、車両状態に応じて点灯 / 点滅します。

点灯 / 点滅と同時にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従いHonda販売店に連絡するなどして対処してください。

 ※1	ブレーキ警告灯(レッド)	P.33
 ※1	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	P.33
 ※1	PGM-FI 警告灯	P.33
 ※1	充電警告灯	P.34
 ※1	シートベルト非着用警告灯	P.34
 ※1	トランスミッション警告灯*	P.34
 ※1	燃料残量警告灯(オレンジ)	P.34
 ※1	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	P.34
 ※1	エアバッグシステム警告灯	P.34
 ※1	VSA(ピークルスタビリティアシスト)警告灯	P.35
 ※1	VSA OFF 警告灯	P.35
 ※1	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	P.35

 ※1	パーキングセンサー警告灯	P.35
 ※1	方向指示器 / 非常点滅表示灯	P.38
 ※1	ライト点灯表示灯	P.38
 ※1	ハイビーム表示灯	P.38
 ※1	オートハイビーム表示灯	P.38
 ※1	フォグライト点灯表示灯*	P.38
 ※1	低水温表示灯	P.39
 ※1	急アクセル抑制機能表示灯*	P.39
 ※1	シフトポジション表示灯*	P.39
 ※1	ECON モード表示灯	P.40
 ※1	インフォメーション表示灯	P.40
 ※1	クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)*	P.41

※1: これらの警告灯と表示灯は、パワーモードをONモードにしたときに点灯し、エンジン始動後または、数秒後に消灯します。

点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

この「※」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

 ※1	アイドリングストップ システム警告灯(オレンジ)	P.35
	アイドリングストップ 表示灯(グリーン)	P.40
 ※1	アダプティブクルーズ コントロール(ACC)警告灯 (オレンジ)*	P.36
	アダプティブクルーズ コントロール(ACC)表示灯 (ホワイト / グリーン)*	P.40
 ※1	車線維持支援システム (LKAS)警告灯(オレンジ)*	P.36
	車線維持支援システム (LKAS)表示灯 (ホワイト / グリーン)*	P.40
 ※1	衝突軽減ブレーキ(CMBS) 警告灯(オレンジ)	P.36
	衝突軽減ブレーキ(CMBS) 表示灯(グレー)	P.41
 ※1	路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ)	P.36
	路外逸脱抑制機能表示灯 (グレー)	P.41
	路外逸脱抑制機能操舵 アシスト一時停止警告灯	P.36
 ※1	安全支援情報警告灯 (オレンジ)	P.37
	安全支援情報表示灯 (グリーン / グレー)	P.41
○	イモビライザーシステム 表示灯	P.39
○	セキュリティアラーム システム作動表示灯*	P.39

※1: これらの警告灯と表示灯は、パワーモードをONモードにしたときに点灯し、エンジン始動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯 (レッド)	• パーキングブレーキをかけると点灯	• パワーモードがアクセサリモードまたはOFFモードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードをOFFモードにするとしばらく点灯した後、消灯
		• ブレーキフルード量が低下したときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は Honda 販売店にご連絡ください。 ☑ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.233
		• ブレーキシステムが異常のときに点灯	• ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.233
	ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。
	PGM-FI 警告灯	• エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	☑ PGM-FI警告灯が点灯/点滅した P.232

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	充電警告灯	充電システムに異常があるときに点灯	- 走行できません。ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ❑ 充電警告灯が点灯した P.232
	シートベルト非着用警告灯	- 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 - 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	- シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 - シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ❑ シートベルトリマインダー P.14
	トランスミッション警告灯*	トランスミッションが異常のときに点滅	ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	燃料残量警告灯(オレンジ)	燃料の残量が少なくなると点灯	- 点灯したら早めに給油してください。 - 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 4.0 リットル(2WD 車)、3.7 リットル(4WD 車)になったときです。
		燃料計に異常があるときは点滅	ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	ABS が異常のときに点灯	- ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ❑ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.173
	エアバッグシステム警告灯	エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯	ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• VSA が作動しているときは点滅 • VSAシステム、ヒルスタートアシストシステム、電子制御ブレーキアシスト、発進補助ブレーキ機能* のいずれかが異常のときに点灯	— • ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➡ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.117
	VSA OFF警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	➡ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.117
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• EPS システムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した P.233
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	• アイドリングストップシステムに異常があるときに点滅	• 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	パーキングセンサー警告灯	• パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅	➡ パーキングセンサーシステム P.177

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)*	• ACC システムが異常のときに点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)*	• LKAS が異常のときに点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	• CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ☒ 安全支援情報警告灯(オレンジ) P.37
	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ☒ 安全支援情報警告灯(オレンジ) P.37
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	• 路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯	☒ 路外逸脱抑制機能 P.134

この「※」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム*、CMBS が異常のときに点灯	ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		パーキングセンサーが異常のときに点灯	- パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても点灯する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 ❑ パーキングセンサーシステム P.177
		フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。
		フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点灯することがあります	- 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 - 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 - 汚れが落ちるとシステムは復帰します。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援 情報警告 灯(オレンジ)	- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 無段変速オートマチック車 - ソナーセンサーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があると点灯	- 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 - 踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。安全な場所に停車してバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ❑ ソナーセンサー P.170 ❑ 踏み間違い衝突軽減システム* P.129

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示 器/非常点 滅表示灯	- 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 - 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 - 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	- 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ❑ 電球の交換 P.193 ❑ エマージェンシーストップシグナル P.175
	ライト点 灯表示灯	車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	❑ ライトの使いかた P.72
	ハイビーム表示灯	ヘッドライトのハイビームが点灯しているときに点灯	—
	オートハイビーム表示灯	オートハイビームの作動条件がそろったときに点灯	❑ オートハイビーム P.73
	フォグライト点灯表示灯*	フォグライトを点灯させると点灯	—

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	低水温表示灯	エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。
	急アクセル抑制機能表示灯*	急アクセル抑制機能が ON のときに点灯	急アクセル抑制機能* P.131
表示灯	イモビライザーシステム表示灯	ENGINE START/STOP を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	ENGINE START/STOP を押したあと、点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 - 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 ENGINE START/STOP のそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
表示灯	セキュリティアラームシステム作動表示灯*	セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	セキュリティアラームシステム* P.68
	シフトポジション表示灯*	現在のポジションで点灯	シフト操作 P.108

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	アイドリングストップ表示灯 (グリーン)	アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	➤ アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車) P.111 ➤ アイドリングストップシステム(マニュアル車) P.114
	ECON モード表示灯	ECON モードが ON のときに点灯	➤ ECON スイッチ P.111 無段変速オートマチック車 ➤ アイドリングストップシステムの ON/OFF P.112 マニュアル車 ➤ アイドリングストップシステムの ON/OFF P.115
	インフォメーション表示灯	異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	- メッセージは警告が解除されるか、 スイッチを押すまで通常表示に戻りません。 - 点灯しているときに を押し、「警告メッセージ」を選択すると、メッセージを再表示させることができます。 ➤ 表示の切り換えかた P.46
	アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯 (ホワイト / グリーン)*	- ACC が待機中のときにホワイトで点灯 - ACC が作動中で先行車を検知していないとホワイト / グリーンで点灯 - ACC が作動中で先行車を検知しているとグリーンで点灯	➤ アダプティブクルーズコントロール(ACC)* P.143
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯 (ホワイト / グリーン)*	- LKAS が待機中のときにホワイトで点灯 - LKAS が作動するとグリーンで点灯	➤ 車線維持支援システム(LKAS)* P.155

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	クルーズコントロール表示灯 (ホワイト / グリーン)*	- クルーズモードが設定されたときにホワイトで点灯 - クルーズモードが作動するとグリーンで点灯	➤ クルーズモードへの切換え P.153
	衝突軽減ブレーキ (CMBS) 表示灯 (グレー)	CMBS を OFF にしているときに点灯	➤ 安全支援情報 P.51
	路外逸脱抑制機能表示灯 (グレー)	路外逸脱抑制機能を OFF にしているときに点灯	➤ 安全支援情報 P.51
	安全支援情報表示灯 (グリーン / グレー)	- 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム*、CMBS、パーキングセンサー警報が ON のときにグリーンで点灯 - いずれかが ON のときにグリーン / グレーで点灯 - すべてが OFF のときにグレーで点灯	➤ 衝突軽減ブレーキ (CMBS) P.121 ➤ 踏み間違い衝突軽減システム* P.129 ➤ 歩行者事故低減ステアリング P.139 ➤ 路外逸脱抑制機能 P.134 ➤ パーキングセンサーシステム P.177

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

無段変速オートマチック車

アンビエントメーター (P. 43)

マニュアル車

アンビエントメーター (P. 43)

マニュアル車

タコメーター (P. 45)

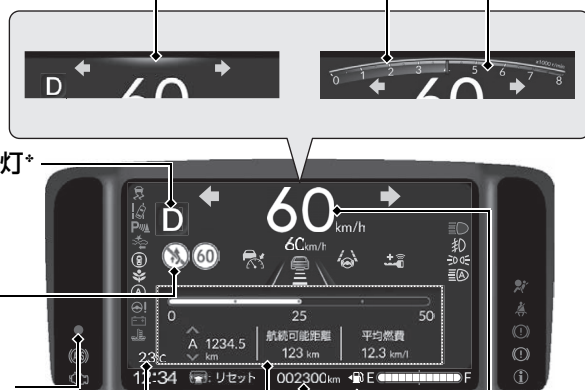
シフトポジション表示灯*
(P. 39)
(トランスミッション
警告灯* (P. 34))

標識認識機能表示
(P. 44)

セキュリティアラーム
システム作動表示灯* (P. 39)
(イモビライザーシステム表示灯
(P. 39))

外気温表示 (P. 43)

マルチインフォメーションディスプレイ
(P. 45)



スピードメーター (P. 42)

燃料計 (P. 43)

オドメーター (P. 43)

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■ スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

アドバイス

燃料計が **E** に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

少量給油(約 5L 以下)を行ったときや車両の状況によっては、実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合があります。

■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

マルチインフォメーションディスプレイで「シンプル」を選択しているときはオドメーターは表示されません。

🔍 表示の切り換えかた P.46

■ アンビエントメーター

運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

無段変速オートマチック車

クルーズコントロール、もしくは ACC および LKAS の状態を表示しているときは、アンビエントメーターは表示されません。

🔍 メーターの表示 P.120

■ 外気温表示

外気温を測定し表示します。

■ 外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。補正するには、マルチインフォメーションディスプレイの車両設定を使用します。

🔍 時計*/車両設定 P.54

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が3℃以下の場合は、外気温低下メッセージがホワイトで表示されます。

運転中に外気温が3℃以下に低下した場合は、外気温低下メッセージがオレンジで表示されます。



■ 標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。

認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

🔍 標識認識機能 P.164

■ 時計

時刻を表示します。

時計表示(24h/12h)*を変えたり時刻調整*をすることができます。

🔍 時計*/車両設定 P.54

無段変速オートマチック車

■ アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)表示

アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)の現在の状態を表示します。

🔍 アダプティブクルーズコントロール(ACC)* P.143

🔍 車線維持支援システム(LKAS)* P.155

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

エンジンの限界回転数は、7,000rpm です。

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、燃料供給が停止されます。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、航続可能距離や燃費などの情報や、車両状態などのメッセージが表示されます。

警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。

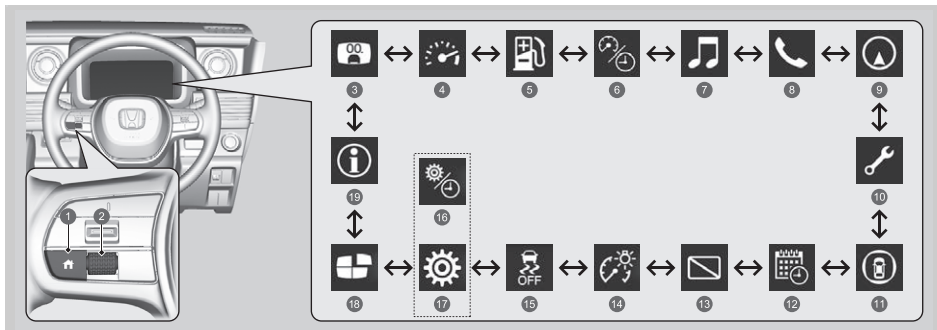
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン油圧異常」または、「エンジン冷却水高温」が表示した場合は、下記を参照してください。

■ 「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された P.231

■ オーバーヒート P.230

■ 表示の切り換えかた

 スイッチを押し、レフトセクターホイールを回すと表示が切り換わります。レフトセクターホイールを押して決定してください。



- | | | |
|--|-----------------|-------------------|
| ①  スイッチ | ⑦ オーディオ* P.50 | ⑭ 明るさ設定 P.52 |
| ② レフトセクターホイール | ⑧ 電話* P.50 | ⑮ VSA モード設定 P.53 |
| ③ シンプル P.46 | ⑨ ナビゲーション* P.50 | ⑯ 時計 / 車両設定* P.54 |
| ④ 無段変速オートマチック車 | ⑩ メンテナンス* P.50 | ⑰ 車両設定* P.54 |
| タコメーター P.46 | ⑪ 安全支援情報 P.51 | ⑱ メーター表示設定 P.53 |
| ⑤ 航続距離 / 燃費 P.47 | ⑫ カレンダー P.52 | ⑲ 警告メッセージ P.54 |
| ⑥ 車速 / 経過時間 P.49 | ⑬ 表示なし | |

■ シンプル

シンプルモードを選ぶことで、メーター表示を必要最小限に設定することができます。

無段変速オートマチック車

■ タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

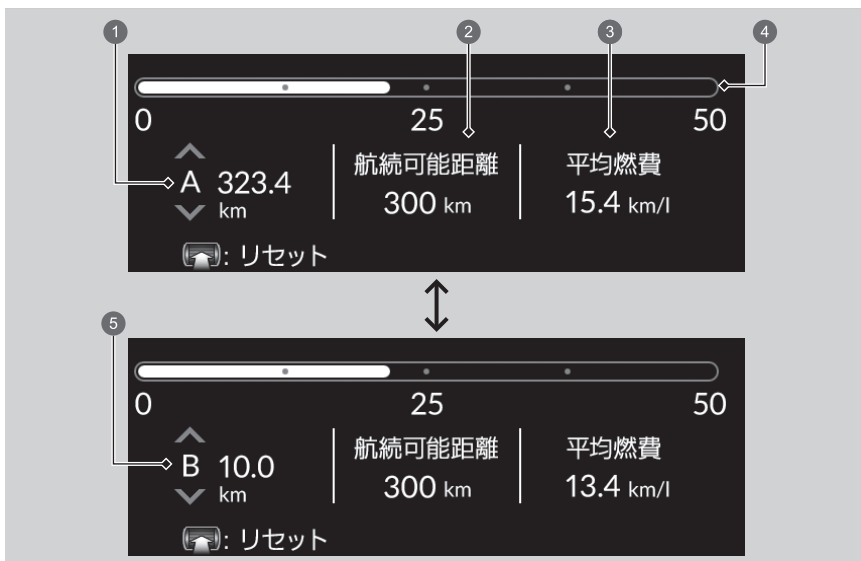
特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

シフトポジションが **R** のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 航続距離 / 燃費 / トリップメーター

レフトセレクトホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



- ① トリップメーターA
- ② 航続可能距離
- ③ 平均燃費
- ④ 瞬間燃費
- ⑤ トリップメーターB

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。

トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でレフトセレクトホイールを押し、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

■ 平均燃費表示

トリップメーターA、Bと連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新してkm/lで表示します。

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

🔍 時計*/車両設定 P.54

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

■ 瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■ 航続可能距離表示

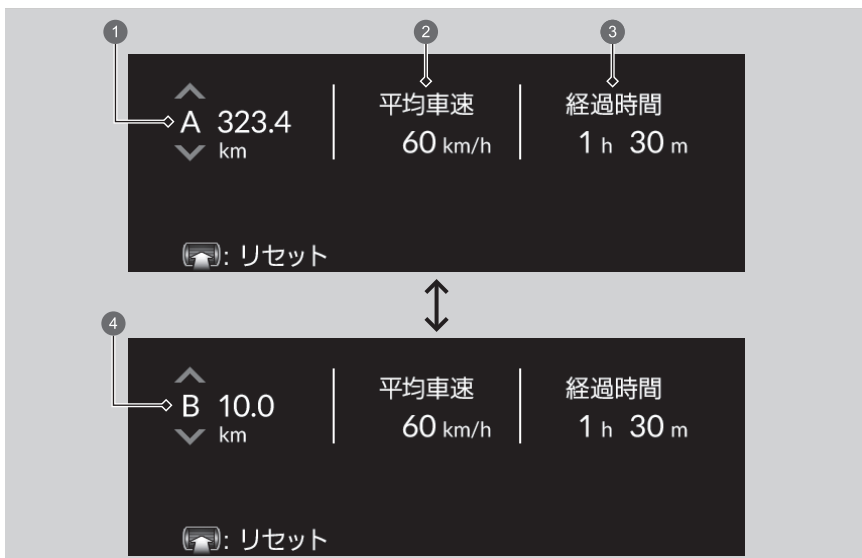
燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 車速 / 経過時間 / トリップメーター

レフトセレクトホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



- ① トリップメーターA
- ② 平均車速
- ③ 経過時間
- ④ トリップメーターB

■ トリップメーター

📖 トリップメーター P.47

■ 経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

経過時間表示は 999 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

📖 時計* / 車両設定 P.54

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

🔍 時計* / 車両設定 P.54

■ オーディオ*

各種音楽メディアの表示を行います。

■ 電話*

ハンズフリー電話の表示を行います。

■ ナビゲーション*

■ コンパス

コンパスが表示されます。

■ 交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

🔍 時計* / 車両設定 P.54

■ メンテナンス*

エンジンオイルの交換までの距離を表示します。

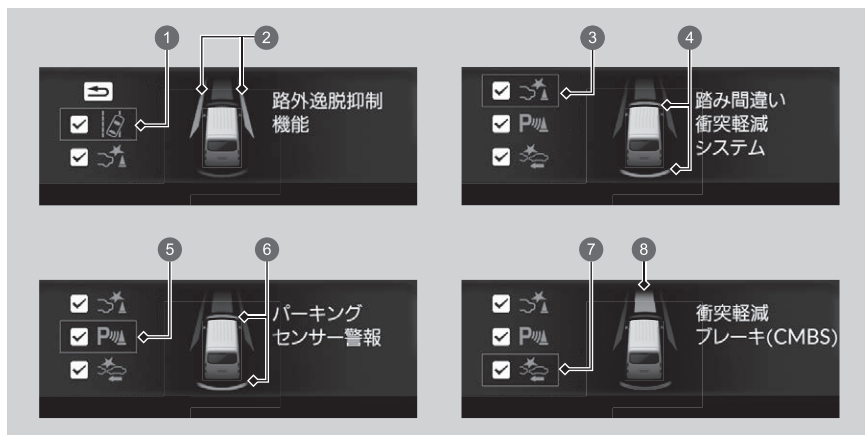
🔍 オイルメンテナンス表示* P.186

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム*、衝突軽減ブレーキ、パーキングセンサー警報の作動状態を表示します。

- グリーン: 作動中
- グレー: 停止中
- オレンジ: システムが異常のとき



- ① 路外逸脱抑制機能アイコン
- ② 路外逸脱抑制機能作動状態
- ③ 踏み間違い衝突軽減システムアイコン*
- ④ 踏み間違い衝突軽減システム作動状態*
- ⑤ パーキングセンサー警報アイコン
- ⑥ パーキングセンサー警報作動状態
- ⑦ 衝突軽減ブレーキアイコン
- ⑧ 衝突軽減ブレーキ作動状態

オレンジで表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

各機能の ON と OFF を切り換えるには、レフトセクターホイールを回して機能を選択し、次にレフトセクターホイールを押して ON/OFF を切り換えます。

- ❑ 路外逸脱抑制機能 P.134
- ❑ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.121
- ❑ 踏み間違い衝突軽減システム* P.129
- ❑ 歩行者事故低減ステアリング P.139
- ❑ パーキングセンサーシステム P.177

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

各機能の状態は、警告灯・表示灯でも確認できます。

- ❑ 路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) P.36
- ❑ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 P.36
- ❑ 路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) P.41
- ❑ 衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ) P.36
- ❑ 衝突軽減 ブレーキ (CMBS) 表示灯 (グレー) P.41
- ❑ 安全支援情報警告灯(オレンジ) P.37
- ❑ 安全支援情報表示灯 (グリーン / グレー) P.41

パーキングセンサー警報アイコンが緑色のときでも「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後方のパーキングセンサー警報は作動しません。

- ❑ 時計*/車両設定 P.54

無段変速オートマチック車

踏み間違い衝突軽減システムアイコンが緑色のときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

- ❑ 時計*/車両設定 P.54

■ カレンダー

日付、時刻を表示します。

- ❑ 時計*/車両設定 P.54

カレンダーの背景はランダムに表示します。
背景の ON/OFF を選択することができます。

- ❑ 時計*/車両設定 P.54

誕生日や記念日を設定することができます。

- ❑ 時計*/車両設定 P.54

設定した日付にパワーモードを ON モードにするとメッセージを表示します。

■ 明るさ設定

メーターの明るさ設定を表示します。

レフトセレクトアホイールを回して明るさ調整を行います。

明るくする:レフトセレクトアホイールを上に戻す

暗くする:レフトセレクトアホイールを下に戻す

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

レフトセクターホイールを押すと設定が完了します。

車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。

- 周囲が暗いときは照明が暗くなる
- 周囲が明るいときは照明が明るくなる

周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

■ VSA モード設定

VSA の ON/OFF を選択することができます。



レフトセクターホイールを回して「TCS 制限モード」を選択し、押して ON と OFF を切り換えます。

■ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.117

■ メーター表示設定

機能の表示 / 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。



1. 「メーター表示設定」の画面が表示されますので、レフトセクターホイールを回す。
2. レフトセクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択する。



3. レフトセクターホイールを押して決定する。
 - ▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。

無段変速オートマチック車

設定変更するときはシフトポジションを **P** にしてください。

マニュアル車

設定変更するときはパーキングブレーキをかけてください。

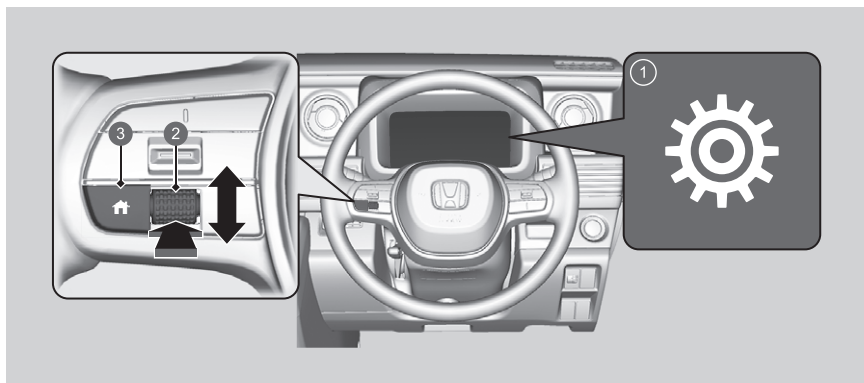
■ 警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

複数のメッセージがある場合は、レフトセクターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。

■ 時計*/車両設定

パワーモードがON モードでシフトポジションが **P** のとき(無段変速オートマチック車) / パーキングブレーキがかかっているとき(マニュアル車)に、**⌂** スイッチを押し、レフトセクターホイールを回して、**⚙** を選択します。レフトセクターホイールを押したあと、レフトセクターホイールを回すと、設定を変更することのできる「グループ」画面に切り換わります。



① マルチインフォメーションディスプレイ

② レフトセクターホイール

- 回す: 選択する
- 押す: 決定する

③ **⌂** スイッチ

📖 設定項目 P.55

📖 カスタマイズ設定の例 P.57

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 設定項目

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせて設定を変更することができます。

項目	選択できる設定内容	
時計設定*	日付調整*	年(2020 ~ 2200)、月(1 ~ 12)、日(01 ~ 31)
	時刻調整*	時間(1 ~ 12) ^{※1} /(0 ~ 23)、分(00 ~ 59)
	時計表示*	24h、12h ^{※1} 、非表示
運転支援システム設定	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警報距離	遠め、標準 ^{※1} 、近め
	ACC 先行車検知音*	有り、無し ^{※1}
	先行車発進お知らせ設定	標準 ^{※1} 、早め、OFF
	路外逸脱抑制機能設定	アシストタイミング早め、アシストタイミング標準 ^{※1} 、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	LKAS(車線維持支援システム)制御解除警報音*	ON、OFF ^{※1}
	標識認識機能表示	ON ^{※1} 、OFF
	標識認識機能速度超過お知らせ	ON ^{※1} 、OFF
	標識認識機能速度超過量	+0km/h ^{※1} 、+5km/h、+10km/h、+15km/h
	リアパーキングセンサー警報設定	ON ^{※1} 、OFF

※1: 工場出荷時の設定

この「※」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

項目	選択できる設定内容	
メーター設定	外気温表示補正	-3℃～±0℃※1～+3℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF時、手動のみ※1
	TRIP B 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF時、手動のみ※1
	アラーム音量※2	大、中※1、小
	アンビエントメーター照明色変化設定※2	ON※1、OFF
	アイドリングストップ状態表示※2	ON※1、OFF
	交差点案内表示※2	ON※1、OFF
	リアシートリマインダー※2	ON※1、OFF
	タイヤ角度モニター※2	ON※1、OFF
	カレンダー背景※2	ON※1、OFF
	誕生日設定 1※2	月(---※1、1～12)、日(---※1、01～31)
	誕生日設定 2※2	月(---※1、1～12)、日(---※1、01～31)
	記念日設定 1※2	月(---※1、1～12)、日(---※1、01～31)
	記念日設定 2※2	月(---※1、1～12)、日(---※1、01～31)
	記念日設定 3※2	月(---※1、1～12)、日(---※1、01～31)
Honda スマートキーシステム設定*	アンサーバックブザー音量※2	大※1、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー※2	作動※1、非作動
ライティング設定	オートハイビーム	ON※1、OFF
	インテリアライト点灯時間※2	60秒、30秒※1、15秒
	アクセサリライト※2	ON※1、OFF
	ワンタッチターンシグナル※2	ON※1、OFF
ドア設定	キーレスアンサーバック※2	作動※1、非作動
メンテナンスリセット*		キャンセル、リセット
初期化設定		中止、実行

※1: 工場出荷時の設定

※2: Honda スマートキーごとに設定を記憶することができます。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「満タン給油時」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1.  スイッチを押し、レフトセレクトターホイールを回して、 が表示されたら、レフトセレクトターホイールを押す。



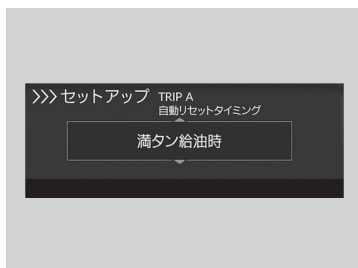
2. レフトセレクトターホイールを回す。
▶ 「グループ」画面に切り換わりますので、レフトセレクトターホイールを回し、「メーター設定」を選択します。



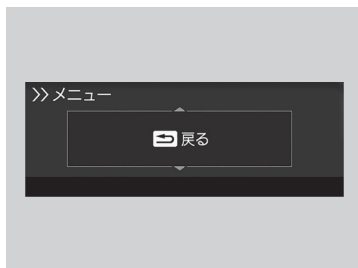
3. レフトセレクトターホイールを押す。
▶ 「メニュー」画面に切り換わります。



4. レフトセレクトターホイールを回し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、レフトセレクトターホイールを押す。
▶ 「セットアップ」画面に切り換わり、「満タン給油時」、「IGN OFF 時」、「手動のみ」が選択できます。



5. 「満タン給油時」が選択されていることを確認し、レフトセクターホイールを押す。
▶ 「メニュー」画面に戻ります。



6. 「戻る」が表示されたら、レフトセクターホイールを押す。
7. 手順 6 の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにする
- シフトポジションを **[P]** 以外にする (無段変速オートマチック車)
- パーキングブレーキを解除する (マニュアル車)

■ タイヤ角度モニター*

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。

- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを **[D]** または **[L]** にしたとき
- シフトポジションを 1 秒以上 **[R]** にしたとき

タイヤ角度モニターの ON/OFF を選択することができます。

🔍 時計*/車両設定 P.54

表示中に **[🏠]** スイッチを押すと、違う表示に変わり再表示できません。

🔍 表示の切り換えかた P.46

いずれかの表示条件を満たすと再度表示されます。

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

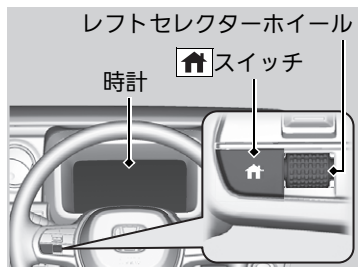
3 各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻 / 日付の設定

時計の時刻 / 日付を合わせる*

時計はメーターに表示されます。



パワーモードが ON モードでシフトポジションが **P** のときに、**ホーム** スイッチを押します。レフトセレクターホイールを回して表示を切り換え、レフトセレクターホイールを押して決定します。

■ 日付の調整



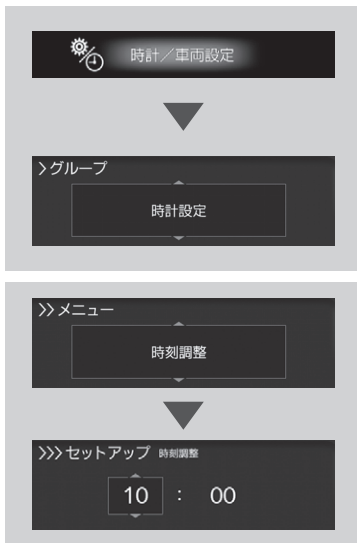
1. レフトセレクターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。



3. レフトセレクターホイールで「日付調整」を表示させ、決定する。
▶ 「年」の調整ができます。
4. レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶ 「年」が設定され、「月」の調整ができます。
5. 手順 4 と同様の操作で「月」、「日」の調整をする。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■時刻の調整



1. レフトセクターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
3. レフトセクターホイールで「時刻調整」を表示させ、決定する。
▶「時」の調整ができます。
4. レフトセクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. レフトセクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「分」が設定されます。

 スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイに時計設定がない場合は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

ドアの施錠と解錠

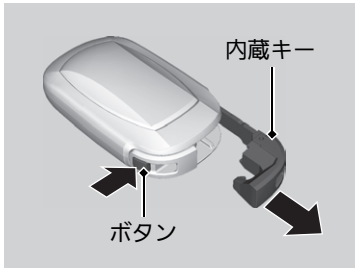
キー

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できません。

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこりを避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

■ 内蔵キー



Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、ボタンを押しながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHonda スマートキーに収納しておいてください。

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものをを使用することは法律で禁止されています。

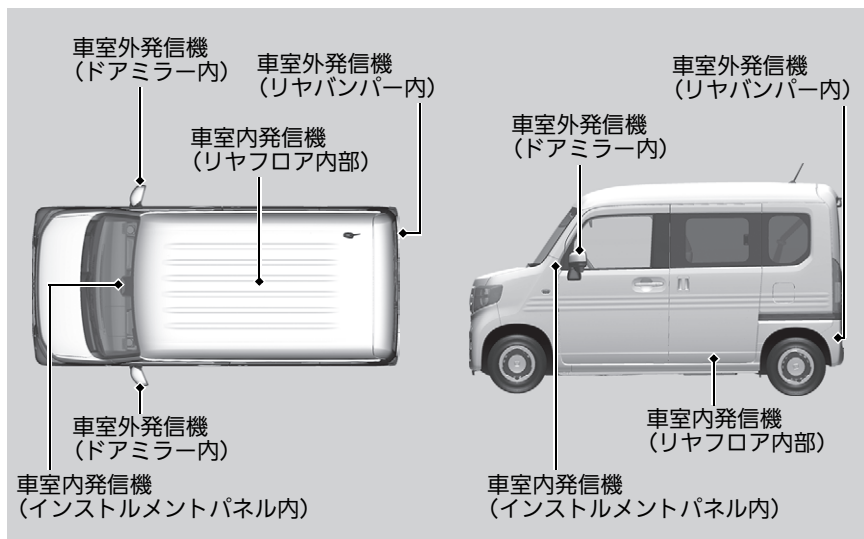
📖 Honda スマートキーの電池が切れたとき P.225

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠ 注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約 3 秒長押しするとインジケーターが 2 回点滅し、電波の受信が停止します。

Honda スマートキーのいずれかのボタンを 1 回押すと電波の受信が再開します。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステム* での施錠 / 解錠

Honda スマートキーを携帯し、ロック / アンロックボタンを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠ができます。

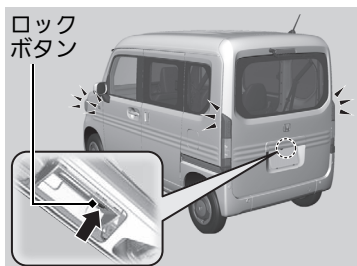
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。



■ 施錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタン、テールゲートのロックボタンを押します。

- ▶ 「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。



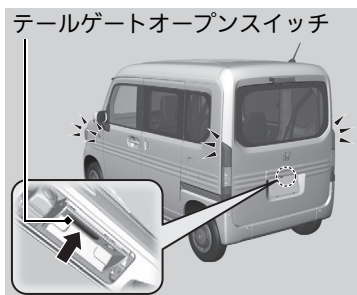
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



■ 解錠するには

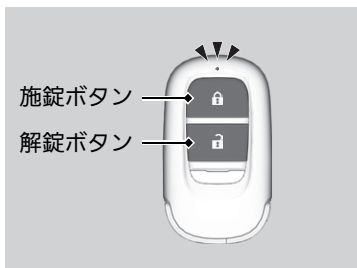
運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタンを押すか、テールゲートオープンスイッチを押します。

- ▶ 「ピピッ」というアンサーバックが鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。



ドア、テールゲートが開いているときは、Honda スマートキーシステムで施錠できません。

■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■ 施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目:

- ▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内):

- ▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

■ 解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

■ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

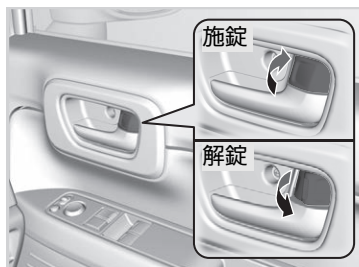
Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は、内蔵キーを使用してください。



キーを確実に差し込んで、回します。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠

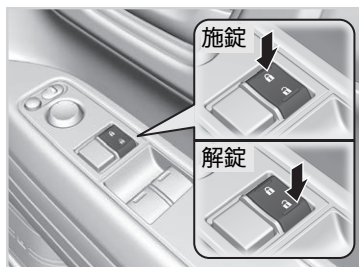


■ 施錠するには
ノブを押し込みます。

■ 解錠するには
ノブを引き出します。

運転席ドアのノブで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドアとテールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ マスタードアロックスイッチ* での施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

テールゲート

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

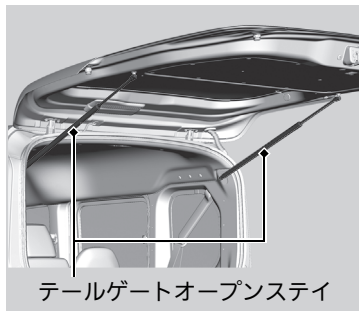
⚠ 注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

テールゲートオープンスティに荷物などが接触しないように注意してください。



スライドドア

スライドドア開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■ 開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■ 閉めるとき

- Honda スマートキーを、車内に置き忘れないようにする

注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないように注意する。

特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。

ドアが不意に閉まるおそれがあります。

ドアハンドルをしっかり持って開閉する。

ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとエンジンの始動は出来ないシステムです。

システムの改造や追加をしないでください。

システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム*

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■ 作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■ 停止させるには

Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

■ セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■ セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■ セットを解除するには

Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

システムの改造や追加をしないでください。

システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉は運転手席、助手席それぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、助手席のウィンドーの開閉操作も行うことができます。

助手席ウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを ON にしておくと、助手席のウィンドーは作動しません。

警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

注意

指などをはさみ込まないように注意する。

確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

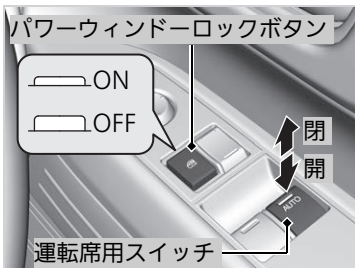
お子さまだけを車内に残さない。
必ずHondaスマートキーを携帯し、ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードをOFFモードにしても、約10分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ 自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■ 手動開閉

開けるとき: スイッチを軽く押す

閉めるとき: スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■ 自動開閉

開けるとき: スイッチを強く押す

閉めるとき: スイッチを強く引き上げる

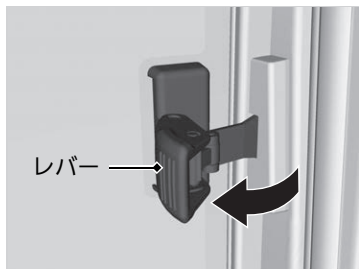
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

❏ 自動開閉機能なしのウィンドーの開閉については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。



後席ウィンドーの開閉*

スライドドアのウィンドーを開けることができます。



1. レバーを手前に引く。

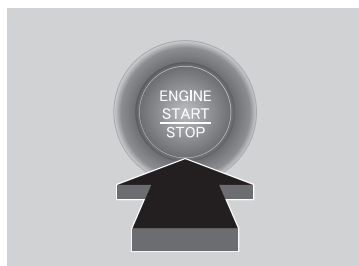


2. レバーを外に押し出して固定する。

この「✿」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ハンドルまわりのスイッチ操作

ENGINE START/STOP スイッチ



無段変速オートマチック車

Honda スマートキーを携帯し、ブレーキを踏まずに **ENGINE START/STOP** を押すとOFFモード→アクセサリーモード→ON モード→OFF モードの順にパワーモードが切り換わります。

マニュアル車

Honda スマートキーを携帯し、クラッチペダルを踏まずに **ENGINE START/STOP** を押すとOFFモード→アクセサリーモード→ON モード→OFF モードの順にパワーモードが切り換わります。

OFF モード:

車両の電源が OFF の状態です。

アクセサリーモード:

オーディオなど一部のアクセサリーが使用できます。

ON モード:

すべてのアクセサリーが使用できます。

小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことがあります。

無段変速オートマチック車

パワーモードがON モードのとき、シフトポジションが **P** 以外の状態で **ENGINE START/STOP** スイッチを押した場合はアクセサリーモードに切り換わります。

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。ハンドルロックが解除されます。



ENGINE START/STOPスイッチ関連の警告や機能については左のQRコードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

ライトの使いかた

■ ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードが ON モードのとき、ライトスイッチを **AUTO** にすると自動点灯が作動します。

■ 手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを **☀** にします。

車幅灯の点灯：

車幅灯が点灯するまでライトスイッチを **☀** にして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行くとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを **☀** にしたあと、**AUTO** にします。

ヘッドライト・車幅灯の消灯：

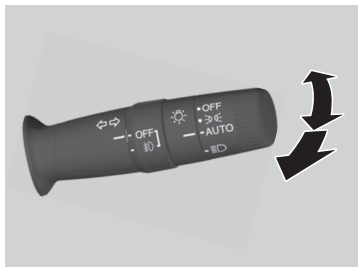
シフトポジションが **P** もしくはパーキングブレーキをかけて停車しているとき、消灯するまでライトスイッチを **OFF** にして手を放します。

- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

■ ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

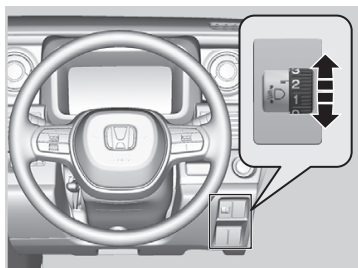


■ パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

- ▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

ヘッドライトレベリングダイヤル



車幅灯、ヘッドライトが点灯しているとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

光軸の調節はダイヤルを回して行います。ダイヤルの数字が大きいくほど光軸は下向きになります。

■ ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを **0** の位置に戻してから行ってください。

ダイヤル位置 **1** と **2** は、乗員の人数や荷物の量に応じて、調節してください。

オートハイビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■ フロントワイドビューカメラ P.168

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インstrumentパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

■ オートハイビームの使いかた

■ システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームとロービームが切り換わります。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが **AUTO** の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを **III** に回したあと、**AUTO** に戻す

オートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。

📌 時計*/車両設定 P.54

■ ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム		ロービーム
以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。 • 車速が 30km/h 以上 • 前方にライトを点灯した車両がない • 前方に街灯などの光が少ない	↔	以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。 • 車速が 24km/h 以下 • 前方にライトを点灯した車両がいる • 前方に街灯などの光が多い

■ ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作:

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。または、レバーを前方(ハイビームの位置)に押す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを  に回した後、**AUTO** に戻す。
このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作:

ライトスイッチを  に回す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを **AUTO** に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

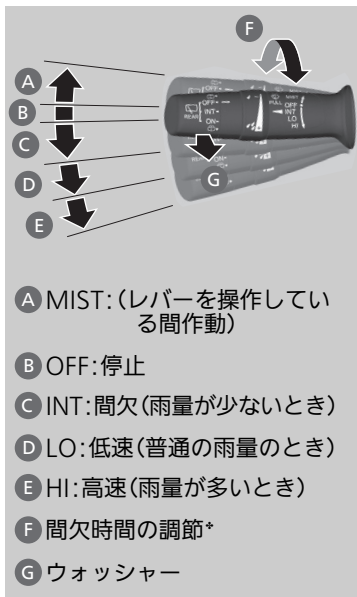
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

ワイパー/ ウォッシャー

■ フロントワイパー/ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



■ 間欠時間の調節*

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

- 間欠間隔が長い
- 間欠間隔が短い

- A MIST: (レバーを操作している間作動)
- B OFF: 停止
- C INT: 間欠 (雨量が少ないとき)
- D LO: 低速 (普通の雨量のとき)
- E HI: 高速 (雨量が多いとき)
- F 間欠時間の調節*
- G ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。

ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。

ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

■ リヤワイパー/ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り替えて使用します。

■ ウォッシャースイッチ

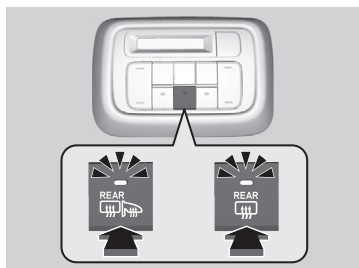
スイッチを  まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションを **R** に入れるとリヤワイパーが作動します。

リヤデフロスター/ヒートドドアミラー* スイッチ



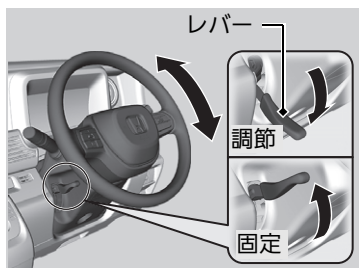
パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラー* を暖め、曇りをとることができます。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、ステアリングコラムの左側にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

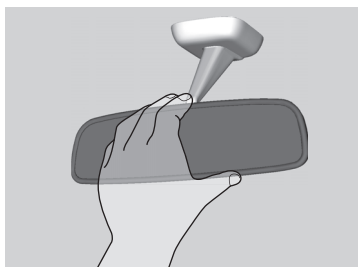
走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ミラー類の調節

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

ドアミラー



電動格納ドアミラー装備車

ドアミラーの操作は、パワーモードがONモードのときに行います。

■ 角度調節

左右切り換えスイッチ: 右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

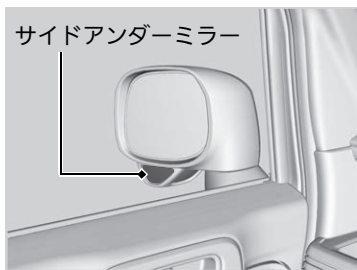
角度調節スイッチ: 上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

電動格納ドアミラー非装備車

■ 角度調節

鏡面を手で直接調整します。

サイドアンダーミラー



助手席側ドアミラーの下部についています。停車時や発進前などに車両左側下部を確認するときに役立ちます。

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

サイドアンダーミラーは車両左側を見るために下向きになっています。

サイドアンダーミラーの角度調節はできません。

シートの調節

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

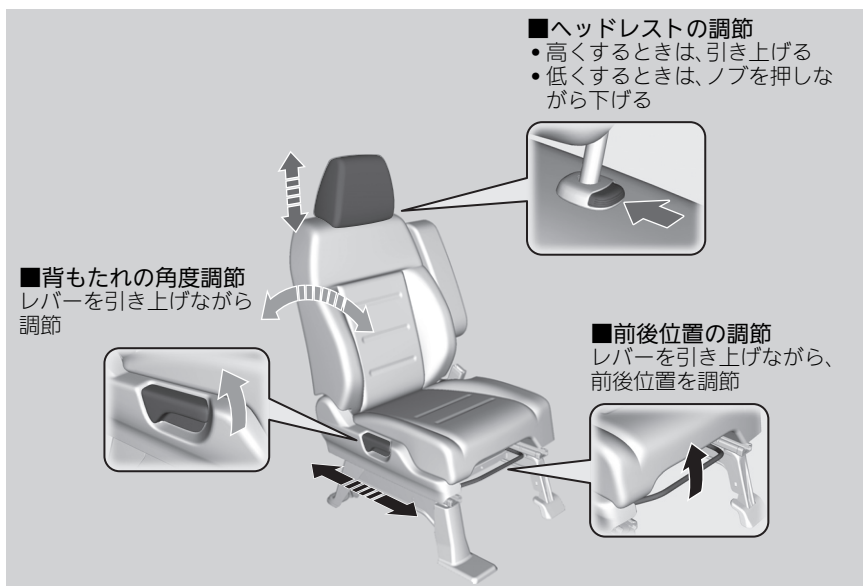
運転席は、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

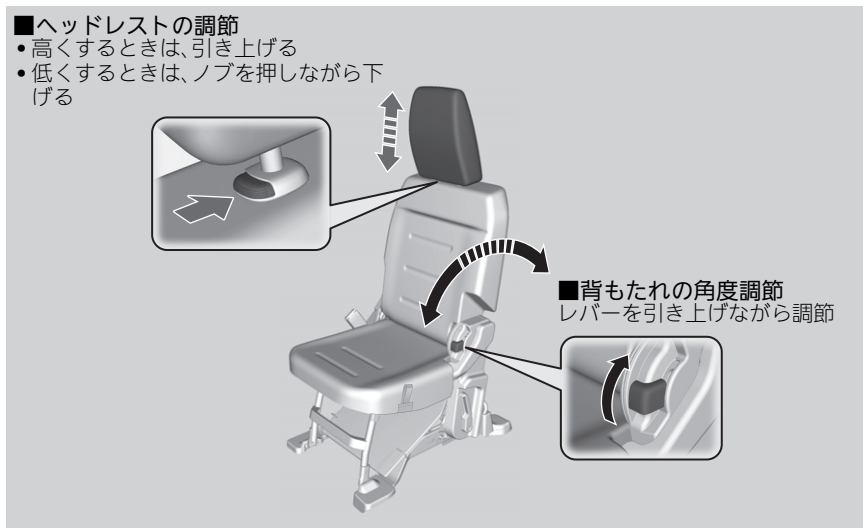
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■ シートの動かしかた

■ 運転席



■ 助手席



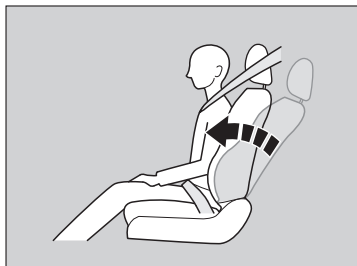
■ フロントシートの調節



■ 運転席位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

⚠ 警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置まで運転席を下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

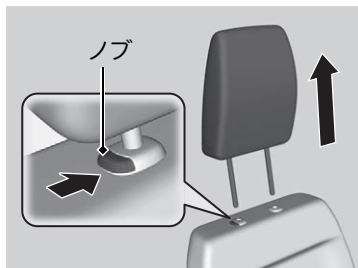
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠ 注意

背もたれと背中の上にクッションなどを入れない。

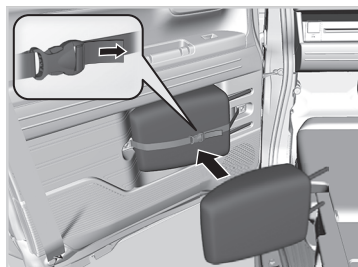
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

■ 助手席の収納



■ 収納のしかた

1. ノブを押しながら助手席のヘッドレストを外す。



2. ヘッドレストの背面を室内側に向け、助手席側ドアの溝に合わせ固定用のバックルを差し込み、ベルトを締める。

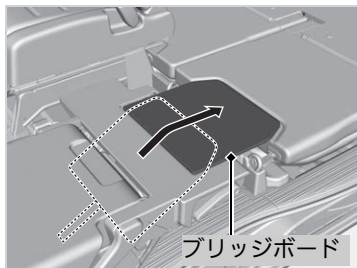
▶ 走行中に外れることがないようにしっかりと固定されていることを確認してください。



3. 背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを前方いっぱいまで倒す。

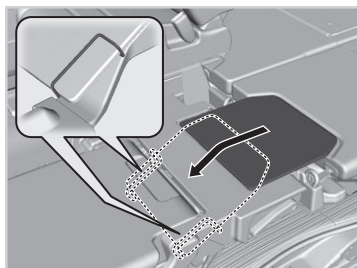


4. レバーを引きながら、シート背面のストラップを持ち、シートを前方に倒す。



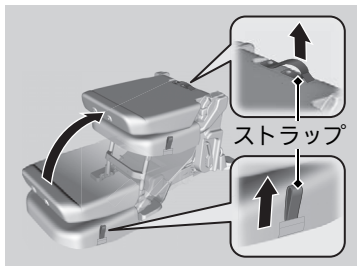
5. リヤシートを収納しているときは、助手席の下に収納されているブリッジボードを使用し、荷物の積載のためにリヤシートと助手席の段差を無くすることができます。

🔧 リヤシートの収納 P.86



■戻しかた

1. ブリッジボードを助手席下のラックに収納する。



2. 座面のストラップと背もたれの背面のストラップを持って引き上げる。
 3. 背もたれを起こして固定する。
 ▶ シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。
 4. ヘッドレストを取り付ける。
 ▶ ヘッドレストの高さを調節した後、軽く上下させ正しく固定されていることを確認してください。

🔧 ヘッドレスト P.89

⚠ 注意

収納状態の助手席へ荷物を積載するときは十分注意する。

助手席を収納状態にして荷室として使用する場合は確実に荷物を固定してください。

また、重い荷物の積載や運転者の視界を妨げるような積載は避けてください。積載した荷物が運転の妨げになったり、荷崩れなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

倒した助手席の背もたれの上に人を乗せない。

走行中にブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。

助手席を収納状態にせずに背もたれを前方に倒した状態では走行しない。また、後席に人が乗るときは助手席を収納状態にして走行しない。

走行中にブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。

収納状態の助手席へ荷物を積載するときはタイダウンフックを使用して確実に荷物を固定してください。

■ タイダウンフック P.91

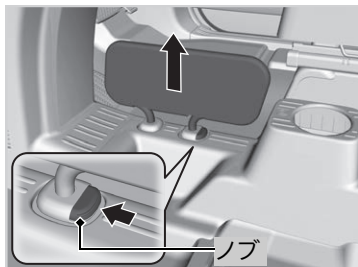
ブリッジボードは、助手席とリヤシートを収納した状態で、荷物を積載するときのみ使用してください。また、使用するときには収納した助手席とリヤシートの背もたれに対して段差が無いことを確認してからブリッジボードの上に荷物を積載し固定してください。

アドバイス

ブリッジボードは助手席を収納状態から元に戻す前に助手席下のラックに収納してください。

正しくラックに収納されていないと、ブリッジボードやシートが破損するおそれがあります。

■ フロアボード



小さな荷物が運転席の足元へ転がり落ちにくくするための仕切り板です。助手席を収納して荷室として使用するときにはフロアボードが正しく取り付けられていることを確認してください。

■ 取り外しと取り付け

フロアボードは、掃除や修理のために取り外すことができます。

フロアボードの取り外し：

ノブを押して引き上げ、取り外します。

フロアボードの取り付け：

フロアボードの脚を元の位置に差し込み、軽く上下させ、確実に固定します。

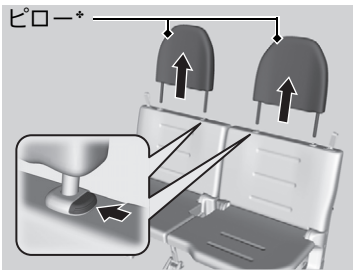
⚠ 注意

助手席収納時にフロアボードを外した状態で走行しない。

運転席の足元に小さな荷物が転がり落ちると運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リヤシート

■ リヤシートの収納

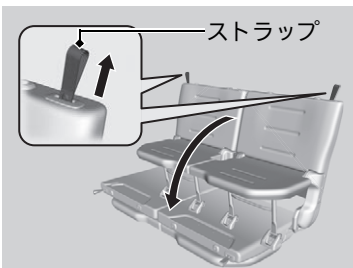


リヤシートを収納して荷室を広くできます。

ピロー装備車

1. リヤシートのピローを外す。

➡ ピローの収納 / 取り付け P.87



2. ストラップを引き上げ、背もたれを手で支えながら、シート全体を前方へ倒す。

▶ リヤシートを倒すときに背もたれが運転席に当たる場合は、運転席を前方へ動かしてください。

➡ フロントシート P.80

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

倒した背もたれの上やカーゴスペースには人を乗せて走行しない。

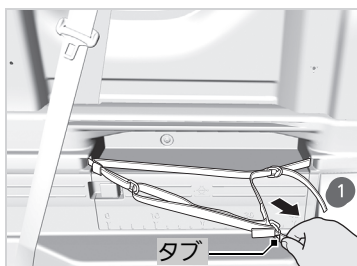
ブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

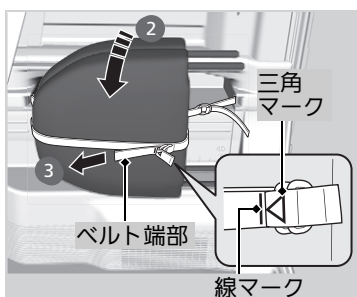
■ ピロー* の収納 / 取り付け

リヤシートを収納したとき、取り外した ピローを収納することができます。

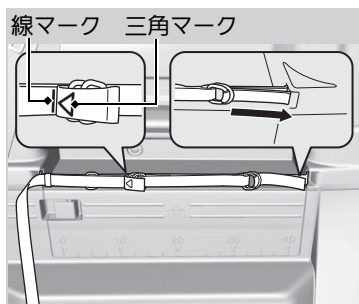
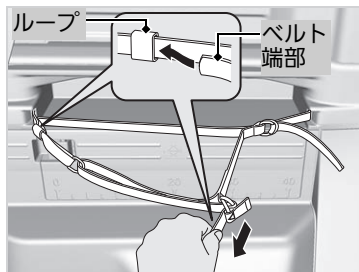
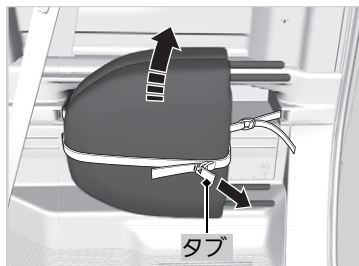


■ ピローの収納

1. タブを引っ張ってベルトを緩める。
▶ ベルト端部が金具から抜けないようにしてください。
2. ピローの背面を手前に向けてベルトの輪の中にピローを入れる。
3. ベルト端部を持ってベルトを締める。
▶ ベルトの線マークがタブの三角マークの先に見えるまでベルトを締めてください。線マークが見えるまで締まらない場合は、ピローの位置を微調整して再度締めなおしてください。
▶ 走行中に外れることがないようにしっかりと固定されていることを確認してください。



この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



■ピローの取り付け

1. タブを引っ張ってベルトを緩め、ピローをベルトから取り出す。
2. ベルト端部を引っ張ってベルトを締め、ベルト端部をループに通す。
3. ベルトの線マークがタブの三角マークの先に見えるまでベルトを締める。
4. ピローの脚をリヤシートに差し込み固定します。
▶ 軽く上下させ正しく固定されていることを確認してください。

リアシートリマインダー

後席の荷物などの置き忘れおよび同乗者を載せていることを、降車前に運転者へお知らせする機能です。



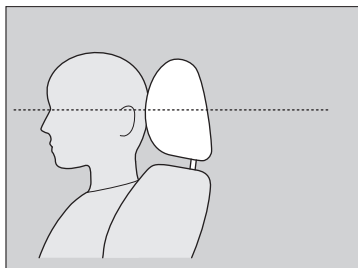
■作動条件

- 後席ドアを開閉してからパワーモードを ON モードにしたとき
- パワーモードが ON モードのときに後席ドアを開閉したとき

上記の条件をどちらか満たしパワーモードを OFF モードにすると、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

ヘッドレスト

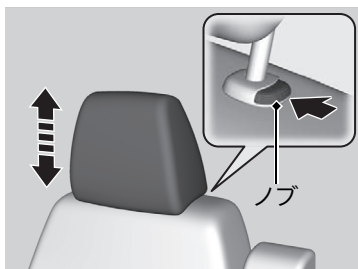
■ フロントシートのヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき:ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき:ノブを押しながら下げます。



⚠ 警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し:

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け:

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト*

⚠ 警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

❏ 室内灯の操作については右の QR コードから詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。



収納装備

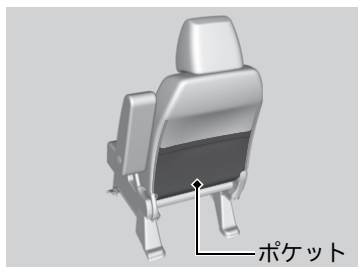
■ ドリンクホルダー

⚠ 注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

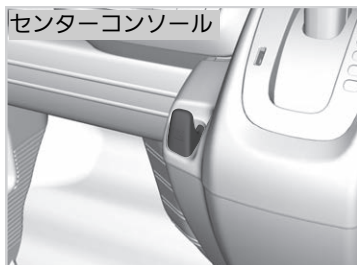
■ シートバックポケット



運転席背もたれの後ろにポケットがあります。車 検
証や取扱説明書等を収納するために使用できます。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

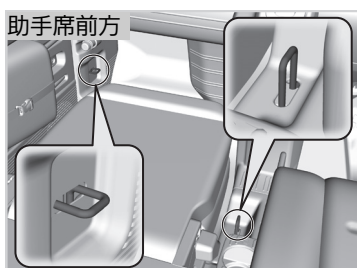
■ コンビニフック



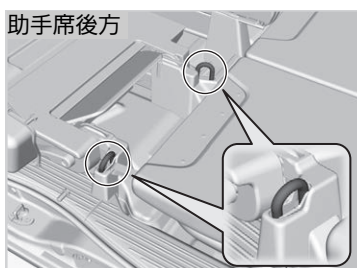
アドバイス

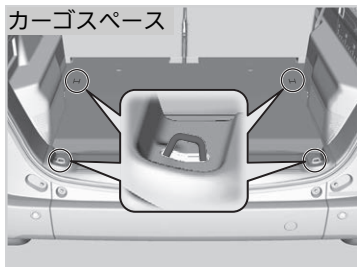
コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(センターコンソール:約 3kg 以上、助手席側:約 0.3kg 以上)や大きいものをかけないでください。

■ タイダウンフック



荷物を固定するときに使います。





⚠ 注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

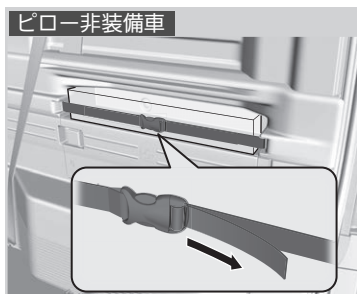
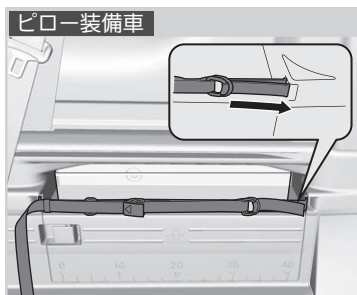
助手席に人が乗るときは助手席後方のタイダウンフックを使用しない。

衝突時に思わぬ怪我をするおそれがあります。

助手席前方および助手席後方のタイダウンフックは助手席収納時に使用してください。

📖 助手席の収納 P.83

■ 停止表示板入れ



カーゴスペース側面に停止表示板入れがあります。収納するときは落下しないようにベルトでしっかりと固定してください。

その他の室内装備品

■ アクセサリーソケット

⚠ 注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

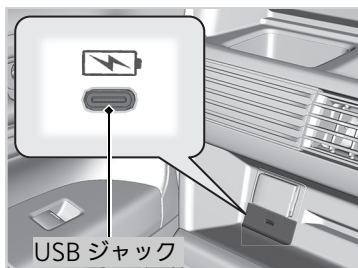
シガレットライターは差し込まないでください。

発熱するおそれがあります。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■ 充電専用 USB ジャック*

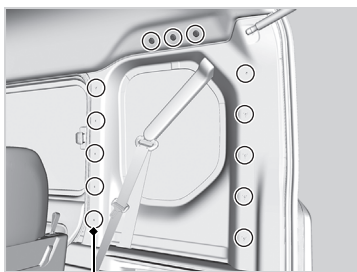


充電する機器の USB ケーブルを USB ジャック (3.0A) に接続します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ ユーティリティーナット

ユーティリティーナットは、市販のフックなどを取り付けて使用します。

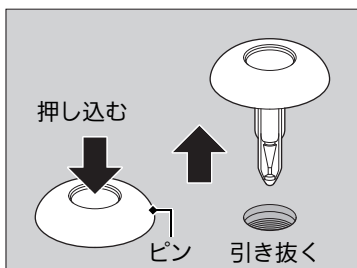


ユーティリティーナット

■ ユーティリティーナットの位置

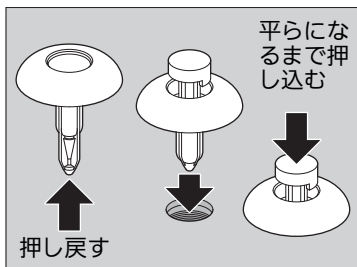
カーゴスペースの両側にユーティリティーナットを装備しています。

- ▶ あらかじめクリップが取り付けられている箇所については、使用するときにはクリップを取り外してから使用してください。



■ クリップ脱着のしかた

クリップ中央部のピンを「カチッ」と音がするまで軽く(2 mm 程度)押し込んでクリップを引き抜きます。

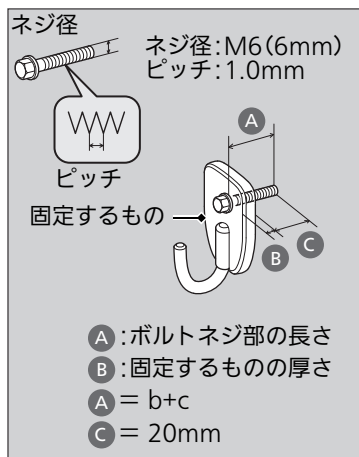


元に戻すときは、図のようにしてクリップ中央部のピンを押し戻して、ユーティリティーナットに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

⚠ 注意

後席に乗車するときは後席周辺のユーティリティーナットに市販のフックなどを取り付けない。

シートベルトが正しく着用できなかったり、衝突時や旋回時などにものがぶつかるなど、けがをするおそれがあります。



■ 市販品の取り付けかた

ユーティリティーナットや車体の損傷を防ぐため、
取り付けボルトは左記ものをお使いください。
締め付けトルク 9.8 N・m(1.0 kgf・m)

アドバイス

規定以外のボルトを使用するとユーティリティーナットやボディが破損します。

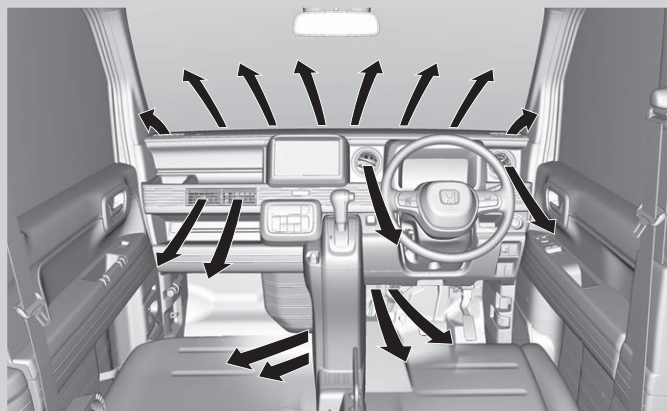
市販品を取り付けるときは、使用する部品のサイズ、仕様と安全性を確認のうえ使用します。

取り付け内容によっては、車検証等の記載事項の変更または、構造変更検査が必要な場合もあります。

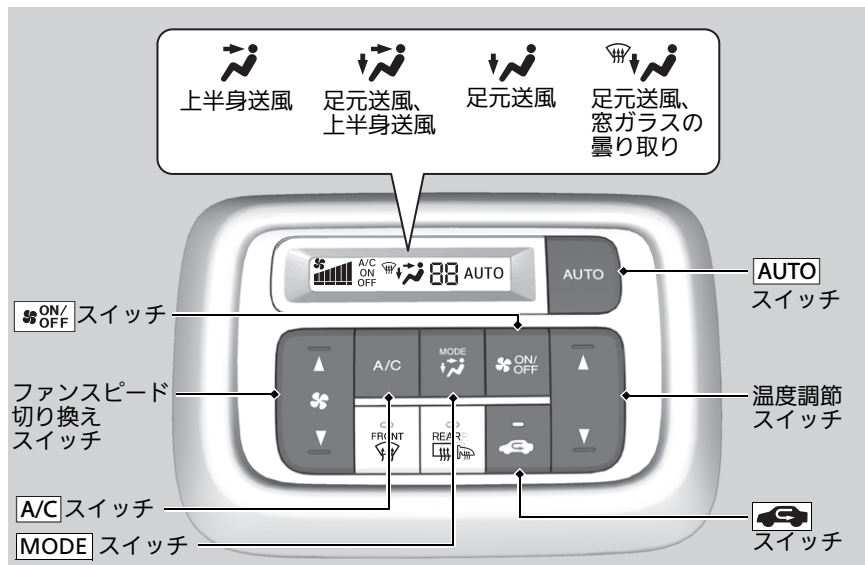
お取り付けに関してご不明な点は Honda 販売店にご相談ください。

エアコン

エアコンの吹き出し口

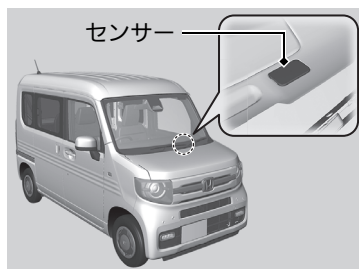


オートエアコンの使いかた

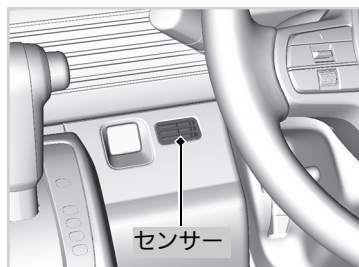


■ オートエアコンの詳細説明については左の QR コードから詳細取扱説明書 (HTML 版)を参照してください。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



4 オーディオ

この車両はメーカーオプションのオーディオを装備していません。
この車両で利用可能なオーディオについては、Honda 販売店にご相談ください。

オーディオ装置

アンテナ

■ マイクロアンテナ



アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■ 車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
- **タイヤの点検と整備** P.202
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- フロアボードが正しく取り付けられているか？
 - ▶ 助手席収納時にフロアボードを外した状態で走行すると、小さな荷物が運転席の足元に転がり落ちやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ❏ フロアボード P.85
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
- ❏ 車内での施錠 / 解錠 P.65
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
- ❏ シートの調節 P.80
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
- ❏ ミラー類の調節 P.79
- ❏ ハンドルの調節 P.78
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
- ❏ シートベルトの着用 P.15
- エンジンを開始したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
- ❏ 警告灯 P.33

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

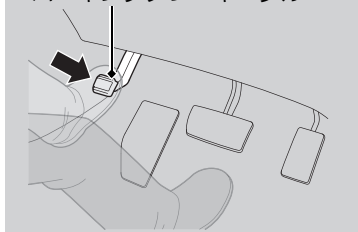
車に合ったフロアマットをお使いください。

運転操作

エンジンの始動

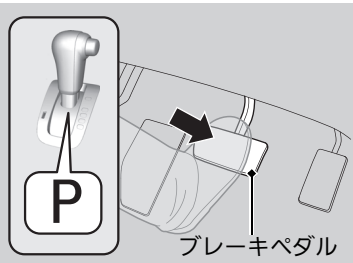
無段変速オートマチック車

パーキングブレーキペダル



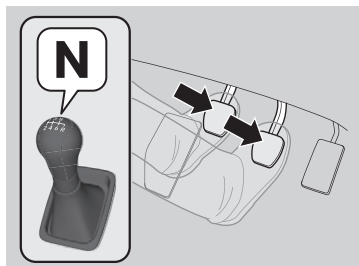
1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

マニュアル車



無段変速オートマチック車

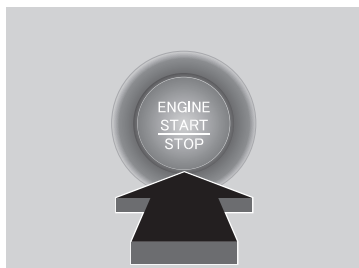
2. シフトポジションが **P** であることを確認し、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
▶ **N** でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される **P** で行ってください。



マニュアル車

- チェンジレバーが **N** (ニュートラル) であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。

▶ 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとスターターが回らないようになっています。



共通操作

- アクセルペダルを踏まずに、**ENGINE START/STOP** を押す。

⚠ 警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **ENGINE START/STOP** に触れてください。

❑ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.225

エンジンがかからない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **ENGINE START/STOP** に触れてください。

❑ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.225

Honda スマートキーが強い電波を受けていると、エンジンが起動しないことがあります。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。

❖ イモビライザーシステム P.67

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 発進時の操作

無段変速オートマチック車

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを[D]にする。
▶ 後退する場合は[R]にします。
 2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
- ❖ パーキングブレーキ P.171
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約 1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

無段変速オートマチック車



注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

マニュアル車

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

エンストした後、約 3 秒以内にクラッチペダルをいっばいに踏み込むとエンジンが自動的に再始動します。

ただし、車両状態によっては、自動的に再始動しないことがあります。

■ エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

無段変速オートマチック車

1. ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトポジションを[P]にする。

マニュアル車

1. チェンジレバーを[N]にする。

共通操作

2. [ENGINE START/STOP] を押す。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを[N]にしないでください。

エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

下り坂を利用した移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■ 霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■ 風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

■ 雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■ その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

マニュアル車

⚠ 注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、バンパーなどを損傷するおそれがあります。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過

無段変速オートマチックについて

■ クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていると動力が繋がった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■ キックダウン

セレクトレバーが[D] [L]で走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

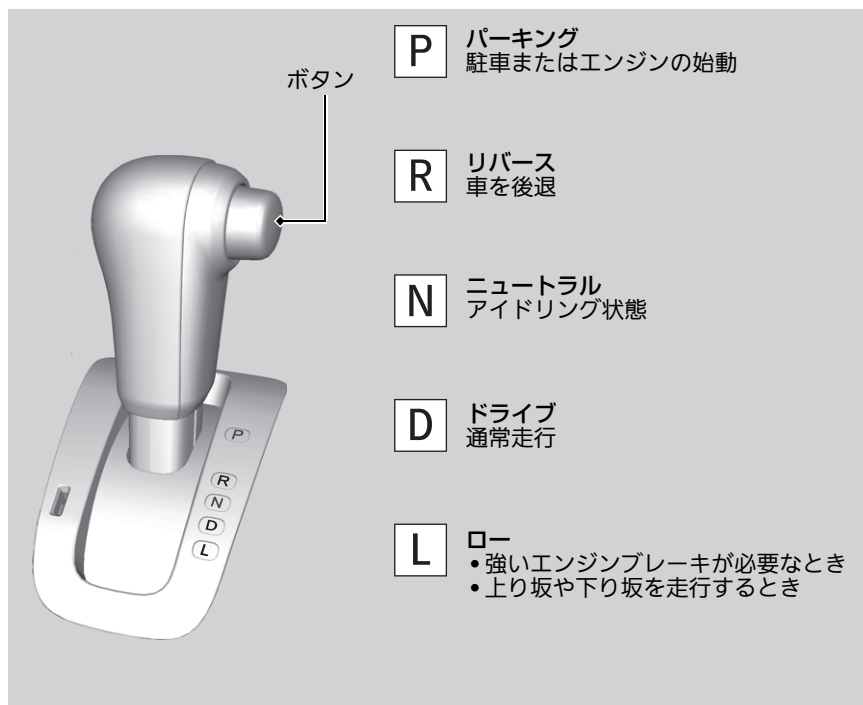
上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。

アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■ シフトポジションの名称とはたらき



Rのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが**R**に入っていることを知らせます。

Nのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。

ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

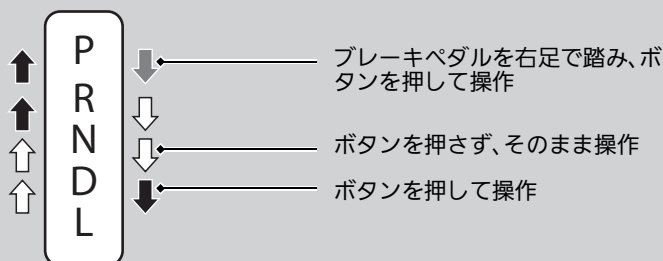
シフトポジションが**P**以外のときは、パワーモードがOFFモードになりません。

■ セレクトレバーの操作

シフトポジションは、メーター部にあるシフトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



シフトポジション表示灯
(トランスミッション警告灯)



アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

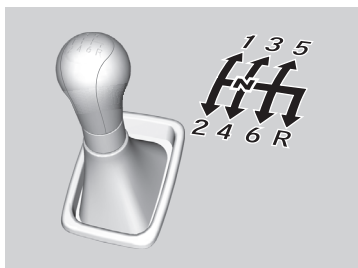
先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い(マイナス30度以下)とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

シフト操作

■ チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。



アドバイス

車が完全に止まらないうちは **R** に入れないでください

トランスミッション破損の原因となります。

誤動作を防ぐため、一定車速以上では **R** へ直接チェンジレバーを切り換えることはできません。

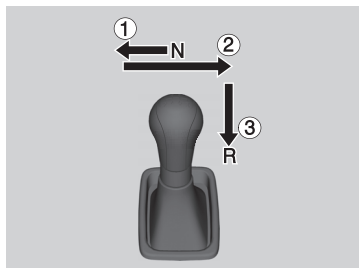
シフトダウンする際は、タコメーターのレッドゾーンに入らないように適切な車速で操作してください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じるがありますが、異常ではありません。

■ **R** に入らないとき

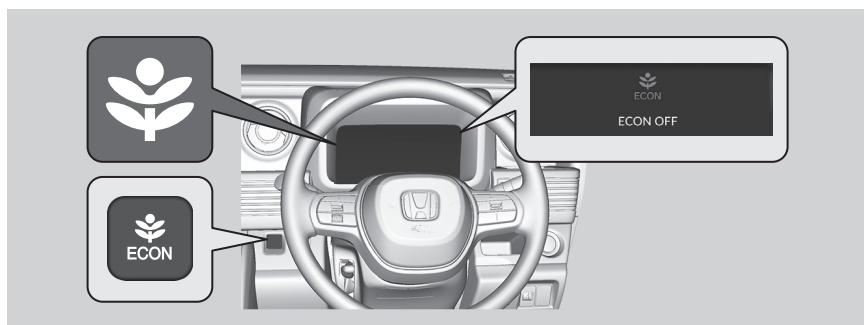
一度 **N** (ニュートラル) へ戻し、**1**、**2** 側へ倒してから **R** に入れても入らない場合は下記の操作をしてください。



1. パーキングブレーキをかけてパワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにする。
2. クラッチペダルを踏み込んで、チェンジレバーを **R** にする。
3. クラッチペダルを踏み込んだまま、エンジンを始動する。

この操作を毎回しないと **R** に入らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ECON スイッチ



ECON モードは、省燃費運転をしやすいように制御します。

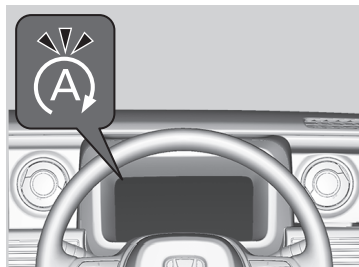
- ▶ パワーモードを ON モードにしたときは、常に ECON モードが ON になります。
- ▶ ECON モードの ON と OFF を切り替えるには、ECON スイッチを押します。
- ▶ ECON スイッチを押すと、アイドリングストップシステムの作動が停止となりメーター内の ECON 表示灯が消灯します。

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、アイドリングストップシステムは作動停止状態になります。このときアイドリングストップ表示灯(グリーン)は消灯します。

アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。



アイドリングストップシステムの作動は、車両の状態や環境により影響を受けることがあります。

■ アイドリングストップをする P.115

表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ状態のメッセージが表示されます。

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は指定されたバッテリーを使用してください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

■ 仕様 P.246

■ アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止するには、ECON スイッチを押してください。

ECON 表示灯が消灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

前回の走行時に作動を停止した場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に作動可能状態になります。

アイドリングストップ中に ECON スイッチを押すと、エンジンが再始動します。

■ アイドリングストップをする

停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。

- ▶ アイドリングストップ中シフトポジションを素早く **[P]** にした場合、ブレーキペダルを離してもアイドリングストップは継続します。
- ▶ ブレーキペダルを踏むと、エンジンが自動的に再始動します。

■ アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジンが十分に暖まっていないとき、または冷却水の水温が高いとき

- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
- シフトポジションを **[D]** 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- ECON モードが OFF のとき
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5℃ 以下のとき
- 外気温が - 20℃ 以下または 40℃ 以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
-  が ON のとき

■ アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- エアコン風量が多いとき
- 標高が高いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。

ボンネットを開けたときは、

[ENGINE START/STOP] でエンジンを再始動させてください。

🔧 エンジンの始動 P.102

アイドリングストップ中に、

[ENGINE START/STOP] を押すとアクセサリモードになり自動で再始動しません。

通常のエンジンの始動操作をしてください。

🔧 エンジンの始動 P.102

■ エンジンが自動的に再始動する

ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。

- 坂道でシフトポジションを **[D]** または **[N]** から **[P]** に操作したとき。

■ ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件

- ECON スイッチを押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- シフトポジションを **[R]**、**[L]** にしたとき、または **[N]** から **[D]** に操作したとき

▶ アイドリングストップ中シフトポジションを[P]にした場合、アイドリングストップは継続します。

この場合、ブレーキペダルを踏むとエンジンは再始動します。

- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- を押したとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき

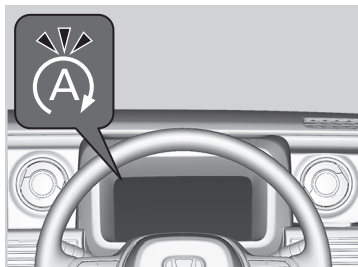
アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

■ 発進補助ブレーキ機能

アイドリングストップからの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持し、坂道で車を下がりやすくします。

アイドリングストップシステム(マニュアル車)

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。



アイドリングストップシステムの作動は、車両の状態や環境により影響を受けることがあります。

▶ アイドリングストップをする P.115

表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ状態のメッセージが表示されます。

車から離れるときは、エンジンを停止してください。

アイドリングストップシステム装備車に適合した専用バッテリーを使用しています。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は専用バッテリーを使用してください。詳しくはHonda 販売店にご相談ください。

▶ 仕様 P.246

■ アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止するには、ECON スイッチを押してください。

ECON 表示灯が消灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

前回の走行時に作動を停止した場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に作動可能状態になります。

アイドリングストップ中に ECON スイッチを押すと、エンジンが再始動します。

■ アイドリングストップをする

停車時に、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、チェンジレバーを **[N]** (ニュートラル) にします。その後、クラッチペダルから足を離すとアイドリングストップします。

▶ エンジンの自動再始動のため、停車時はチェンジレバーを **[N]** にしてください。

■ アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジンが十分に暖まっていないとき、または冷却水の水温が高いとき
- エンジン始動後、3km/h に達しないまま停車したとき
- チェンジレバーを **[N]** (ニュートラル) 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
 - ▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- ECON モードが OFF のとき
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5℃ 以下のとき
- 外気温が -20℃ 以下または 40℃ 以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
- **FRONT** が ON のとき

■ アイドリングストップしないことがある条件

- エアコンの風量が多いとき
- ハンドルを動かしているとき
- 標高が高いとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。

ボンネットを開けたときは、

ENGINE START/STOP でエンジンを再始動させてください。

🔧 エンジンの始動 P.102

アイドリングストップ中に、

ENGINE START/STOP を押すと OFF モードになり自動で再始動しません。

通常のエンジンの始動操作をしてください。

🔧 エンジンの始動 P.102

■ エンジンが自動的に再始動する

クラッチペダルをいっばいに踏み込むとエンジンが自動的に再始動します。

■ クラッチペダルを踏まなくてもチェンジレバーが **N** (ニュートラル) の位置で、エンジンが自動的に再始動する条件

- ECON スイッチを押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき
-  を押したとき

アイドリングストップシステムに異常があるときは再始動ができません。

通常のエンジン始動操作をしてください。

🔧 エンジンの始動 P.102

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

アイドリングストップ中に、以下の操作をすると、エンジンが自動で再始動しません。

- 運転者がシートベルトを外す

アイドリングストップを継続させるには、すぐにシートベルトを着用してください。

- チェンジレバーを **N** (ニュートラル) 以外に動かす
- チェンジレバーを **N** (ニュートラル) に戻してください。

システムが停止した場合、通常のエンジンの始動操作をしてください。

🔧 エンジンの始動 P.102

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.173

■ TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■ 横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

電子制御ブレーキアシスト P.174

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

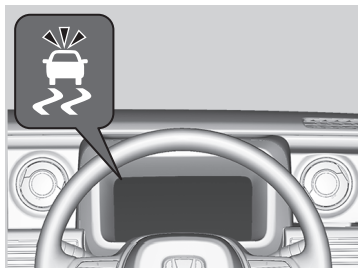
新雪やぬかるみから脱出したいときに、 で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。

VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■ VSA の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にすることができます。

TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

☒ 表示の切り換えかた P.46

☒ VSA モード設定 P.53

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

Honda SENSING

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者の アクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

■ 作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ (CMBS) ➡ P.121
- 踏み間違い衝突軽減システム* ➡ P.129
- 急アクセル抑制機能* ➡ P.131
- 路外逸脱抑制機能 ➡ P.134
- 歩行者事故低減ステアリング ➡ P.139
- 先行車発進お知らせ機能 ➡ P.161
- 標識認識機能 ➡ P.164
- オートハイビーム ➡ P.73
- パーキングセンサーシステム ➡ P.177

■ 作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* ➡ P.143
- 車線維持支援システム (LKAS)* ➡ P.155



警告

Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。

自動運転システムではありません。

あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、各機能が作動しない場合があります。

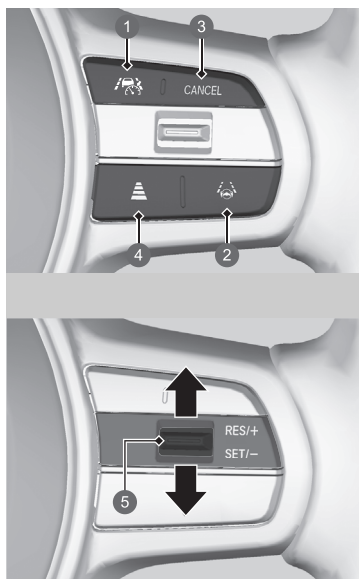
この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

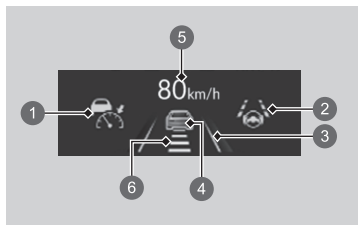
■ ステアリングスイッチ



- ① **スイッチ**
以下機能の待機状態の設定を行います。
 - アダプティブクルーズコントロール (ACC)
 - 車線維持支援システム (LKAS)
- ② **車線維持支援システム (LKAS) スイッチ**
ACC の作動中に LKAS の作動と解除の設定を行います。
- ③ **CANCEL スイッチ**
以下機能の解除を行います。
 - ACC
 - LKAS
- ④ **ディスタンススイッチ**
ACC の車間距離設定を行います。
- ⑤ **RES/+ スイッチ / SET/- スイッチ**
 - ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。
 - LKAS の作動と復帰を行います。

■ メーターの表示

ACC、LKAS の現在の状態を表示します。



①ACC の作動状態

- グリーン、ホワイト / グリーン:作動中
▶ 先行車を検知していないとき、ホワイト / グリーンで表示
- ホワイト:待機中
- オレンジ:システムが異常のとき

②LKAS の作動状態

- グリーン:作動中
- ホワイト:待機中
- オレンジ:システムが異常のとき

③LKAS の ON と OFF の状態と制御状態

- グリーンの線:作動中
- ホワイトの線:車線を検知した状態
- オレンジの線:
点灯した側の車線逸脱を検知

④ACC の先行車検知状態

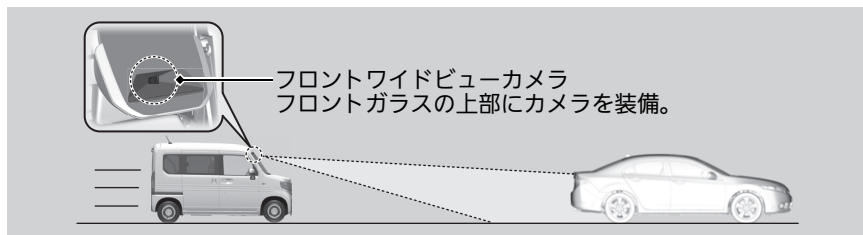
⑤ACC の設定車速

⑥ACC の設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両(二輪車含む)のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■ システムの作動



自車の車速が約5km/h以上になるとカメラが前方の車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の検知を開始。

自車との速度差が約5km/h以上ある車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

交差点などでの右折時は、自車が約30km/h以下で走行中に対向車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBS が作動します。

対向車両、停止車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれなくなると判断した後に、CMBS は解除されます。

なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

■ CMBS の警告のしかた



システムはメーターの警告表示や警告音により衝突のおそれがあることを運転者に知らせます。

▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。

🔍 時計*/車両設定 P.54

遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

⚠ 警告

衝突軽減ブレーキ（CMBS）は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

このシステムのカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

🔍 フロントワイドビューカメラ P.168

アクセルペダルの踏み込み量が多いときに、システムが作動しない場合があります。

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

マニュアル車

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。

■ エンジンの始動 P.102

運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温のとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

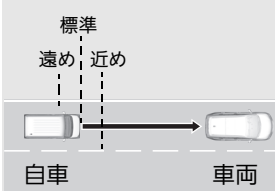
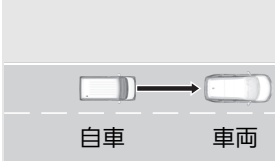
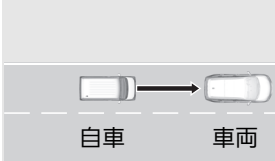
エンジン始動後、約 15 秒の間は CMBS は作動しません。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ CMBS 作動の流れ

CMBS の作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第1段階		車両への衝突のおそれが出てきた状況	警告表示が点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ■ 時計*/車両設定 P.54	—
				
第2段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
				
第3段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※: CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ CMBS の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

❏ 表示の切り換えかた P.46

❏ 安全支援情報 P.51

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

■ CMBS の条件と制限

次のような場合、カメラが車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 車両(二輪車含む)、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 路上の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を、車両や歩行者と誤って認識したとき
- 前方の車両(二輪車含む)による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- ウィンドウォッシャーからの水滴またはワイパーブレードによってカメラの視野が遮られているとき
- 滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき

■ 前方の車両、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりや前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 車両が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両(タンクローリーなど)が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両が側方から接近してきたとき

■ その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 前方の車両(二輪車含む)や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作(交差点などでの右折時を除く)^{※1} をしながら、前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンDEM自転車などの全長が長い自転車
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき

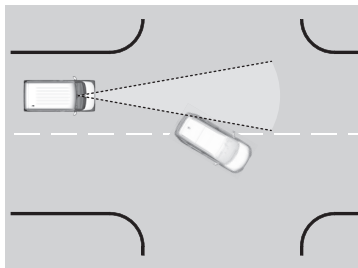
※1: 右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

■ 衝突の可能性が高くない場合の作動について

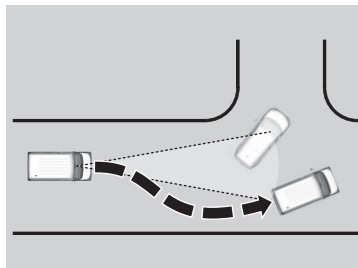
衝突の可能性が高なくても、以下のとき CMBS が作動することがあります。

また、車両、歩行者および移動する自転車の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。

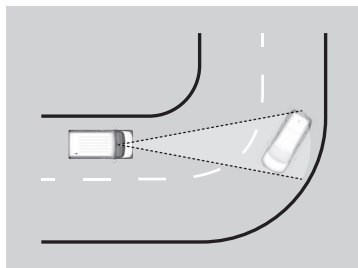
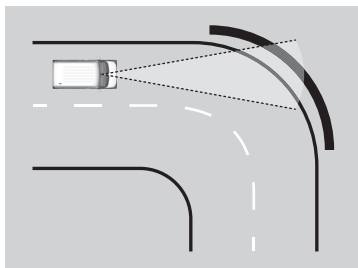
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき



- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合



- 車両、歩行者および移動する自転車と自車が接近したとき
- 車両や歩行者、移動する自転車が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどの構造物があるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両が接近するとき
- 左折または右折する車両（二輪車含む）、歩行者、および自転車を通過するとき
- 前方の側方から近づいてくる車両（二輪車含む）、歩行者、および自転車の前を通過するとき
- 車両（二輪車含む）、歩行者、および自転車が左折または右折して自車の側方から近づいたとき
- 左折または右折中に前方の車両（二輪車含む）、および自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両（二輪車含む）、および自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 車両（二輪車含む）、歩行者、および自転車が自車の進路に入って止まったとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入って止まったとき
- 路上駐車中の車両の横を通過するとき

踏み間違い衝突軽減システム*

踏み間違い衝突軽減システムは、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 2 つの機能を持ったシステムです。

フロントバンパーおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のエンジンの出力抑制により、衝突被害の軽減を支援するシステムです。

警告

踏み間違い衝突軽減システムはあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

踏み間違い衝突軽減システムは停止状態を保つことができるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングでシステムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。

縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。

ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

■ ソナーセンサー P.170

不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。

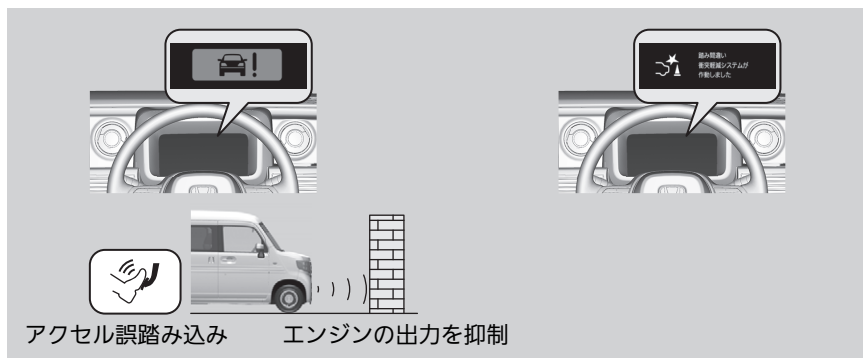
リアセンサーや、その周囲にアクセサリ（自転車ラックなど）を取り付けた場合、アクセサリを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リアパーキングセンサーを OFF にしてください。

■ 設定項目 P.55

■ システムの作動

停車時や約 10 km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、警告音と警告表示で知らせるとともにエンジンの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が作動しないとき
 前進: 急な坂道やシフトポジションが、**P**、**R**、**N** のとき
 後退:

- 急な坂道やシフトポジションが **R** 以外のとき
- パーキングセンサーシステムをリアのみ OFF にしているとき

❏ 設定項目 P.55

■ システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

❏ 表示の切り換えかた P.46

❏ 安全支援情報 P.51

機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

■ 作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。

作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能は、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。

(例: 前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する)

■ システムの条件と制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■ ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

■ ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

■ その他システムが正しく作動しない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■ 次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります

- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

急アクセル抑制機能*

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠ 警告

急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者はシフトポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

急アクセル抑制機能はHonda販売店で機能が作動するように設定されたHondaスマートキーが必要となります。

設定についてはHonda販売店にご相談ください。

急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。

同時持ち込みすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。

起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

サスペンションの改造はしないでください。

システムが正常に作動しないおそれがあります。

■ システムを作動させるには



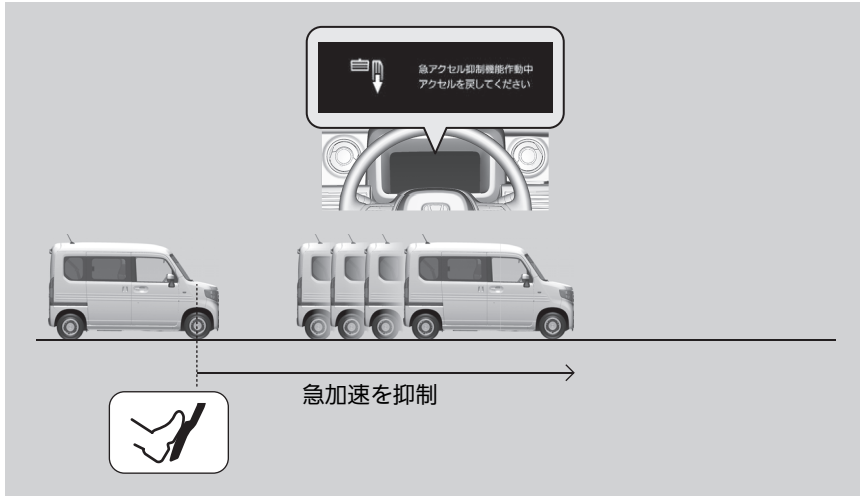
急アクセル抑制機能が作動するように設定されたHonda スマートキーを携帯していることを確認し、内蔵キーを使わずに解錠する。

- ▶ エンジンを始動したとき、急アクセル抑制機能の起動メッセージ、急アクセル抑制機能表示灯の点灯を確認してください。

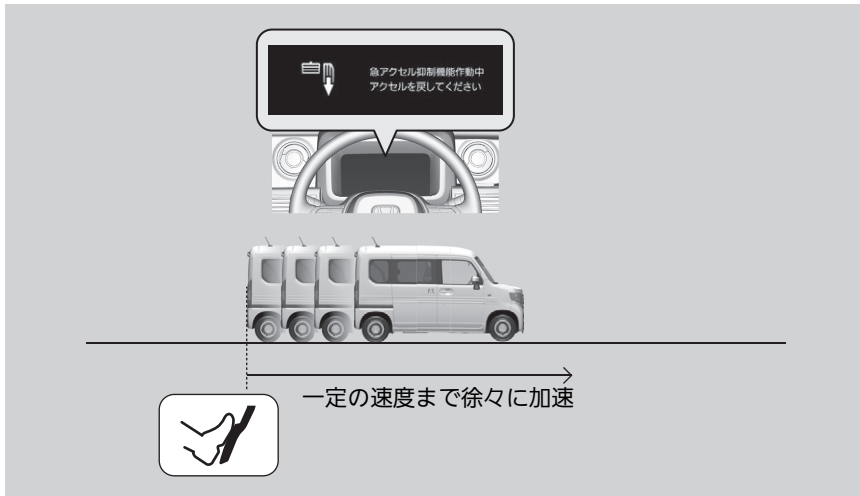
電池切れの場合、急アクセル抑制機能が起動しない場合があります。

■ システムの作動

車速が約30km/h以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに急加速を抑制します。



加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。



次の場合、急アクセル抑制機能は作動しません。

- 方向指示器が点滅中、または、消灯後、約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと、約 2 秒間
- 上り坂を走行しているとき

■ 作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき

■ 急アクセル抑制機能の条件と制限

次のような状態のときは、急アクセル抑制機能が正常に作動しない場合があります。
また、加速したい場合に作動することがあります。

■ 道路状況

- 坂道、凸凹道、砂利道など非舗装路の走行
- 雪道などスリップが発生するような道路の走行
- 坂道の出口など、車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレーカー、縁石など、大きな段差を乗り越えたとき

■ 自車の状態

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■ その他

- 惰性走行から急いで加速したとき（たとえば、ETC レーン通過後の加速）

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

⚠ 警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器（ウィンカー）を使用しない車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検知したときに警告します。

車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検出できない場合があります。天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

エンジン始動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📺 フロントワイドビューカメラ P.168

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

📺 路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.137

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。

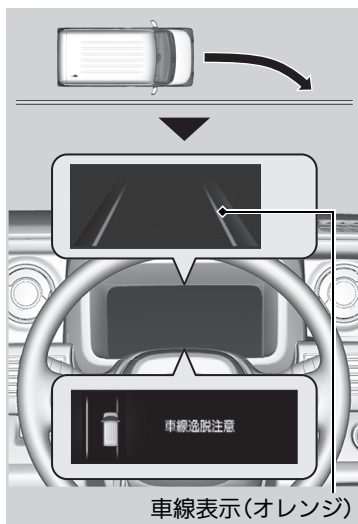
車線維持支援システム(LKAS)を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合に以下のメッセージが表示される場合があります。

📺 時計*/車両設定 P.54



この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

- ▶ 車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うことで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。



繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

■ システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)の場合
 - 車速が約 60km/h ~ 120km/h のとき
 - ▶ 対向車両が走行している場合
 - 車速が約 30km/h ~ 120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合
 - 車速が約 30km/h ~ 120km/h のとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、安全支援情報警告灯(オレンジ)および路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

■ 警告灯 P.33

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■ システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

■ 表示の切り換えかた P.46

■ 安全支援情報 P.51

エンジン始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定を変更することができます。

時計*/ 車両設定で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル制御を行いません。

■ 時計*/ 車両設定 P.54

■ 路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件下では、システムは白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■ 環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- サスペンションを変更したとき

■ 対向車両の状態により正しく検知できない事例

- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりに対向車両が片側点灯または無灯火のとき

- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき

■ その他、作動できない事例

- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■ 衝突の可能性のない場合の作動について

以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。

- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

⚠ 警告

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

エンジン始動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

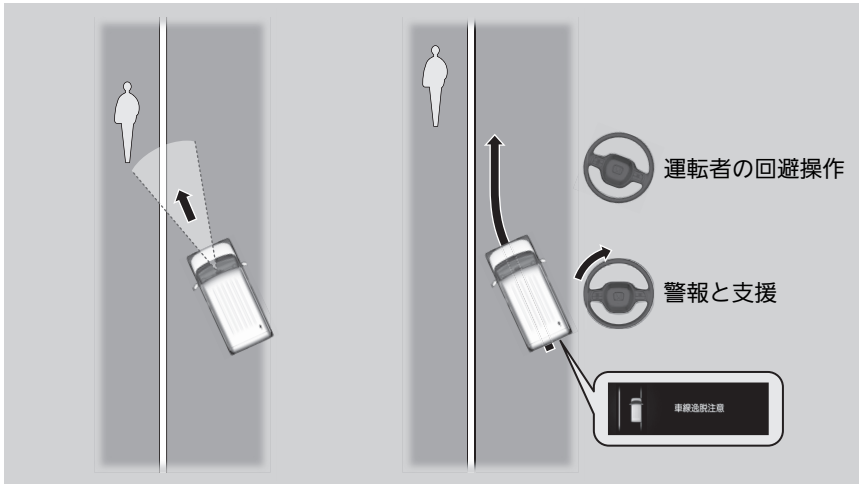
📷 フロントワイドビューカメラ P.168

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

📷 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限 P.141

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

■ システムの作動



カメラが白線(黄線)および歩行者を検出します。

路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。

車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ(CMBS)の作動が優先される場合があります。



繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

■ システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■ システムの ON と OFF

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

■ 表示の切り換えかた P.46

■ 安全支援情報 P.51

エンジン始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

カスタマイズ機能で路外逸脱抑制機能の設定を「操舵アシストなし警報のみ」にした場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

■ 時計*/車両設定 P.54

■ 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。

運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

■ 歩行者の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■ その他、作動できない事例

- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両など

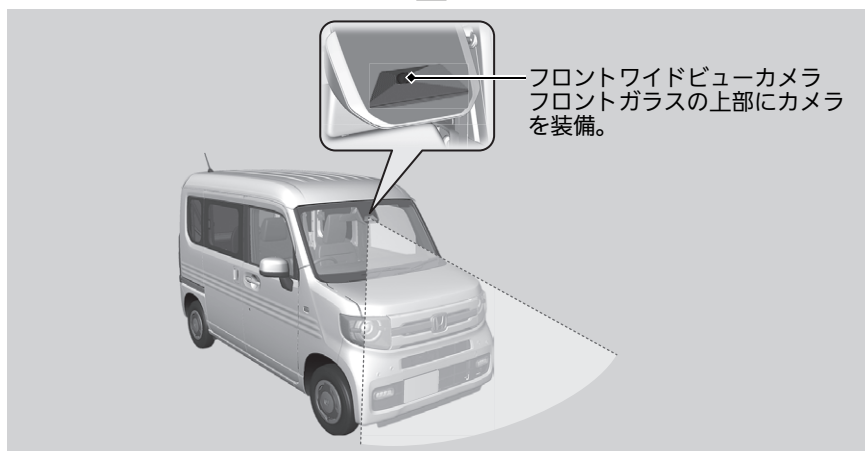
アダプティブクルーズコントロール(ACC)*

ACC は、フロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

ACC を作動させるには：

ACC システムは、シフトポジションが[D]のときに使用することができます。



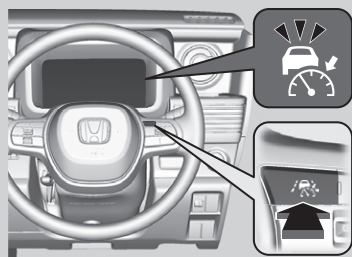
ブレーキペダルを踏んでいるときは、ACC は作動しません。

悪天候などで、フロントワイドビューカメラが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ システムを作動させるには

メーター内に(ホワイト)が点灯し、ACC が待機状態になります。
条件を満たせば、同時に車線維持支援システム(LKAS)が待機状態になります。



ハンドルのスイッチを押す

警告

ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

警告

ACCは、補助システムとして使用してください。ACCは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

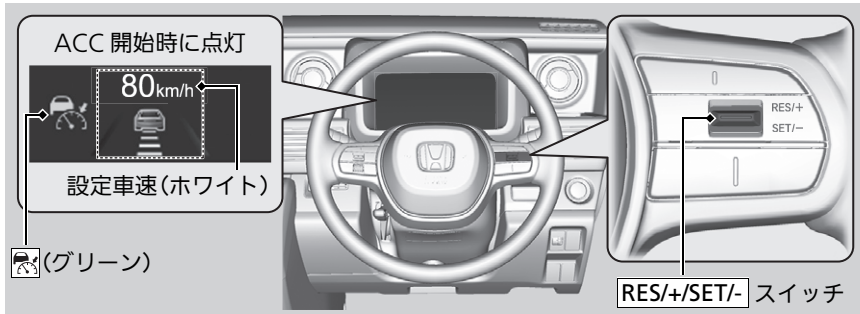
使用上の注意：

ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📷 フロントワイドビューカメラ P.168

■ 車速をセットするには



車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに **RES/+ SET/-** スイッチを上か下に押すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

▶ 条件を満たせば、同時に車線維持支援システム(LKAS)が作動します。

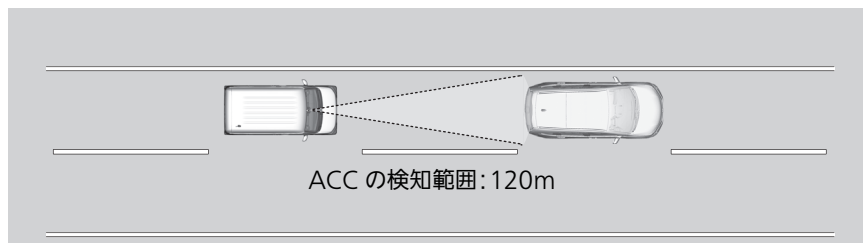
下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ ACC の作動

■ 先行車がいるとき

ACC は先行車がフロントワイドビューカメラの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



メーターに車のアイコンが表示されます。

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

■ 先行車がないとき



メーターに実線の車のアイコンが表示されます

先行車がない場合、設定した車速で定速走行します。

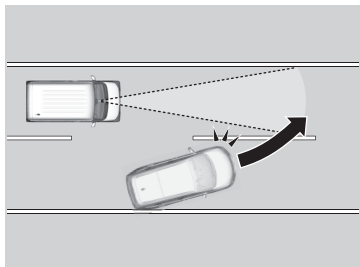
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

急な下り坂では、設定した車速を超えてしまう場合があります。

■ アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいっても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はできません。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

カスタマイズ機能で先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

🔧 時計*/車両設定 P.54

制限:

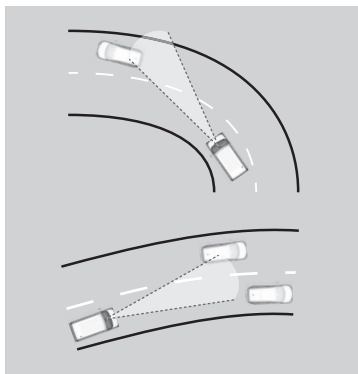
安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより ACC が適切に作動しないことがあります。

🔧 ACC の条件と制限 P.148

🔧 車間距離を設定するには P.150

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。以下の条件ではACCの機能の一部を発揮できない場合があります。

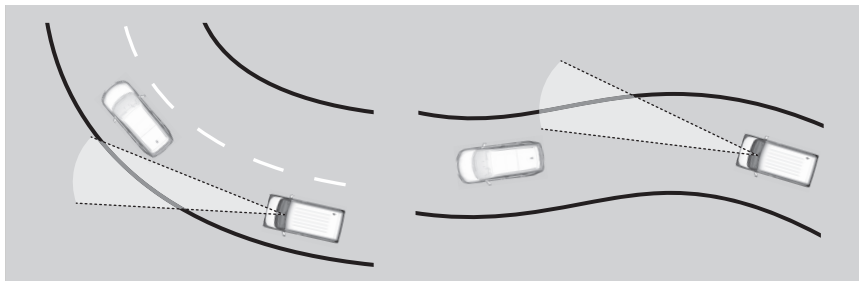
📺 フロントワイドビューカメラ P.168

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 路面に水溜まりや水膜があるとき

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

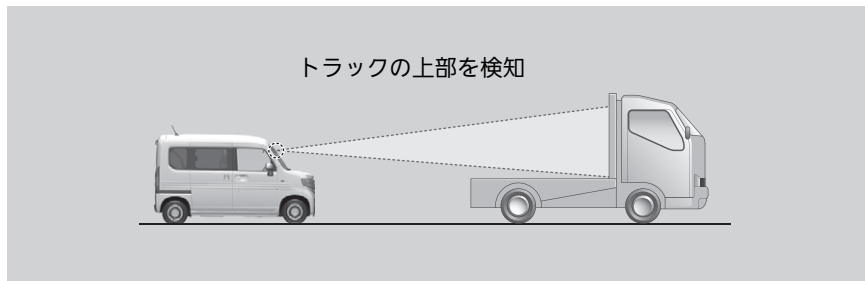
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■ 前方の車両の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき
- 前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- 前方の車両の車高が低いとき
- 暗がりや前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

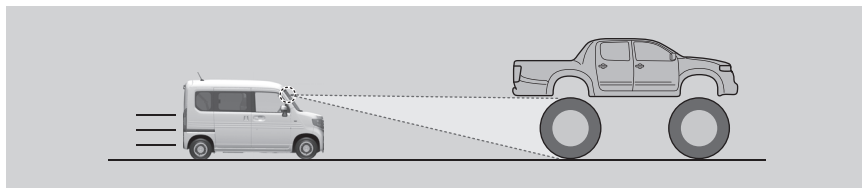
■ その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両が特殊な形状の車両
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両



- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき

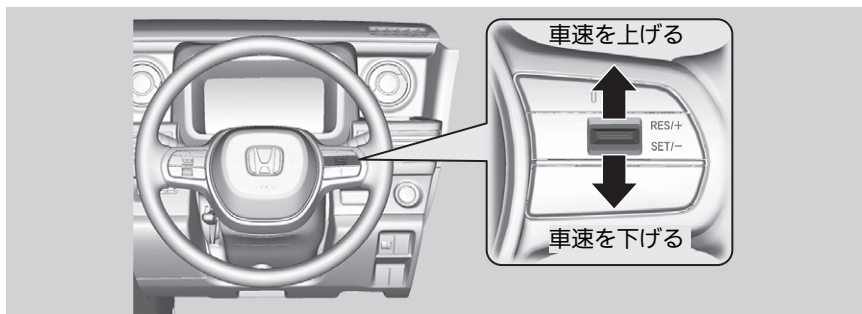
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



- 前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■ 設定車速を調整するには

手元の **RES/+SET/-** スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



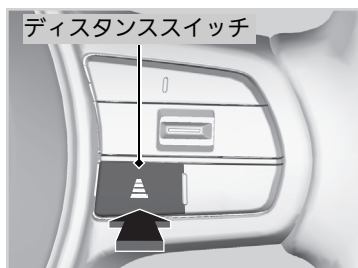
- ① **RES/+** 側
 - 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
 - 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定
- ② **SET/-** 側
 - 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
 - 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。

これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、**RES/+SET/-** スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

■ 車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。

先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。

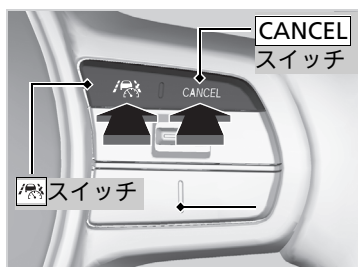
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。

適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 27m	約 33m
中		約 35m	約 43m
長		約 44m	約 55m
最長		約 54m	約 67m

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。このとき同時に車線維持支援システム (LKAS) が解除されます。

- **CANCEL** スイッチを押す
 - ▶ メーター内のがホワイトになります。
- スイッチを押す
 - ▶ メーター内の (グリーン) が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
 - ▶ メーター内の (グリーン) が (ホワイト) になります。

■ ACC の自動解除

次の場合は、メッセージが表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、衝突軽減ブレーキ (CMBS)、踏み間違い衝突軽減システムまたは衝突後ブレーキシステムや急アクセル抑制機能が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 急加速したとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- ブレーキシステム警告灯 (オレンジ) が点灯したとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

解除前の設定車速を復帰させるには：

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。**RES/+SET/-** スイッチを上を押した場合、この車速で作動が開始されま

す。また、 (ホワイト) が表示され、解除前の設定車速 (グレー) の表示が無い状態で

RES/+SET/- スイッチを上を押した場合は、

RES/+SET/- スイッチを下を押した場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

-  スイッチを押して ACC を OFF したあと
- 30km/h 未満のとき

解除前の設定車速(グレー)



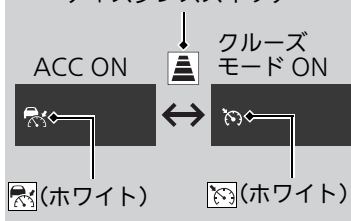
加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときに ACC が自動解除された後、条件が継続する場合は、その後一時的に ACC をセットできない場合があります。



クルーズセット
一時不可:
しばらくしてから
再度セットしてください

■ クルーズモードへの切換え

ディスタンススイッチ



ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。

マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。

同時に、メーター内の  (ホワイト) が  (ホワイト) に変わります。

再度ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、ACC に戻ります。

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

以下の場合、モードを切り換えられません。

- 車速をセットしているとき
-  スイッチが OFF のとき

クルーズモードへ切り換えた状態でもスイッチを押して ON にし直すたびに、ACC に戻ります。

■ 車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、**RES/+ / SET/-** スイッチを上か下に押します。**RES/+ / SET/-** スイッチを上か下に押して離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、メーターに

■ 作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

■ 車速を調節するには

RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離れたときの設定車速に固定

SET/- 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離れたときの設定車速に固定

■ 解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

- **CANCEL** スイッチを押す
 - ▶ メーター内のスイッチを押す
 - ▶ メーター内の154

解除前の設定車速に復帰させる

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。**RES/+SET/-** スイッチを上にした場合、この車速で作動が開始されます。

また、 (ホワイト) が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で **RES/+SET/-** スイッチを上にした場合は、**RES/+SET/-** スイッチを下にした場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 車速が 30km/h 未満のとき
-  スイッチで OFF 操作をしたとき



車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

5 運転 車線維持支援システム(LKAS)*

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

⚠ 警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。LKAS は、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

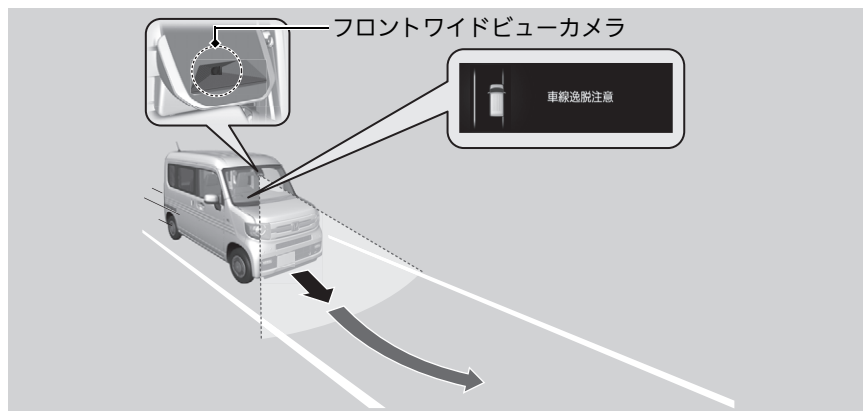
📷 フロントワイドビューカメラ P.168

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

📷 LKAS の条件と制限 P.159

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

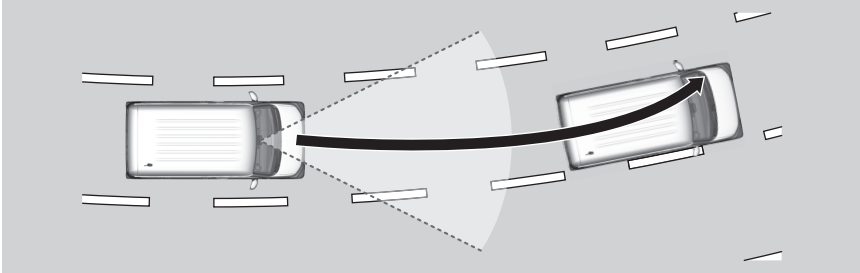
■ システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。アダプティブクルーズコントロール(ACC)作動中に方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警告が作動します。

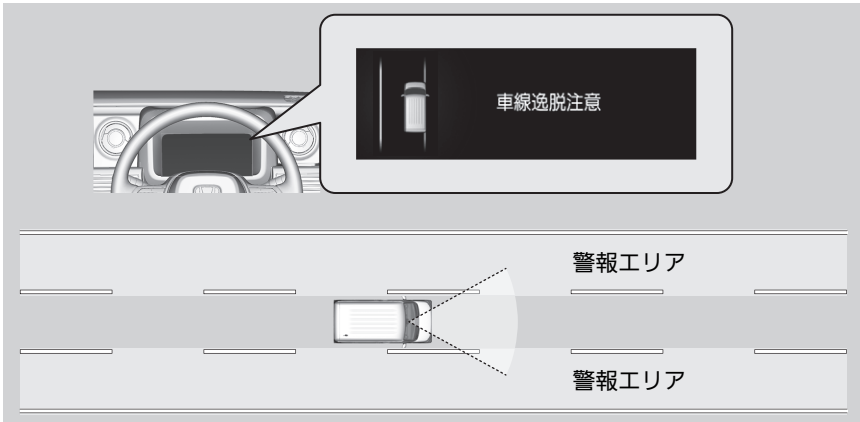
■ 車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■ 車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音およびディスプレイ表示で行います。

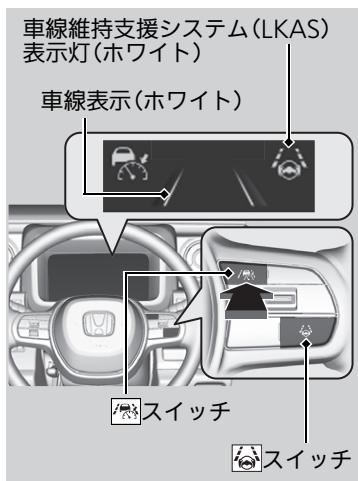


■ LKAS を作動させるには

LKAS は、ACC が作動しているときに以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出していないとき

■ システムの作動方法



1. スイッチを押す。
 - ▶ メーターに (ホワイト) とともに車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト)が点灯し、システムが待機状態になります。車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト)が消灯している場合は スイッチを押すと点灯し待機状態になります。
 - ▶ カメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターに車線表示(ホワイト)が点灯します。
 - ▶ このとき ACC が待機状態になります。
2. **RES/+SET/-** スイッチを上か下に押す。
 - ▶ システムが作動可能状態のときに **RES/+SET/-** スイッチを押すと、制御を開始します。
 - ▶ このとき ACC が作動します。
3. 車線の中央付近を走行する。
 - ▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターの車線表示とLKAS表示灯がグリーンに切り替わり、LKASの制御を開始します。

システムが作動しているときに、左右の白線(黄線)に偏る場合は、システムを停止しHonda 販売店で点検を受けてください。

白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

■ LKAS の条件と制限 P.159

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

■ 解除するには



 スイッチを押すと、LKAS が解除されます。

■ LKAS が自動的に一時解除されるとき

次の場合、メーターの車線表示と LKAS 表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。



- 車速が 50km/h 以下になったとき
 - ▶ 車速が 50km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。
 - 白線(黄線)を検知できないとき
 - 急なハンドル操作をしたとき
 - ハンドル操作をしていないとき
 - 急なカーブを走行したとき
 - 制限速度を超えた速度で走行したとき
 - ABS、VSA が作動しているとき
 - ACC が作動していないとき
- これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■ LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、メーターの車線表示が消え、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

カスタマイズ機能で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

🔊 時計*/車両設定 P.54

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



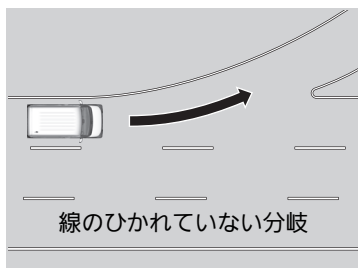
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

車線幅が極端に広い／狭い



- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

- 分岐・合流路などを走行するとき

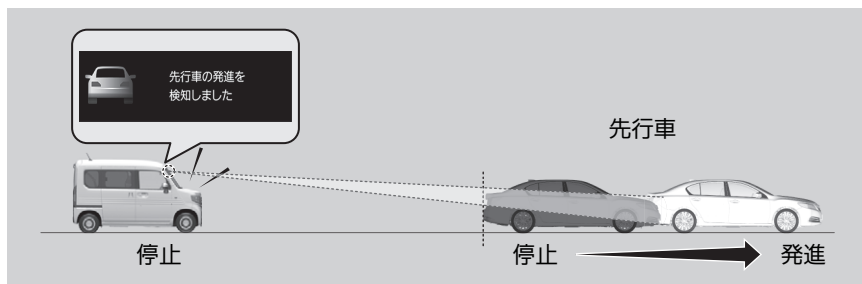


■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



⚠ 警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📺 フロントワイドビューカメラ P.168

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能を OFF にすることができます。

📺 時計*/車両設定 P.54

無段変速オートマチック車

アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

📺 警告灯 P.33

■ システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約 10m 以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

無段変速オートマチック車

■ シフトポジションが **D**、**L** の場合

ブレーキペダルを踏んでいる。

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

無段変速オートマチック車

■シフトポジションがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

マニュアル車

■チェンジレバーがR以外の場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

🔍 時計*/車両設定 P.54

標準は先行車が停止状態から約3m以上進んだときに作動します。

早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

■システムの作動状態



システムが作動すると、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かっていているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 自車の停車している時間が短いとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■ 先行車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき
- 先行車が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりでは先行車が片側点灯または無灯火のとき

■ その他、カメラが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

■ その他、作動できない事例

- 先行車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 先行車の最低地上高が極端に高いとき
- 先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。

表示される道路標識は以下の4つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

警告

標識認識機能は補助機能として使用する。

標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

エンジン始動後、約 15 秒の間は標識認識機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📺 フロントワイドビューカメラ P.168

標識認識機能表示は、ON/OFF の設定を変更することができます。

📺 時計*/車両設定 P.54

最高速度アイコンの点滅による速度超過お知らせ機能の ON/OFF を設定できます。

📺 時計*/車両設定 P.54

速度超過お知らせを開始するタイミングを変更できます。工場出荷時は、認識した最高速度標識の速度を超えるとお知らせします。

📺 時計*/車両設定 P.54

標識認識機能が故障した場合はメーターに🚫が表示されます。

🚫のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



この「♣️」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、メーターに道路標識情報を表示します。

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合、道路標識は表示されません。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止:速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止:自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百～千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

■ 標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

■ その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。

(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自転車の走路に対しての標識ではないが、自転車の走路付近にあり、標識が自転車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

■ メーターの表示

同時に2つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

■ 表示例

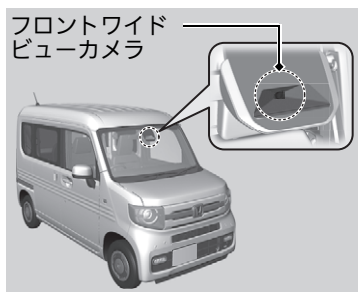


左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。

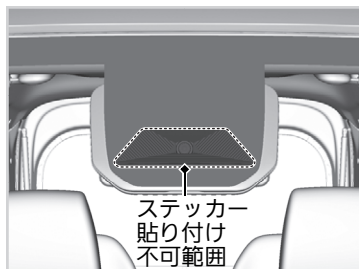
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

フロントワイドビューカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けしないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。

Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなることがあります。

フロントガラスの修理や交換をする場合は Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

🔧 車内の清掃 P.208

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。

物がフロントガラスに反射して車線等を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなることがあります。

次の場合は Honda 販売店にご相談ください。

- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。

必要に応じてデフロスターを使用してください。

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示される場合:

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、センサーカメラ周辺の温度を下げてください。

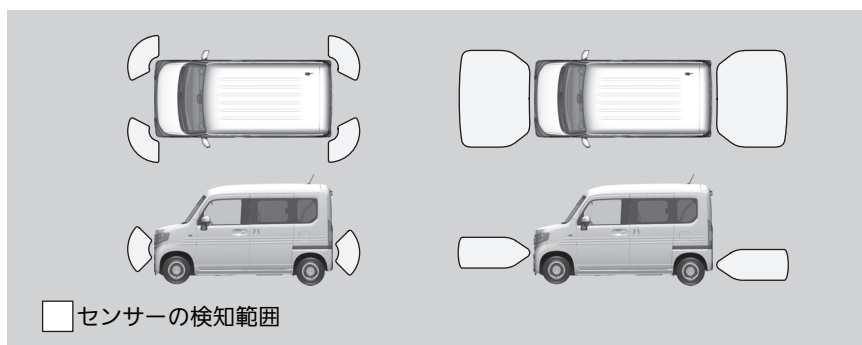
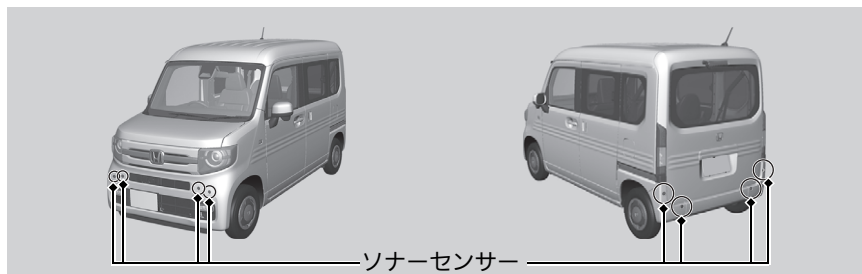
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラ視界不良のため認識できません」が表示される場合:

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

ソナーセンサー

■ センサーの取り付け位置と検知範囲

ソナーセンサーはバンパーに設置されています。



ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- リヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

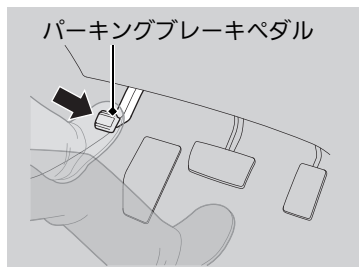
ブレーキ操作

ブレーキシステム

■ パーキングブレーキ

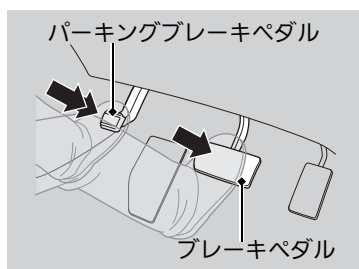
無段変速オートマチック車

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっばいに踏み込む。

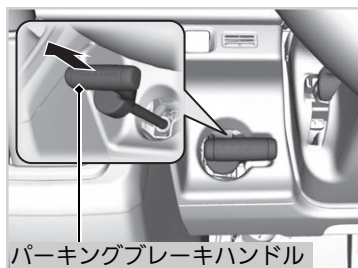


■ パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

マニュアル車

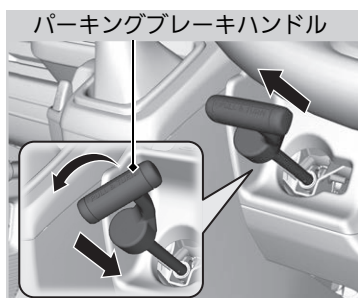
主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキハンドルにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキハンドルをいっぱい引く。

- ▶ パーキングブレーキハンドルを引くときは、パーキングブレーキハンドルを水平状態にして引いてください。



■パーキングブレーキを解除する

1. ブレーキペダルを踏む。
 2. パーキングブレーキハンドルを手前に引きながら左に止まるまで回し、そのまま前方へ戻す。
- ▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。

マニュアル車

パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキハンドルは空回りするようになっています。解除するときは手前に引きながら操作してください。

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」と表示が出ます。

完全に解除すると、ブザーは止まります。

停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

❏ 電子制御ブレーキアシスト P.174

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.173

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

マニュアル車

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

無段変速オートマチック車

無段変速オートマチック車は[L]にして、エンジンブレーキを使用してください。

エンジン始動直後や標高が高いときなど特定の条件下でブレーキを踏んだとき、ブレーキの効きを補うハイドロリックブレーキブーストが装備されています。

この機能が作動するとブレーキペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえる場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなる場合があります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

電子制御ブレーキアシスト

■ 電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■ 電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

■ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.117

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■ 作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐停車操作

無段変速オートマチック車



注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

無段変速オートマチック車

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。

無段変速オートマチック車

3. シフトポジションを[P]にする。
4. エンジンを停止する。

▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

マニュアル車

3. チェンジレバーを[N] (ニュートラル)に入れる。
4. エンジンを停止し、チェンジレバーを[R]または[1]に入れる。

▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。

無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。

輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンサーセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリアセンサーセンサーおよびリアコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

📖 ソナーセンサー P.170

駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。

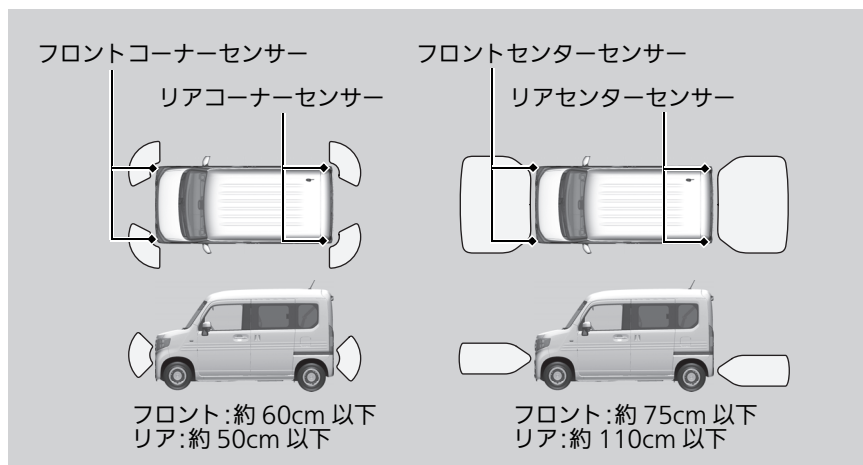
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。

- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

■ パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



■ パーキングセンサーの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

警報音および表示が OFF になります。

■ 表示の切り換えかた P.46

■ 安全支援情報 P.51

フロントコーナーセンサーおよびリアセンサーは、シフトポジションが[R]で、車速が9km/h以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが[P]以外で、車速が9km/h以下のとき障害物を検知します。

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF にする前の状態(ON または OFF)を保持します。

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、リアパーキングセンサー警報設定の ON/OFF を切り換えることができます。

📄 時計*/車両設定 P.54

■ 障害物を検知したときの作動状態



パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサー警告灯が点滅します。

- ▶ システムをOFFにしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。

警報音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	フロント：約 75-55cm リア：約 110-60cm	点灯 (イエロー) ^{※1}	障害物を検知した場所をインジケーターで知らせる 
短い	フロント：約 60-45cm リア：約 50-45cm	フロント：約 55-45cm リア：約 60-45cm	点灯 (オレンジ)	
非常に短い	約 45-35cm	約 45-35cm		
連続	約 35cm 以下	約 35cm 以下	点灯(レッド)	

※1: このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

警報音を一時的に OFF にするには、警報音がなっているときにレフトセクターホイールを押してください。シフトポジションを切り替えるか 14km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

給油

指定燃料について

■ 指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■ タンク容量

2WD 車 27 リットル

4WD 車 25 リットル

アドバイス

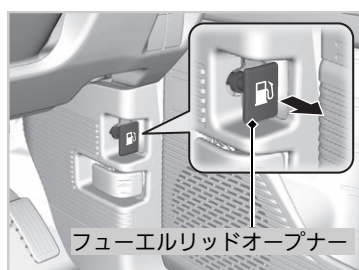
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

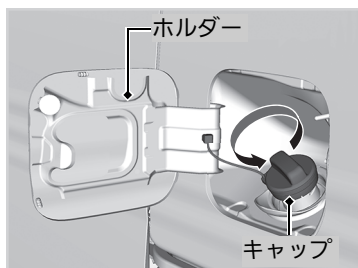
- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

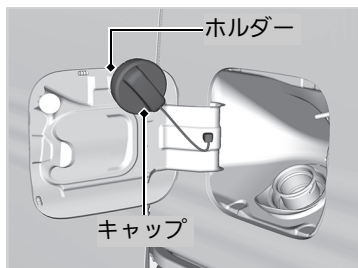
給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元のフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



5. キャップをホルダーにかける。

6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。

▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

7. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。

▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

⚠ 警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

⚠ 警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

ターボ車* について

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。

❑ オイルメンテナンス表示* P.186

❑ 推奨エンジンオイル P.191

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動するとマルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水温上昇中」または、「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示されることがありますが、機能的に問題はありません。

約 1 分間アイドリング運転を行うか、走行するとメッセージは消えます。

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。

ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない
- エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る

タービンは毎分 10 万回転以上の高回転で回り、かつ 700℃ 以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

■ 点検整備の種類

■ 日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■ 定期点検

12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■ その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

⚠ 警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。

必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

■ メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
 - ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■ 車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
 - ▶ 車両の状態によっては、パワーモードを OFF モードにしても冷却ファンが作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
 - ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。
 - ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

メンテナンスに関する注意事項

■ メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

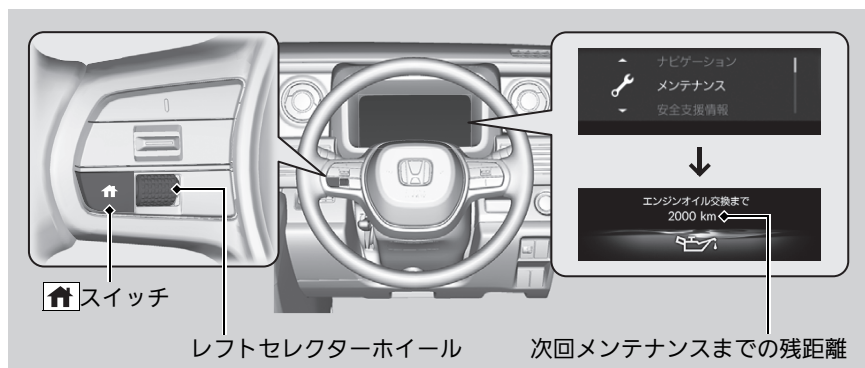
オイルメンテナンス表示*

オイルメンテナンス表示は、リセットしてからの距離に応じてエンジンオイル、エンジンオイルフィルターの交換時期の目安をマルチインフォメーションディスプレイにてお知らせします。

メンテナンスが必要な場合は、表示されたメッセージと距離を目安に、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルメンテナンス情報の表示

1. パワーモードを ON モードにする。
2.  スイッチを押し、 アイコンが表示されるまで、レフトセクターホイールを回す。
3. レフトセクターホイールを押し。
▶ マルチインフォメーションディスプレイにオイルメンテナンス画面が表示されます。

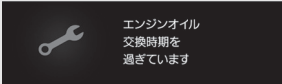
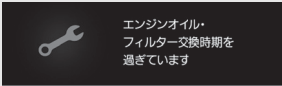


残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換からの経過時間に応じてメンテナンスが必要です。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージと オイルメンテナンス情報

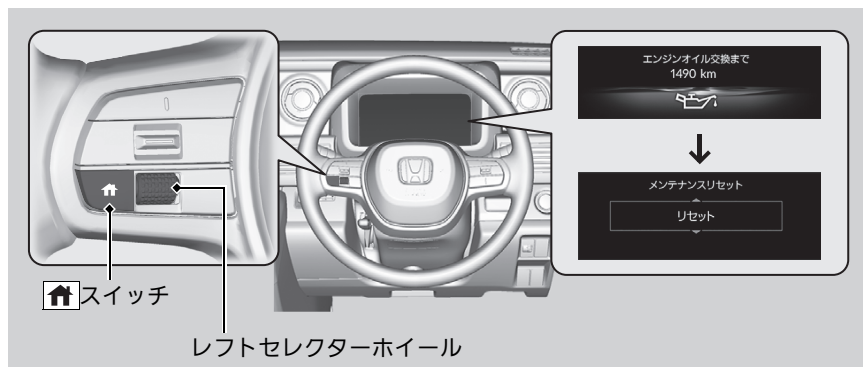
警告メッセージ	オイルメンテナンス情報	説明	情報
—	 	マルチインフォメーションディスプレイでオイルメンテナンス画面を選択するとメンテナンス時期までの走行距離が表示されます。	—
 まもなくエンジンオイル交換時期です		メンテナンス時期までの走行距離が750km未満になったとき表示されます。	メンテナンス時期が近くなっています。
 まもなくエンジンオイル・フィルター交換時期です			
 エンジンオイルを交換してください		メンテナンス時期までの走行距離が250km未満になったとき表示されます。	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
 エンジンオイル・フィルターを交換してください			

警告メッセージ	オイルメンテナンス情報	説明	情報
		メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けると、オイルメンテナンスをリセットしてください。	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けると、オイルメンテナンスをリセットしてください。
			

オイルメンテナンス表示のリセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルメンテナンスの表示をリセットします。

1. パワーモードを ON モードにする。
2.  スイッチを押す。
3.  アイコンが表示されるまでレフトセクターホイールを回す。
4. 表示されたらレフトセクターホイールを押す。
5. レフトセクターホイールを約 10 秒間押し続けるとリセットモードになる。
6. レフトセクターホイールを回し「リセット」を選択する。
7. リセットが選択された状態でレフトセクターホイールを押すとリセットされる。



アドバイス

メンテナンス後にオイルメンテナンスをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

カスタマイズ機能でもオイルメンテナンスの表示をリセットできます。

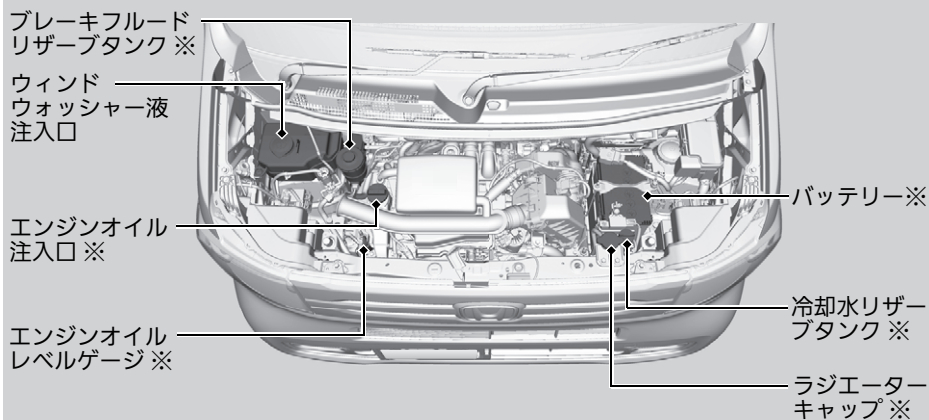
 時計*/車両設定 P.54

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

エンジンルーム内のメンテナンス

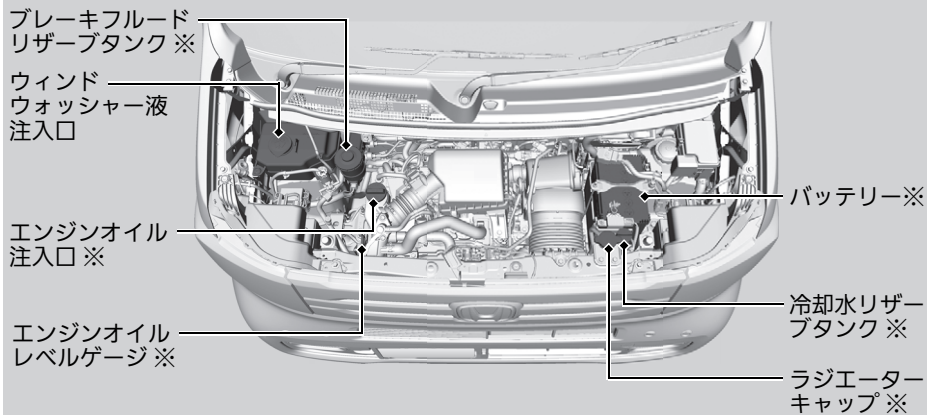
エンジンルーム内のメンテナンス項目

ターボ非装備車



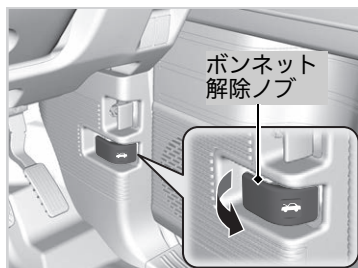
※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ターボ装備車

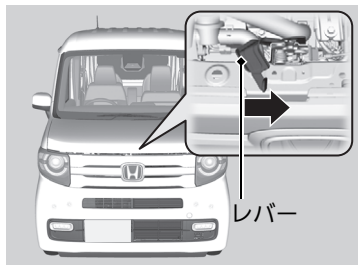


※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

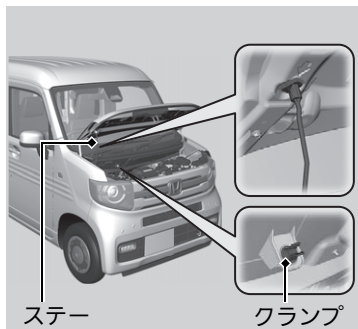
ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. ステーをクランプから取り外し、ボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約 30cm の高さから手を離します。

⚠ 注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

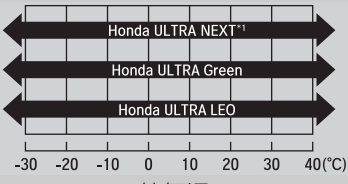
アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、種類と、(外気温に応じた)粘度について表にもとづきお使いください。

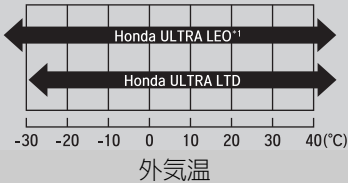
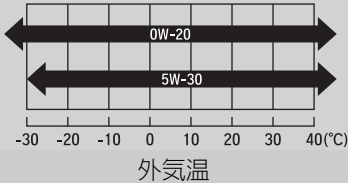
エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる場合があります。

ターボ非装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA NEXT*¹ • Honda ULTRA Green • Honda ULTRA LEO	API SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサー ティフィケーション)マークの入ったエン ジンオイル
	

*1:最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

ターボ装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO*¹ • Honda ULTRA LTD	API SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサー ティフィケーション)マークの入ったエン ジンオイル
	

*1:最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。

冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークは下記のとおりです。

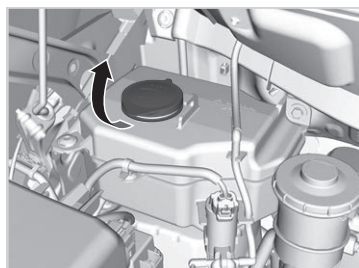


ターボ非装備車



ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

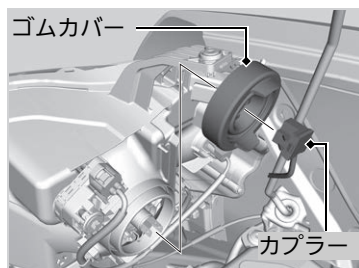
電球の交換

ヘッドライト電球

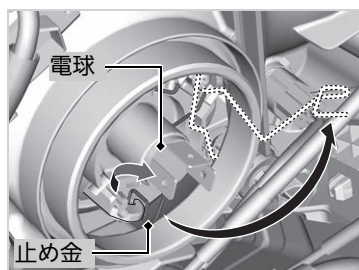
■ ハロゲンヘッドライト*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

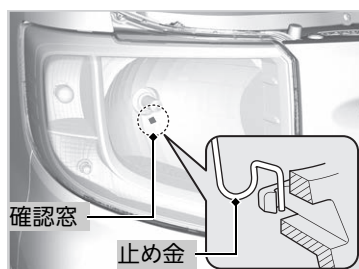
ハイ/ロービームハロゲンヘッドライト: 12V-60/55W



1. カプラーを抜き取る。
2. ゴムカバーを取り外す。



3. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
4. 新しい電球を取り付ける。



5. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
▶ 止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
6. カプラーを取り付ける。

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱いときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

■LED ヘッドライト*

点検、交換は、必ず Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

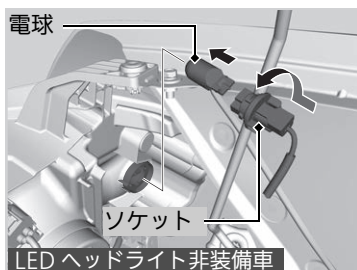
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

LED ヘッドライト非装備車

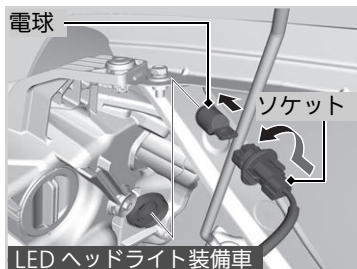
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯: 12V-21W(橙色)

LED ヘッドライト装備車

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯: 12V-21W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

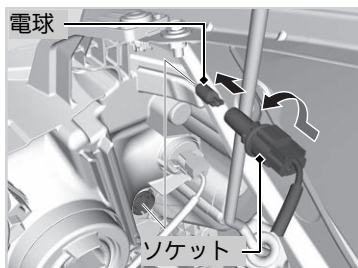


この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

車幅灯電球*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯: 12V-5W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

アクセサリライト / 車幅灯電球*

アクセサリライト / 車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

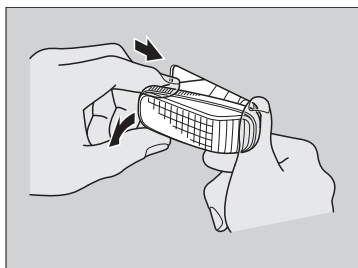
フォグライト電球*

フォグライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

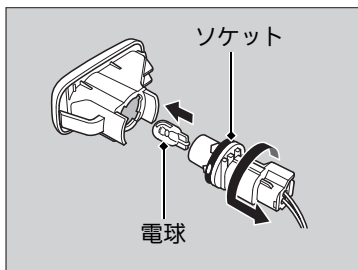
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯: 12V-5W



1. ランプ本体を後方にずらして取り外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

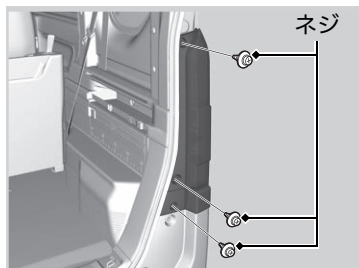
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

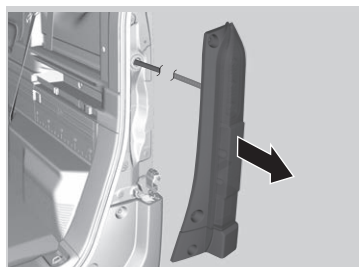
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

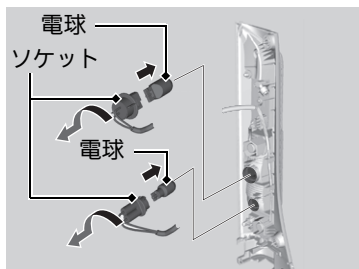
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V-21W(橙色)
後退灯	: 12V-16W



1. ネジを外す。



2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

4. 新しい電球を差し込む。

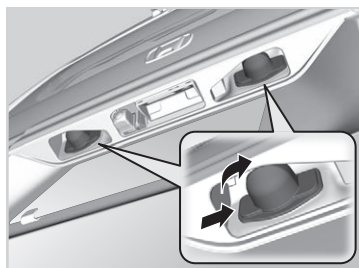
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

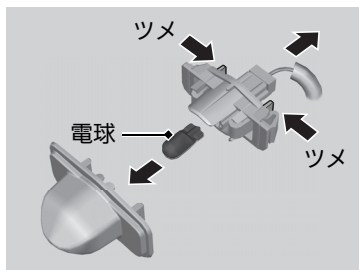
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯: 12V-5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ツメを押してカバーを外す。

3. 古い電球を抜き取る。

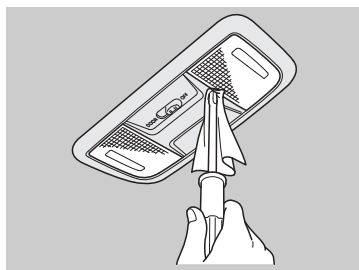
4. 新しい電球を差し込む。

その他の電球

■ マップランプ電球*

下記の電球をご使用ください。

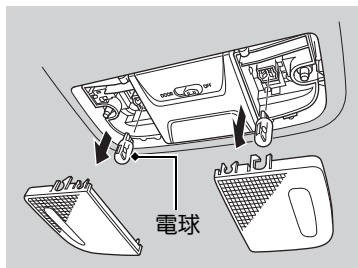
マップランプ: 12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

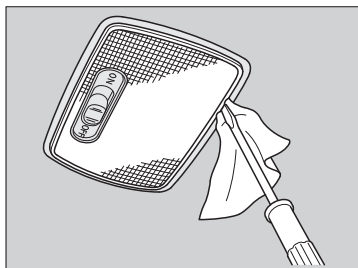


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

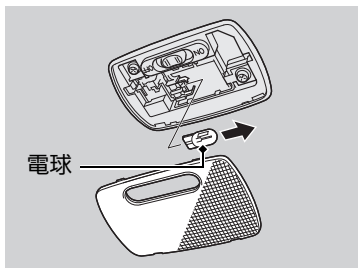
■ 室内灯 / カーゴスペース照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯 / カーゴスペース照明灯: 12V—8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



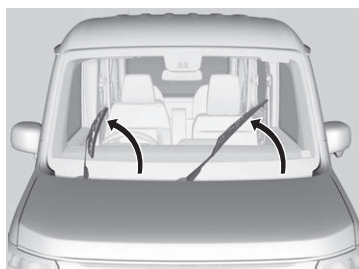
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検と整備

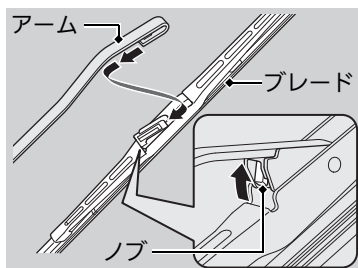
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

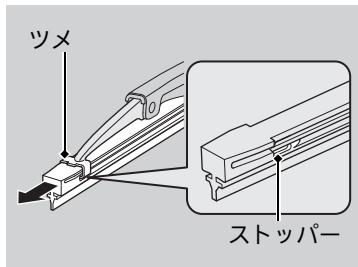
フロントワイパーブレードラバーの交換



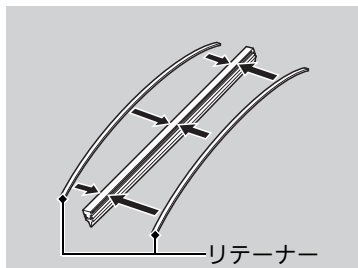
1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
 ▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。
5. ラバーをブレードの端から差し込む。
 ▶ 正しく固定されているか確認してください。
6. ブレードをワイパーアームに取り付ける。
7. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

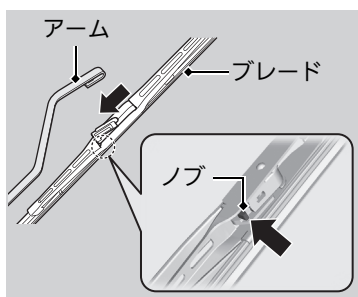
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

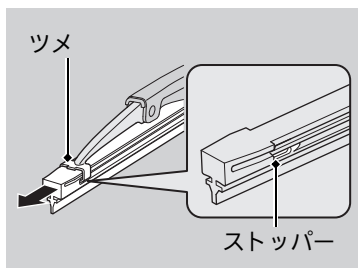
リヤワイパーブレードラバーの交換



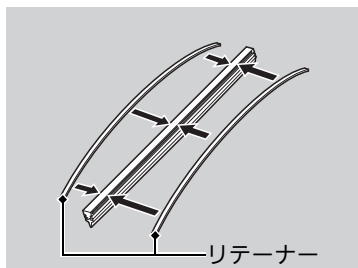
1. ワイパーアームを持ち上げる。



2. 図のようにブレード下部からノブを押し上げ、保持したままアームからブレードをスライドさせて外す。その後、アームをゆっくりと戻す。
 ▶ ワイパーアームやリヤガラスを傷付けないよう、ワイパーアーム先端に布などを巻き付けてください。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。
5. ラバーをブレードの端から差し込む。
▶ 正しく固定されているか確認してください。
6. ブレードをワイパーアームに取り付ける。

アドバイス

ワイパーアームを無理に持ち上げようとすると、ワイパーアームが破損するおそれがあります。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

タイヤの点検と整備

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■ 日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■ 空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

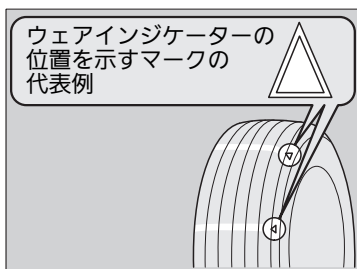
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

📖 仕様 P.246

■ 損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

⚠ 警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤの残溝の深さが 2.4mm 未満のときは、80km/h 以上の高速走行をしないでください。

標準タイヤの仕様

サイズ	空気圧
145/80R12 80/78N LT	前輪：280kPa(2.8kgf/cm ²) 後輪：350kPa(3.5kgf/cm ²)

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものが確認してください。

警告

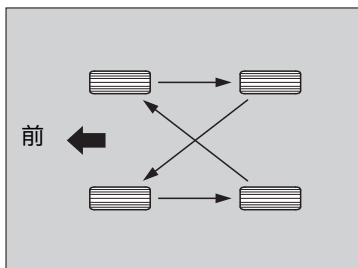
必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

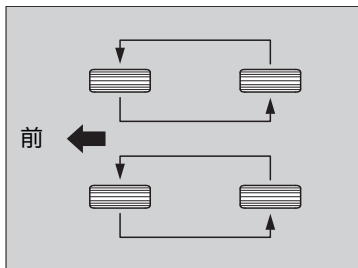
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■ 回転指示マークがないタイヤの場合



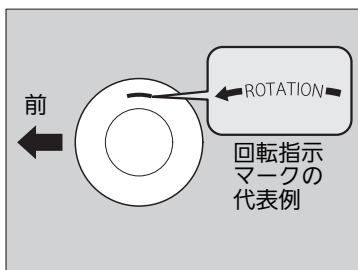
図のように、タイヤをローテーションさせます。

■ 回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



ホイールナット締め付けトルク
108 N・m (11 kgf・m)

アドバイス

前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なるので、位置交換後は必ず空気圧調整をしてください。

冬のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：

- 四輪とも同じ種類、同一指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディ、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキー

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない

- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

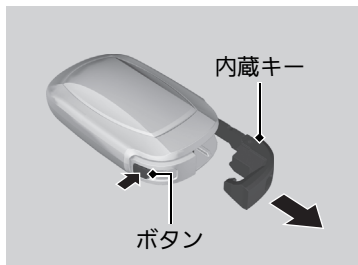
Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

電池切れの場合、急アクセル抑制機能* が起動しない場合があります。



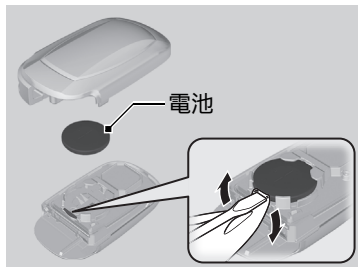
ボタン電池 CR2032

1. ボタンを押しながら、内蔵キーを取り出す。



2. ボタンを下にしてカバーを外す。

- ▶ 内蔵キーのグリップを差し込んで回します。
- ▶ カバーに傷が付かないように、グリップに布などを巻いてカバーを取り外します。



3. 電池を取り外す。

- ▶ ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。

4. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

⚠ 警告

**ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。**

この「※」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店で交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

エアコンのお手入れ

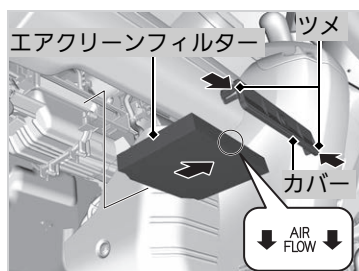
エアクリーンフィルター*

■ エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

■ エアクリーンフィルターの交換



1. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
2. エアクリーンフィルターを引き出す。
3. 新品と交換する。
▶ 「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

清掃

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

室内に水をかけないでください。

室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

スライドドアの内側にある端子には、ケミカル類等を付着させないでください。
故障の原因になります。

■ シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ スーパーUV カット*/IR カット* ドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー（ドアガラス）の車内側にUVカット膜やIRカット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

スーパーUV カット / IR カットドアガラス装備車

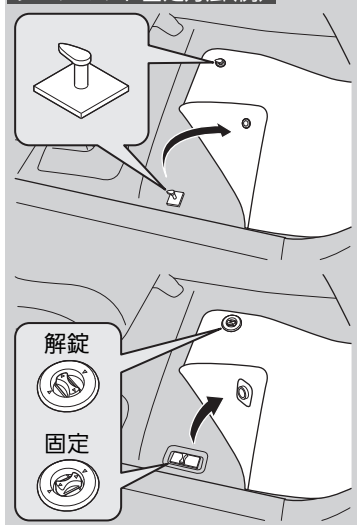
UV カット膜や IR カット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ フロアマット

フロアマット固定方法(例)



運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。

後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■ 洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

故意にエンジンルームや空気取り入れ口に水をかけないでください。

電装品などに水がかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。



洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。

ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、錆びて張り付くことがあります。

■ 自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- アンテナを取り外す

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
 - ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- カメラ* やカメラ周辺には、直接水をかけない
 - ▶ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。

■ ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適當な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

アクセサリと改造

警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。

適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。

故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

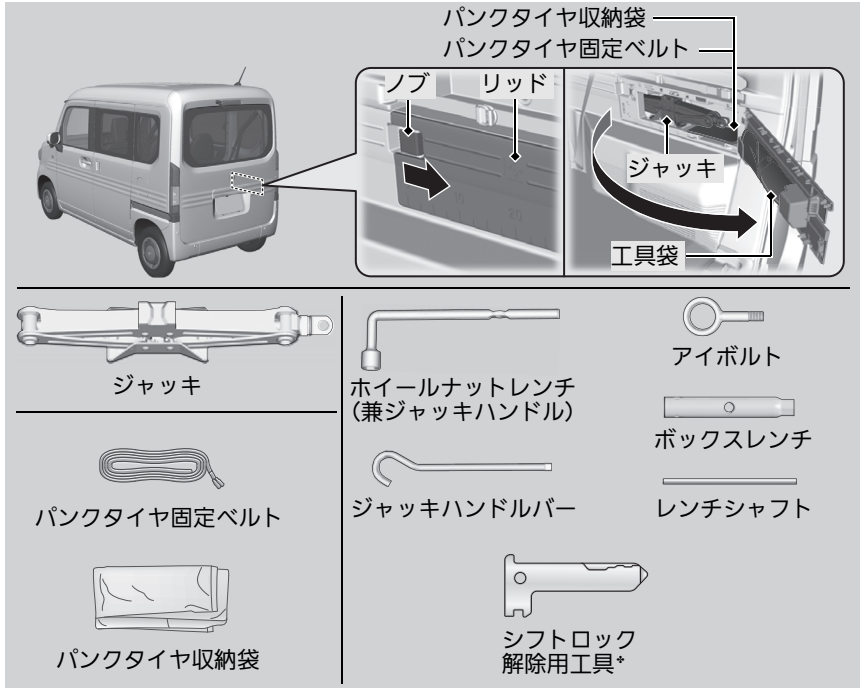
無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。

装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒

工具の種類



工具はカーゴスペース内に収納されています。

リッドを取り外す際は、ノブを車両後方に引いてリッド前方部を外してから取り外してください。

収納工具の紛失防止のため、工具のストラップをきちんと締めてください。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

- 発炎時間
- 有効期限
- 発炎筒 P.6

⚠ 警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたとき

パンクしたタイヤの交換

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、応急用スペアタイヤに交換します。パンクしたタイヤの点検や交換は、Honda 販売店に依頼してください。

⚠ 注意

タイヤを交換するときはエンジンを切る。

エンジンをかけたままにすると排気管でやけどを負うおそれがあります。

スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

応急用スペアタイヤの空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。

指定空気圧: 420kPa (4.2kgf/cm²)

応急用スペアタイヤを装着したときは、80km/h 以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

同時に複数の応急用スペアタイヤを装着して運転をしないでください。

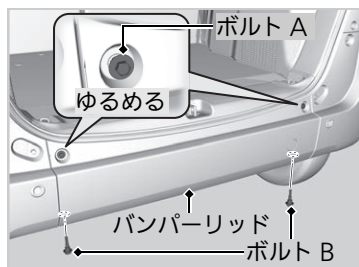
応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。

他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。

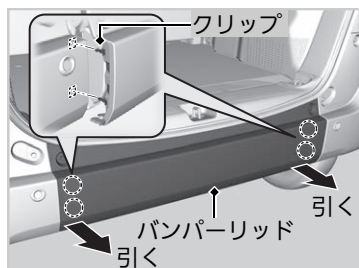
■ 走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを **[P]** に入れる。(無段変速オートマチック車)
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

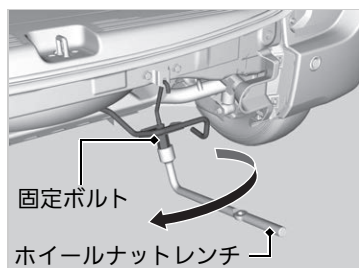
■ タイヤ交換の準備



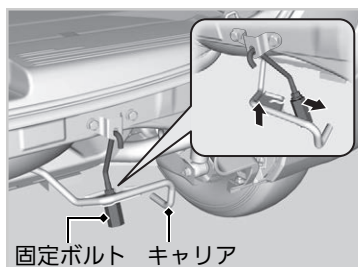
1. ボックスレンチとレンチシャフトを使って上側のボルト A をゆるめ、下側のボルト B を外す。
▶ 誤って他のボルトを外さないようにしてください。
▶ ボルト A は、ゆるめることは出来ませんが、バンパーリッドからは外れません。



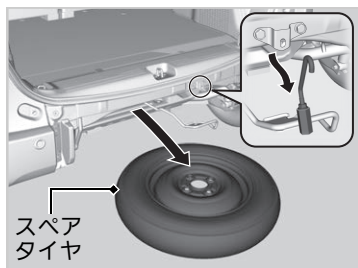
2. バンパーリッドの下側を持ち、手前に引いて外す。



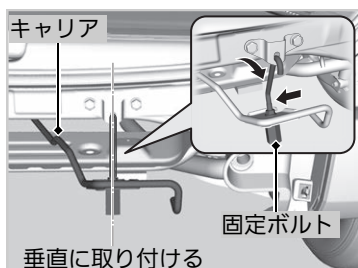
3. ホイールナットレンチを使用して、固定ボルトをゆるめる。



4. キャリアを持ち上げながら、固定ボルトを右にずらしキャリアから外す。

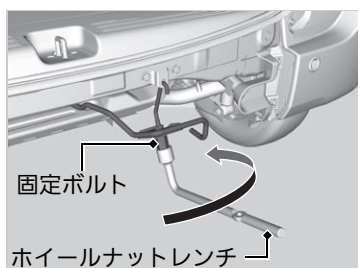


5. 固定ボルトを車体から外し、スペアタイヤを引き出す。

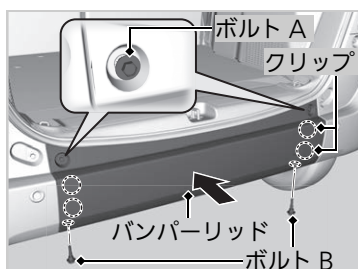


6. 固定ボルトを車体に引っかけてから固定ボルトをキャリアにかける。

▶ 固定ボルトをキャリアにかけたときに、固定ボルトが地面に対して垂直になるようにしてください。

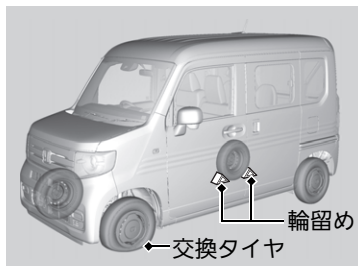


7. ホイールナットレンチで、ゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締め付ける。

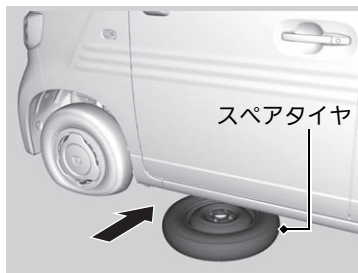


8. バンパーリッドを戻し、ボックスレンチとレンチシャフトを使ってボルト A とボルト B を締め付ける。

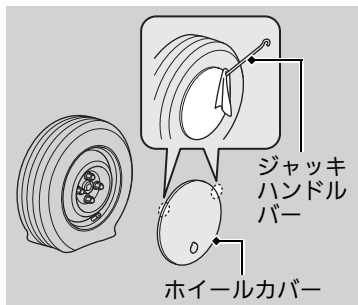
▶ ボルト A とボルト B を締め付ける前にバンパーリッドのクリップがしっかりはまっていることを確認してください。



9. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。



10. 応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に、ホイール表面を上にして置く。



ホイールカバー装備車

11. ジャッキハンドルバーの先を切り欠き溝に 5 ～ 6cm 差し込み、タイヤ側をこじってホイールカバーを外す。

- ▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーに布などを巻き付けてください。
- ▶ 場所を変えて 2 カ所繰り返すと外れやすくなります。



共通

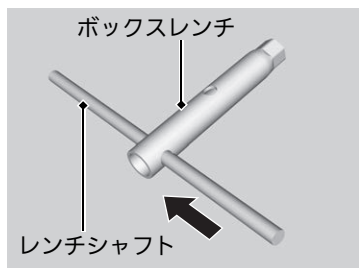
12. ホイールナットをホイールナットレンチで約1回転ゆるめる。

⚠ 注意

取り外しや収納するときに手などをはさまないように注意する。

固定ボルトをゆるめすぎない。

キャリアが落下して足などにけがをするおそれがあります。



ボックスレンチとレンチシャフトを図のように組み合わせて使用してください。

外したボルトは、バンパーリッドを取り付ける際に必要ですので、なくさないように保管してください。

パンクしたタイヤは、キャリアに収納できません。付属のパンクタイヤ収納袋に入れて、固定ベルトでカーゴフロアのフックに固定してください。

📌 **パンクしたタイヤの収納** P.223

応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。

チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪を前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

⚠️ 注意

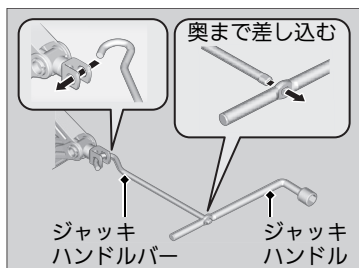
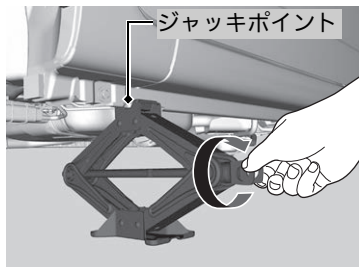
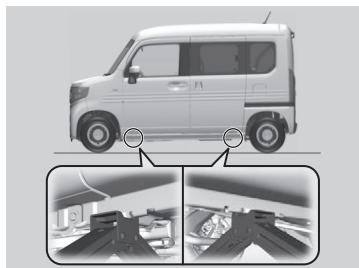
取り付け後は、確実に固定されていることを確認する。

ゆるみ等により取り付けが不安定な場合、走行中に外れて思わぬ事故の原因となります。

⚠️ 注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

■ ジャッキのかけかた



1. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

2. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を実印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

3. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

⚠ 警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

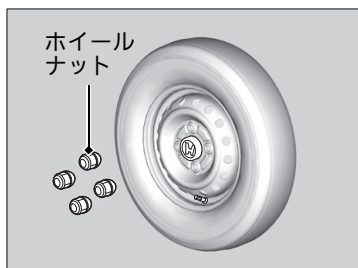
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にもものを入れたりしない

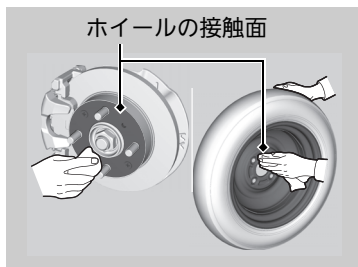
この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

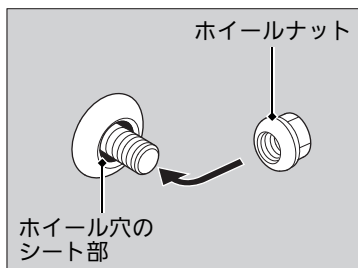
■ タイヤの交換



1. ホイールナットを外し、タイヤを外す。

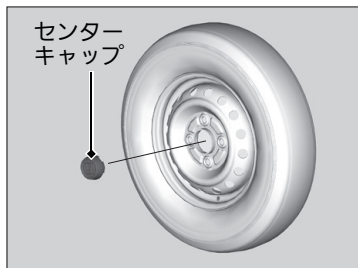


2. ホイールの接触面を拭き取る。

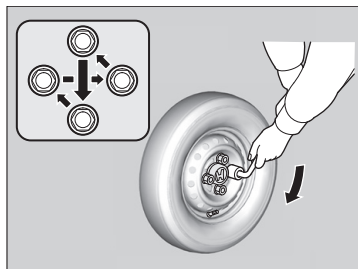


3. 応急用スペアタイヤを取り付ける。

4. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締める。



5. センターキャップ* を付けかえる。



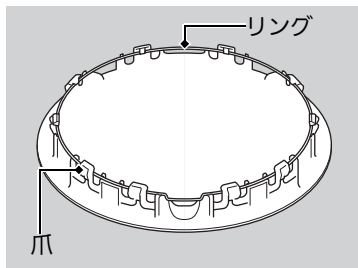
6. ジャッキをおろし、図の順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付ける。

締め付けトルク 98 ～ 118N・m
(10.0 ～ 12.0kgf・m)

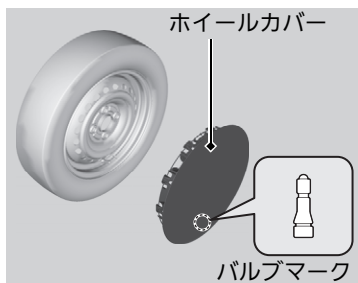
ホイールカバー装備車

ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。

正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けしないでください。



ホイールカバー装備車



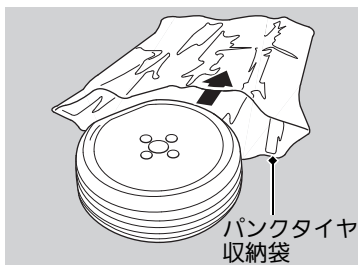
この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

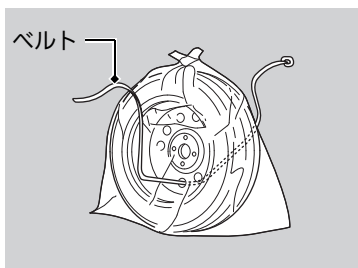
共通

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けしないでください。

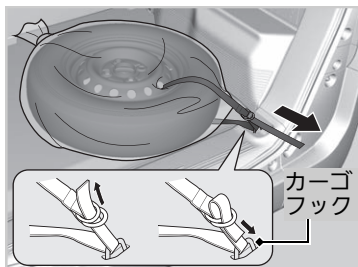
■パンクしたタイヤの収納



1. パンクタイヤ収納袋にタイヤを入れ、収納袋の上端を縛る。



2. 袋に穴を開けてベルトをホイールの穴に通す。



3. ベルトをカーゴフロアのカーゴフックに通す。
4. ベルトをリングに通し、ベルトを引いて締め付ける。

エンジンが始動しない

エンジン状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ スターターの回転が非常に遅い！ バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する 「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れてください」のメッセージが表示されているとき ❑ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.225 ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないとき ❑ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.225 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ❑ ヒューズの点検と交換 P.238
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	エンジン始動の手順を実行する もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ❑ エンジンの始動 P.102 イモビライザーシステム作動表示灯を確認する イモビライザーシステム作動表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ❑ イモビライザーシステム P.67 ❑ イモビライザーシステム表示灯 P.39 燃料の量を点検する 燃料が入っているか確認してください。 ❑ 燃料計 P.43 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ❑ ヒューズの点検と交換 P.238

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

❑ ジャンプスタートの方法 P.226

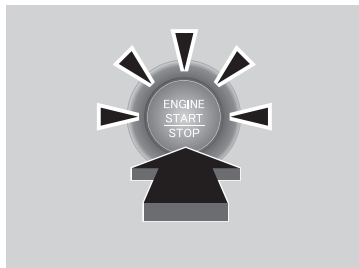
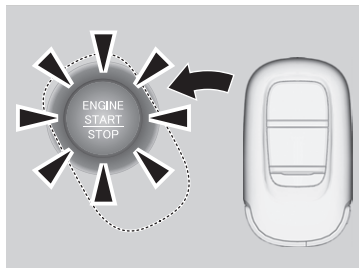
状況によっては、緊急時のエンジン始動方法を行うことで、一時的にエンジンを始動することができます。

❑ 緊急時のエンジン始動方法 P.225

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーの Honda エンブレムでスイッチに触れてください」とメッセージが表示されるか、**ENGINE START/STOP** が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。

以下の手順でエンジンを始動してください。



1. **ENGINE START/STOP** を押す。
▶ ブザーが鳴り、**ENGINE START/STOP** が約30秒間点滅します。
2. **ENGINE START/STOP** が点滅している間に、HondaスマートキーのHondaエンブレムをスイッチに接触させる。
▶ ブザーが鳴り、**ENGINE START/STOP** が約10秒間点灯します。
3. **ENGINE START/STOP** が点灯している間に、ブレーキペダル(無段変速オートマチック車)/クラッチペダル(マニュアル車)を踏みながら、**ENGINE START/STOP** を押す。
▶ エンジンが始動します。
▶ ブレーキペダル(無段変速オートマチック車)/クラッチペダル(マニュアル車)を踏んでいないときは、アクセサリモードになります。

無段変速オートマチック車

緊急時のエンジン始動方法

通常のエンジンの始動方法で、エンジンが始動しない場合は、次の操作でエンジンが始動する場合があります。

緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. セレクトレバーが **P** であることを確認し、パワーモードをアクセサリモードにする。
3. ブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、**ENGINE START/STOP** を約 15 秒以上押し続ける。

上記の操作でエンジンが始動できてもシステムの異常が考えられます。

ただちに Honda 販売店で点検をうけてください。

シフトレバーが、**P** の位置でロックされて動かなくなったら、下記を参照してください。

❖ セレクトレバーが動かない P.229

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP ボタンは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。

エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- **ENGINE START/STOP** を約 2 秒以上押す
- **ENGINE START/STOP** を連続して 3 回押す

このとき、ハンドルはロックはしません。

無段変速オートマチック車

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリモードになります。

パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください：

1. セレクトレバーを **P** に入れる
2. ブレーキペダルを踏まずに **ENGINE START/STOP** を 2 回連続して押す

マニュアル車

パワーモードは OFF モードになります。

アドバイス

緊急時など必要な場合以外は、走行中に **ENGINE START/STOP** を押さないでください。

走行中に **ENGINE START/STOP** を押すとブザーが鳴ります。

バッテリーがあがったとき

ジャンプスタートの方法

⚠ 警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。

エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

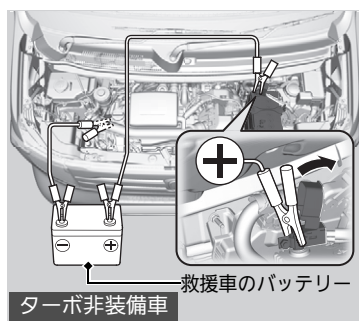
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■ 処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

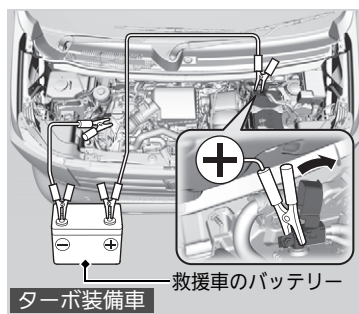
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。

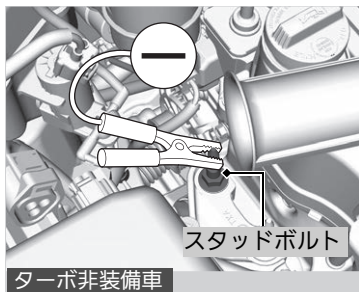


1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。

▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。

▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。





4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

■ エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠ 警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
 - 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む
- 応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

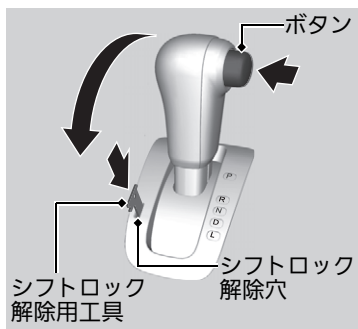
ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

無段変速オートマチック車

セレクトレバーが、**[P]** の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. シフトロック解除穴にシフトロック解除用工具を差し込む。

🔧 工具の種類 P.214

4. シフトロック解除用工具を押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを**[N]**に入れる。

▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒート

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示される
- エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■ 最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。

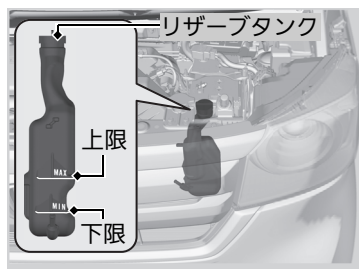
▶ パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]に入れます(無段変速オートマチック車)。

2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

▶ 蒸気が出ていない場合: エンジンをかけたままボンネットを開ける。

▶ 蒸気が出ている場合: エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■ 次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」のメッセージが表示されなくなったらエンジンを停止する。

▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。

▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■ 最後にすること

十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動する。

「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」のメッセージが消えた場合は、運転を再開します。消えないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

⚠ 警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

警告灯の点灯 / 点滅

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された



エンジン油圧異常
安全な場所に停車し
運転を停止してください

■ 表示の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると表示されます。

■ 表示されたらすぐすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■ 車を停車してからすること

1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動する。
▶ 「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた：運転を再開してください。

- ▶「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない: エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。

エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する。

その後も走行中に点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

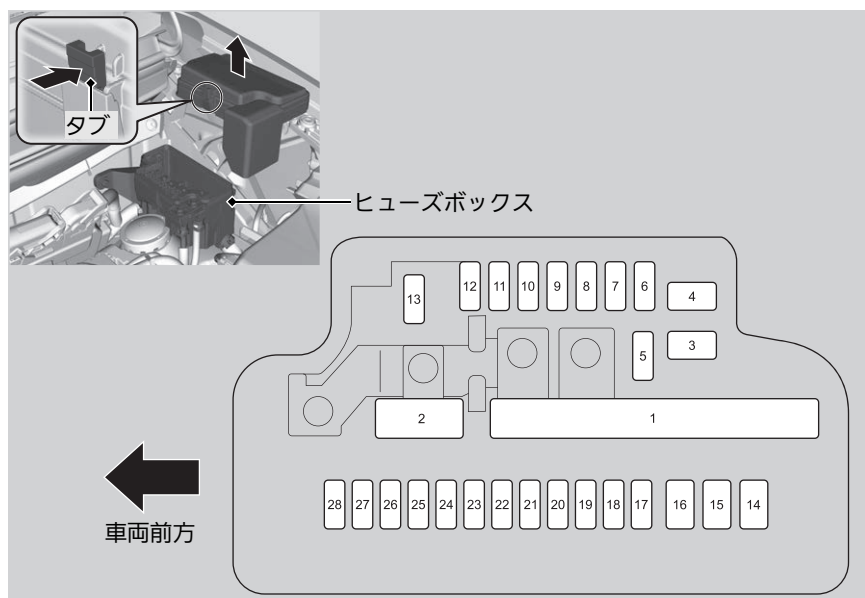
電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■ エンジンルーム内のヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側にあります。タブを押して開けてください。

ヒューズの場所は次のイラストに示しています。

表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

	装備	容量
1	ヒューズボックス メイン 2	40A
	DC/DC 2	30A
	アクセサリソケット (カーゴスペース)*	20A
	EPS	40A
	DC/DC 1	30A
	ABS/VSA モーター	40A
	MAIN	100A
2	ヒューズボックス メイン 1	60A
	IG MAIN	50A
3	—	—
4	—	—
5	ホーン・制動灯	10A
6	リレーモジュール 1	30A ^{※1} 10A ^{※2}
7	ABS/VSA FSR	20A
8	リレーモジュール 2	30A ^{※1} 10A ^{※2}
9	非常点滅表示灯	10A
10	フォグライト*	(7.5A)

	装備	容量
11	—	—
12	バックアップ	10A
13	バックアップメイン	15A
14	—	—
15	スターター	30A
16	冷却ファン	30A
17	ワイパー	20A
18	MG クラッチ	7.5A
19	—	— ^{※3}
	VBACT	10A ^{※4}
20	LAF	7.5A
21	ライトコントロールモ ジュール L	10A
22	ライトコントロールモ ジュール R	10A
23	ドライブバイワイヤ	15A ^{※3} 20A ^{※4}
24	バッテリーセンサー	10A
25	IG COIL	15A
26	IGP	15A
27	—	—
28	—	—

※1: ハロゲンヘッドライト装備車

※2: LED ヘッドライト装備車

※3: ターボ非装備車

※4: ターボ装備車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

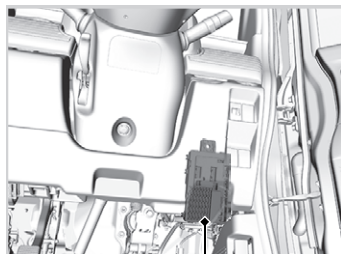
■ 室内のヒューズボックス

インストールメントパネルの奥にあります。

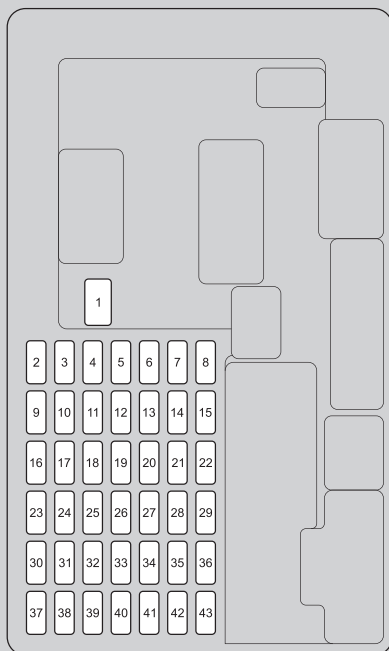
▶ 下から確認できます。

ヒューズの場所は次のイラストに示しています。

表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



ヒューズボックス



■各ヒューズの装備と容量

	装備	容量
1	ヒーターモーター	30A
2	—	—
3	ウォッシャー	10A
4	SRS	10A
5	運転席側 リヤパワーウィンドー	15A
6	助手席側 リヤパワーウィンドー	15A
7	助手席 パワーウィンドー	15A
8	オーディオ(VST)*	10A
9	USB CHARGE*	7.5A
10	—	—
11	E-LATCH*	7.5A
12	バックアップ 2	10A
13	VSA(VST)*	5A
14	アクセサリソケット	20A
15	アクセサリ	5A
16	Honda スマートキー システム	7.5A
17	IMG	7.5A
18	運転席 パワーウィンドー	20A
19	—	—
20	SRS エアバッグ システム	10A ^{※1} 5A ^{※2}
21	リヤワイパー	10A

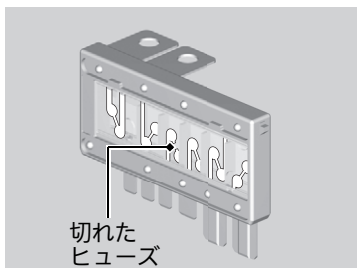
	装備	容量
22	後退灯	5A
23	—	—
24	オプション	7.5A
25	ヒートッドアミラー*	10A
26	—	—
27	電動ドアミラー*	7.5A
28	エアコン	5A
29	リヤデフロスター	7.5A
30	運転席側ドアロック モーター(アンロック)	15A ^{※1} 10A ^{※2}
31	—	—
32	助手席側ドアロック モーター(アンロック)	10A ^{※1} 15A ^{※2}
33	メーター(VST)	7.5A
34	ACC(VST)*	5A
35	助手席側ドアロック モーター(ロック)	10A ^{※1} 15A ^{※2}
36	運転席側ドアロック モーター(ロック)	15A ^{※1} 10A ^{※2}
37	フューエルポンプ	15A
38	スターターカット コイル	5A
39	FI(EM)	10A
40	フロントワイパー	5A
41	メーター	7.5A
42	—	—
43	—	—

※1: ハロゲンヘッドライト装備車

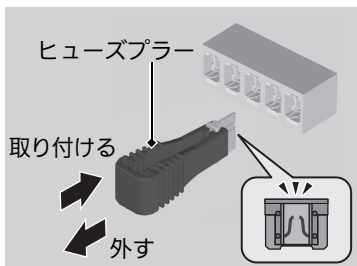
※2: LED ヘッドライト装備車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。



4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、市販のヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

❏ ヒューズの設置場所 P.234

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。

けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

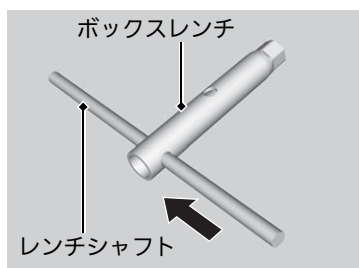
アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- CVT 車は、トランスミッションが破損するおそれがある
- マニュアル車は、パワーモードをOFFモードにすると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるため、事故につながるおそれがある

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。

フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

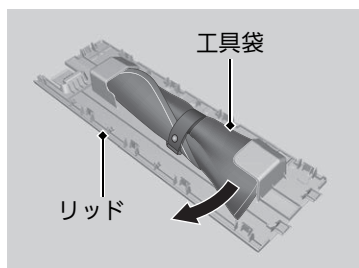


ボックスレンチとレンチシャフトを図のように組み合わせて使用してください。外したボルトは、バンパーリッドを取り付ける際に必要ですので、なくさないように保管してください。

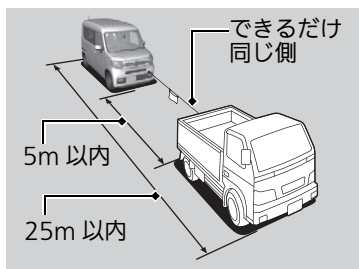
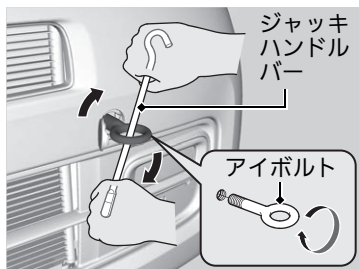
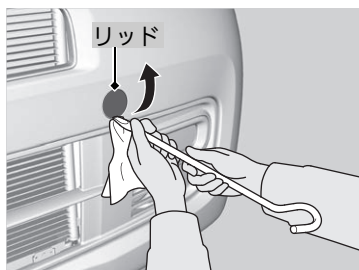
けん引が完了した後は、必ずバンパーリッドを取り付けてください。

■ やむをえず車両前方からけん引される場合

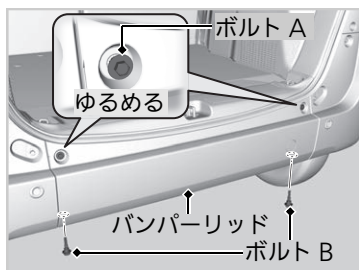
やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード(オイル)などが漏れていないことを確認する。
▶ 異常がある場合は、けん引を行わないでください。
2. リッドを開け工具袋を取り出す。
■ **タイヤ交換の準備** P.216
3. 工具袋からジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。

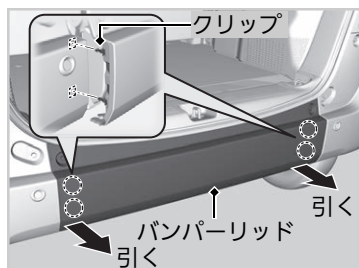


■緊急時の脱出



4. ジャッキハンドルバーの先でリッドを開ける。
▶ バンパーが傷つかないように、ジャッキハンドルバーの先に布などを巻き付けてください。
5. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。
6. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。
7. マニュアル車は、エンジンをかける。CVT 車は、エンジンをかけてセレクトレバーを **D** にし、約5秒間保持する。
▶ エンジンが始動しないときは、パワーモードをアクセサリモードまたは ON モードにします。
8. セレクトレバーまたはチェンジレバーを **N** にする。
9. パーキングブレーキを解除する。
10. 速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引する。
▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

1. ボックスレンチとレンチシャフトを使って上側のボルト A をゆるめ、下側のボルト B を外す。
▶ 誤って他のボルトを外さないようにしてください。
▶ ボルト A は、ゆるめることは出来ませんが、バンパーリッドからは外れません。



2. バンパーリッドの下側を持ち、手前に引いて外す。

3. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

4. ロープをアイボルトにかける。

無段変速オートマチック車

5. パワーモードをアクセサリモードまたは ON モードにして、セレクトレバーを **N** に入れる。

▶ パワーモードをアクセサリモードまたは ON モードにできない場合は、手動でロックを解除してください。

❗ セレクトレバーが動かない P.229

マニュアル車

5. チェンジレバーを **N** (ニュートラル) にする。

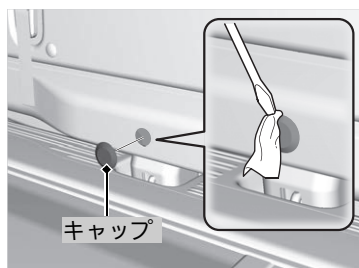
6. パーキングブレーキを解除し、けん引してもらう。

▶ 他車をけん引しないください。

テールゲートが開かないとき

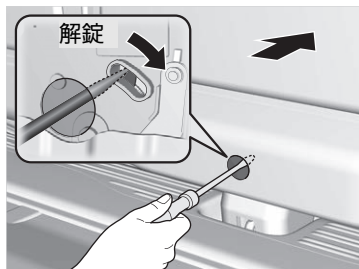
■ 開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



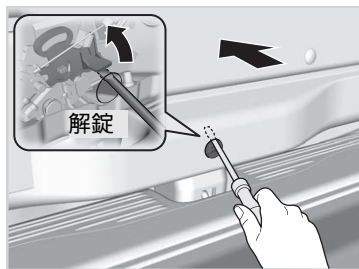
1. テールゲートのキャップに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ キャップが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。



Honda スマートキーシステム装備車

2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。



Honda スマートキーシステム非装備車

2. マイナスドライバーを使ってレバーを左に動かし、テールゲートを解錠する。
3. テールゲートを開ける。

Honda スマートキーシステム装備車

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

共通

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Q

**ENGINE START/STOP のパワー
モードが OFF モードから
アクセサリモードにならない**

A

- ・ ハンドルがロックされていませんか？
- ・ ハンドルを左右に回しながら、
ENGINE START/STOP を押してください。

Q

**無段変速オートマチック車
ENGINE START/STOP のパワー
モードが OFF モードにならない**

A

- ・ セレクトレバーが **P** 以外の位置になっていませんか？

Q

**ブレーキペダルを踏んだら
ガタガタと振動した**

A

- ・ ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、
ブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ABS(アンチロックブレーキシステム) (P. 173)

Q

ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- ・ キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステム* で解錠して
から、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に
再度施錠されます。

Q

運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- ・ パワーモードを OFF モード以外にいませんか？
- ・ ライトを消し忘れていませんか？
- ・ アイドリングストップ中に運転席ドアを開けていませんか？

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

走行するとブザーが鳴る

Q

- ・ 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

無段変速オートマチック車

- ・ パーキングブレーキを完全に戻していますか？

A

走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

Q

- ・ ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

A

レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

Q

- ・ プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

A

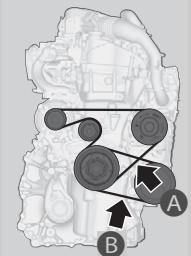
この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様

■ 仕様

名称	N-VAN
排気量	658cm ³
車体形状	バン
乗車定員	4名

■ 調節

	
ベルトの たわみ量	
A: 補機ベルト (発電機)	9.9-11.3mm { 約 98N(10kgf) の力 }
B: 補機ベルト (エアコン ディショ ナー)	9.7-11.2mm { 約 98N(10kgf) の力 }
点火プラグ	NGK DILMAR7A11S ^{※1} ILMAR8D8S ^{※2}

※1: ターボ非装備車

※2: ターボ装備車

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■ 確認

ブレーキペダル	遊び	3.3-10.2mm
	床板とのすき間	100mm以上 ^{※1} 110mm以上 ^{※2} { 約 196N(20kgf) の力 }
クラッチ ペダル ^{※1}	遊び	5-15mm
	床板とのすき間	104mm以上 (クラッチが切れたとき)
パーキング ブレーキ	引きしろ ^{※1}	4~6ノッチ { 約 200N(20.4kgf) の力 }
	踏みしろ ^{※2}	5~7ノッチ { 約 294N(30kgf) の力 }

※1: マニュアル車

※2: 無段変速オートマチック車

■ 燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	27L ^{※1} 25L ^{※2}

※1: 2WD 車

※2: 4WD 車

■ エアクリナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■ バッテリー

容量 / タイプ	32AH(5)、40AH(20)/M42R ^{※1}
----------	-------------------------------------

※1: アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ ウォッシャー液

タンク容量	1.5L
-------	------

■ 電球

ヘッドライト(ハイ / ロービーム)	LED ^{※1} 12V-60/55W (H4 LL) ^{※2}
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W (W21W) ^{※1} 12V-21W 橙色 (WY21W) ^{※2}
車幅灯 / アクセサリーライト ^{※1}	LED
車幅灯 ^{※2}	12V-5W(W5W)
フォグライト*	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	12V-5W(W5W)
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W 橙色(WY21W)
後退灯	12V-16W (W16W)
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W(W5W)
室内灯 / マップランプ*	12V-8W
カーゴスペース照明灯	12V-8W

※1: Honda スマートキーシステム装備車

※2: Honda スマートキーシステム非装備車

この「♣」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

仕様

■ デファレンシャルオイル

4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.33L (交換時)

■ トランスファーフルード ※1

4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.41L (交換時)

※1： 無段変速オートマチック車

■ ブレーキ / クラッチ* フルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード* DOT3 または DOT4
-----	------------------------------------

■ トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ MTF-III※1	1.3L※3 (交換時)
		1.7L※4 (交換時)
	Honda 純正ウルトラ HCF-2※2	2.5L※3 (交換時)
		2.55L※4 (交換時)

※1： マニュアル車
 ※2： 無段変速オートマチック車
 ※3： 2WD 車
 ※4： 4WD 車

■ エンジンオイル

ターボ非装備車

推奨	・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SN 級以上 0W-16、0W-20	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

ターボ装備車

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・API SN 級以上 0W-20、5W-30	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■ 冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e グーラント
規定濃度	50%
規定量	2.64L※1,※3 (交換時:リザーブタンク 0.31L 含む)
	2.89L※2,※3 (交換時:リザーブタンク 0.31L 含む)
	2.90L※4 (交換時:リザーブタンク 0.31L 含む)

※1： マニュアル車
 ※2： 無段変速オートマチック車
 ※3： ターボ非装備車
 ※4： ターボ装備車

■ 最大積載量

2WD 車

350kg (2 名乗車時)
200kg (4 名乗車時)

4WD 車

350kg (2 名乗車時)※1
300kg (2 名乗車時)※2
200kg (4 名乗車時)

※1： Honda スマートキーシステム非装備車
 ※2： Honda スマートキーシステム装備車

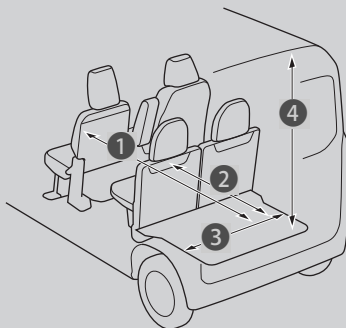
■ タイヤ

標準 タイヤ	サイズ	145/80R12 80/78N LT	
	空気圧	前輪	280 (2.8)
	kPa (kgf/cm ²)	後輪	350 (3.5)
スペア タイヤ	リムサイズ	12×4.00B	
	サイズ	T115/90D13 87M	
	空気圧	420	
	kPa (kgf/cm ²)	(4.2)	
	リムサイズ	13×3.50B	

この「✱」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ カーゴスペース寸法図

- ①: 1,345mm^{※1} (運転席側)
- 1,450mm^{※2} (助手席側)
- ②: 725mm^{※2}
- ③: 905mm
- ④: 1,370mm



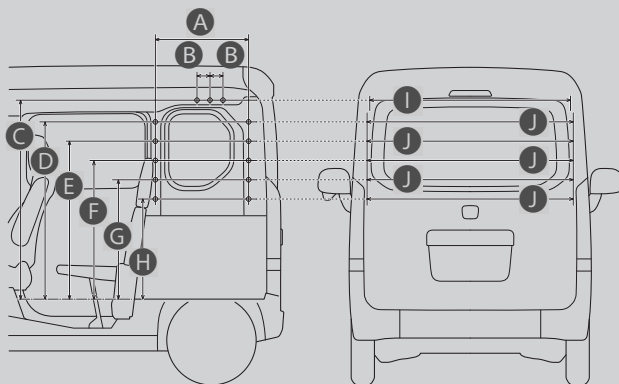
※1: フロントシートは一番後ろで背もたれが最も立った状態の寸法です。

※2: 助手席、リヤシートの背もたれが最も立った状態の寸法です。

寸法値は目安です。取り付ける物の寸法と車の寸法を必ず確認して取り付けてください。

■ ユーティリティーナット配置図

- Ⓐ: 563mm
- Ⓑ: 80mm
- Ⓒ: 1,193mm
- Ⓓ: 1,061mm
- Ⓔ: 943mm
- Ⓕ: 824mm
- Ⓖ: 706mm
- Ⓗ: 587mm
- Ⓘ: 1,189mm
- Ⓙ: 1,231mm



オープンソースライセンス

■メーターオープンソースライセンス

本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。
オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

数字

4WD(四輪駆動機構)	118
-------------	-----

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)	173
ABS 警告灯	34, 174
ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)	
ACC 警告灯(オレンジ)	36
ACC 表示灯 (ホワイト/グリーン)	40
ACC(アダプティブクルーズ・コントロール)	143
A/C(エアコン)	96

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ)	121
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 (オレンジ)	36
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯 (グレー)	41
CVT(無段変速オートマチックトランスミッション)	107

E

ECON スイッチ	111
ENGINE START/STOP スイッチ	5, 71
EPS(電動パワーステアリング)システム 警告灯	35, 233

H

Honda SENSING	119
スイッチと表示	120
Honda スマートキー	61
ENGINE START/STOP スイッチ	5
緊急時のエンジン始動方法	225

緊急時のエンジン停止方法	226
電池が切れたとき	225
電池交換のしかた	206

I

IR カットガラス	209
-----------	-----

L

LKAS(車線維持支援システム)	155
車線維持支援システム(LKAS)警告灯 (オレンジ)	36
車線維持支援システム(LKAS)表示灯 (ホワイト/グリーン)	40

P

PGM-FI 警告灯	33, 232
------------	---------

S

SRS エアバッグ	19
エアバッグシステム警告灯	21, 34

U

USB ジャック(充電専用)	93
----------------	----

V

VSA(ピークルスタビリティ アシスト)	117
VSA OFF 警告灯	35, 118
VSA 警告灯	35, 118
VSA モード設定	53

W

W(ワット数)	246
---------	-----

あ

アームレスト	90
--------	----

アイドリングストップシステム	
アイドリングストップシステム警告灯 (オレンジ)	35
アイドリングストップ表示灯 (グリーン)	40
マニュアル車	114
無段変速オートマチック車	111
アイボルト	214, 241, 242
明るさ設定	52
アクセサリ	213
アクセサリソケット	93
アクセサリライト	195
アダプティブクルーズコントロール (ACC)	143
アダプティブクルーズコントロール (ACC)警告灯(オレンジ)	36
アダプティブクルーズコントロール (ACC)表示灯 (ホワイト/グリーン)	40
アダプティブクルーズコントロール (ACC)/車線維持支援システム(LKAS) 表示	44
安全支援情報	51
安全支援情報警告灯 (オレンジ)	37, 38
安全支援情報表示灯 (グリーン/グレー)	41
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 (オレンジ)	36
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯 (グレー)	41
路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ)	36
路外逸脱抑制機能操舵アシスト 一時停止警告灯	36
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	41
安全なドライブのために	12
安全に関する表示	2
安全のための確認事項	12
アンチロックブレーキシステム (ABS)	173
ABS 警告灯	34, 174
アンテナ	
マイクロアンテナ	99
い	
一酸化炭素の危険性	30
イモビライザーシステム	67
イモビライザーシステム表示灯	39
インフォメーション表示灯	40
う	
ウィンドウォッシャー	
ウィンドウォッシャー液の補給	192
ウィンドーの開閉	69, 70
ウェアインジケータ	203
運転	
エンジンの始動	102
シフト操作	108, 110
ブレーキ操作	171
え	
エアクリーナーエレメント	246
エアコン	96
エアクリーンフィルター	208
エアコンの使いかた	97
モード切り換えスイッチ	97
エアバッグ	19
SRS エアバッグ	19
エアバッグシステム警告灯	21, 34
エアバッグのお手入れ	22
エマージェンシーストップシグナル	175
エンジンオイル	191
推奨エンジンオイル	191, 247
油圧警告	231
エンジンの始動	102
エンジンが始動しない	224

バッテリーがあがったとき	226
エンジンルーム内のメンテナンス	189
ウィンドウォッシャー液の補給	192
エンジンルーム内の メンテナンス項目	189
推奨エンジンオイル	191, 247
ボンネットを開ける	190
冷却水の点検と補給	230
エンジン冷却水	230, 247

お

オイルメンテナンス表示	186
オイルメンテナンス表示のリセットの しかた	188
オーディオ	50
オーディオ装置	99
オートエアコン	97
オートハイビーム	73
オートハイビーム表示灯	38
オーバーヒート	230
オープンソースライセンス	249
オドメーター	43

か

カーゴスペース照明灯 電球の交換	199
外気温表示	43
鍵(かぎ)	60
ガソリン	180, 246
カレンダー	52

き

キー Honda スマートキー	60, 61
Honda スマートキーの電池が 切れたとき	225
キーレスエントリー	64

キーレスエントリーでドアが 開かない	244
電池交換のしかた	207
内蔵キー	61
キーレスエントリー	64
電池交換のしかた	207
キックダウン	107
急アクセル抑制機能	131
給油	180
給油のしかた	180
指定燃料	180, 246
燃料計	43
燃料残量警告灯(オレンジ)	34

く

空気圧	247
空気圧測定器による点検	203
グラブレード	7
クリーブ現象	107
クルーズコントロール表示灯 (ホワイト/グリーン)	41
車の改造	213

け

経過時間表示	49
計器	31
警告灯	33
ABS(アンチロックブレーキシステム) 警告灯	34, 174
EPS(電動パワーステアリング) システム警告灯	35, 233
PGM-FI 警告灯	33, 232
VSA OFF 警告灯	35, 118
VSA(ビークルスタビリティアシスト) 警告灯	35, 118
アイドリングストップシステム警告灯 (オレンジ)	35
アダプティブクルーズコントロール (ACC)警告灯(オレンジ)	36

安全支援情報警告灯(オレンジ)	37, 38
エアバッグシステム警告灯	21, 34
シートベルト非着用警告灯	14, 34
車線維持支援システム(LKAS)警告灯 (オレンジ)	36
充電警告灯	34, 232
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 (オレンジ)	36
トランスミッション警告灯	34
燃料残量警告灯(オレンジ)	34
パーキングセンサー警告灯	35
ブレーキ警告灯(レッド)	33, 233
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	33
路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ)	36
路外逸脱抑制機能操舵アシスト 一時停止警告灯	36
警告灯の点灯 / 点滅	231
警告メッセージ	54
けん引	239

こ

交換

カーゴスペース照明灯電球	199
後退灯電球	197
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 電球	197
室内灯電球	199
車幅灯電球	195
制動灯 / 尾灯電球	196
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯 電球	194
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯 電球	196
ハイマウントストップランプ電球	197
番号灯電球	198
フォグライト電球	195
ヘッドライト電球	193

マップランプ電球	198
ワイパーブレードドラバー	200, 201
工具	214
航続可能距離	48
航続距離 / 燃費 / トリップメーター	47
後退灯	197
後方誤発進抑制機能	129
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	197
誤発進抑制機能	129
コンビニフック	91

さ

サイドアンダーミラー	80
サンバイザー	7

し

シートの調節	80
アームレスト	90
フロントシート	80
ヘッドレスト	89
リヤシート	86
シートベルト	13
シートベルトのアンカーポイント	18
シートベルトの着用	15
シートベルトの点検	18
シートベルト非着用警告灯	14, 34
シートベルトプリテンショナー	14
シートベルトリマインダー	14
妊娠中のかたの シートベルトの着用のしかた	17
時刻 / 日付の設定	59
室内灯	90
シフト操作	108, 110
シフトポジション表示灯	39
車外の清掃	210
車線維持支援システム(LKAS)	155
車線維持支援システム(LKAS)警告灯 (オレンジ)	36

車線維持支援システム(LKAS)表示灯 (ホワイト/グリーン)	40
車速/経過時間/トリップメーター	49
ジャッキ	214, 220
ジャッキハンドル(ホイールナット レンチ)	214, 216, 217, 220
ジャッキハンドルバー	214, 220
車内の清掃	208
車幅灯	195
車両データの記録について	2
ジャンプスタート	226
充電警告灯	34, 232
充電専用 USB ジャック	93
収納装備	90
瞬間燃費表示	48
仕様	246
衝突軽減ブレーキ(CMBS)	121
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 (オレンジ)	36
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯 (グレー)	41
シンプル	46

す

スイッチ	
ENGINE START/STOP	
スイッチ	71
ヘッドライトレベリングダイヤル	73
スイッチ操作	
ECON スイッチ	111
リヤデフロスター/ヒータードア	
ミラースイッチ	78
ワイパー/ウォッシャー	76
スーパーUV カットガラス	209
ステアリング	78
ステアリングスイッチ	120
スノータイヤ	206
スパークプラグ	246
スピードメーター	42

スライドドア	67
--------------	----

せ

清掃	208
制動灯	196
セキュリティシステム	67
イモビライザーシステム	67
セキュリティアラームシステム	68
セレクトレバー	
セレクトレバーが動かない	229
セレクトレバーの操作	108
先行車発進お知らせ機能	161
前面方向指示器/前面非常点滅 表示灯	194

そ

側面方向指示器/	
側面非常点滅表示灯	196
ソナーセンサー	170
その他の室内装備品	93

た

ターボ車	183
タイダウンフック	91
タイヤ	202
ウェアインジケーター	203
指定空気圧	247
スペアタイヤ	217
タイヤ角度モニター	58
タイヤの点検	202
タイヤのローテーション	205
冬期のタイヤ	206
パンク	215
タイヤチェーン	206
タコメーター	45, 46

ち

チェーン	206
------------	-----

チェンジレバーの操作	110
チャイルドシート	23
ジュニアシート	25
乳児のチャイルドシート	24
幼児のチャイルドシート	25
駐停車操作	176

て

停止表示板入れ	92
低水温表示灯	39
データの取り扱いについて	3
テールゲート	66
テールゲートの開閉	
テールゲートが開かないとき	242
デフロスター	
リヤデフロスタースイッチ	78
点火プラグ	246
電子制御ブレーキアシスト	174
電池交換	206
電話	50

と

ドアの施錠と解錠	60
Honda スマートキー	60, 61
キー	60
キーレスエントリー	64
キーレスエントリーでドアが	
開かない	244
車外でのドアの施錠 / 解錠	63
車内でのドアの施錠 / 解錠	65
マスタードアロックスイッチでの	
施錠 / 解錠	65
ドアミラー	79
冬期のタイヤ	206
スノータイヤ	206
タイヤチェーン	206
時計	44, 59
時計 / 車両設定	54

トラブルシューティング

ENGINE START/STOP スwitchの	
パワーモードが OFF モードから	
アクセサリモードにならない	244
ENGINE START/STOP スwitchの	
パワーモードが OFF モードに	
ならない	244
運転席ドアを開けるとブザーが	
鳴る	244
オーバーヒートした	230
キーレスエントリーでドアが	
開かない	244
警告灯が点灯 / 点滅した	231
けん引してもらいたい	239
セレクトレバーが動かない	229
走行するとブザーが鳴る	245
ハイオクガソリンは使える?	245
バッテリーがあがった	226
パンクした	215
ヒューズが切れた	234
ブレーキを踏むと音がする	245
ブレーキを踏むと振動する	244
トランスミッション警告灯	34
トランスミッションフルード	247
トリップメーター	47
ドリンクホルダー	90

な

内蔵キー	61
ナビゲーション	50

ね

燃料	180, 246
燃料計	43
燃料残量警告灯(オレンジ)	34

は

パーキングセンサーシステム	177
---------------------	-----

パーキングブレーキ	171
排気ガスの危険性	30
ハイビーム	73
ハイビーム表示灯	38
ハイマウントストップランプ	197
ハザードスイッチ	4
発炎筒	214
発進補助ブレーキ機能	114
バッテリーがあがったとき	226
バッテリー	
充電警告灯	34, 232
バッテリーがあがったとき	226
容量 / タイプ	246
パニティミラー	7
パワーウィンドウの開閉	69
パンク	215
番号灯	198
ハンドル	78
ハンドル位置調節レバー	78

ひ

ヒートッドアミラー	78
非常点滅表示灯スイッチ	4
尾灯	196
ヒューズ	
ヒューズの設置場所	234
ヒューズの点検と交換	238
標識認識機能	164
標識認識機能表示	44
表示灯	38
ECON モード表示灯	40
アイドリングストップ表示灯	
(グリーン)	40
アダプティブクルーズコントロール	
(ACC)表示灯	
(ホワイト / グリーン)	40
安全支援情報表示灯	
(グリーン / グレー)	41
イモビライザーシステム表示灯	39

インフォメーション表示灯	40
オートハイビーム表示灯	38
急アクセル抑制機能表示灯	39
クルーズコントロール表示灯	
(ホワイト / グリーン)	41
シフトポジション表示灯	39, 109
車線維持支援システム(LKAS)表示灯	
(ホワイト / グリーン)	40
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯	
(グレー)	41
セキュリティアラームシステム	
作動表示灯	39
低水温表示灯	39
ハイビーム表示灯	38
フォグライト点灯表示灯	38
方向指示器 / 非常点滅表示灯	38
ライト点灯表示灯	38
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	41
ピロー	87

ふ

ブースターケーブル	227
フォグライト	195
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが	
鳴る	244
走行するとブザーが鳴る	245
踏み間違い衝突軽減システム	129
フューエルリッドの開けかた	180
ブレーキ警告灯(レッド)	33
ブレーキシステム	171
ABS(アンチロックブレーキ	
システム)	173
エマージェンシーストップ	
シグナル	175
電子制御ブレーキアシスト	174
パーキングブレーキ	171
フットブレーキ	173
ブレーキ警告灯(レッド)	33, 233

ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	33
ブレーキを踏むと音がする	245
ブレーキを踏むと振動する	244
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	33
ブレーキフルード	247
ブレーキ警告灯(レッド)	33, 233
フロアボード	7, 85
フロントシート	80
シートバックポケット	90
フロントシートヘッドレスト	81, 89
フロントワイドビューカメラ	168

へ

平均車速表示	50
平均燃費表示	48
ヘッドライト	
オートハイビーム	73
オートハイビーム表示灯	38
ハイビーム表示灯	38
ライト点灯表示灯	38
ヘッドライトレベリングダイヤル	73
ヘッドレスト	
フロントシート	80, 89

ほ

ホイールサイズ	247
ホイールナットレンチ(ジャッキ ハンドル)	214, 216, 217, 220
方向指示器(ウィンカー)	
方向指示器 / 非常点滅表示灯	38
ホーンスイッチ	5
歩行者事故低減ステアリング	139

ま

マイクロアンテナ	99
マスタードアロックスイッチ	65

マップランプ	
電球の交換	198
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	45
表示の切り換えかた	46

み

ミラー	79
サイドアンダーミラー	80
ドアミラー	79
バニティミラー	7
ルームミラー	79

め

メーター	42
アンビエントメーター	43
オドメーター	43
外気温表示	43
スピードメーター	42
燃料計	43
標識認識機能表示	44
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	45
メーター表示設定	53
メンテナンス	184
Honda スマートキー	206
エアコンのお手入れ	208
エンジンルーム内の	
メンテナンス項目	189
オイルメンテナンス表示	186
清掃	208
タイヤの点検と整備	202
メンテナンスに関する注意事項	185
メンテナンスを安全に行うために	184
ライト類の点検と整備	193
ワイパーブレードラバーの	
点検と整備	200

も

モード切り換え(エアコン) 97

ゆ

ユーティリティーナット 94

よ

四輪駆動機構(4WD) 118

ら

ライトスイッチ

オートハイビーム 73

ハイビーム表示灯 38

フォグライト点灯表示灯 38

ライト点灯表示灯 38

ライト類の点検と整備 193

カーゴスペース照明灯電球 199

後退灯電球 197

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯
電球 197

室内灯電球 199

車幅灯電球 195

制動灯 / 尾灯電球 196

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯
電球 194

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯
電球 196

ハイマウントストップランプ電球 197

番号灯電球 198

フォグライト電球 195

ヘッドライト電球 193

マップランプ電球 198

ラジエーター 230

り

リアシートリマインダー 88

リザーブタンク 189, 230

リムサイズ 247

リヤシート 86

リヤデフロスタースイッチ / ヒーテッド
ドアミラースイッチ 78

る

ルームミラー 79

れ

冷却水 230, 247

オーバーヒート 230

低水温表示灯 39

補給 230

ろ

路外逸脱抑制機能 134

路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) 36

路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止
警告灯 36

路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 41

わ

ワイパー/ ウォッシャー 76

ワイパーブレードラバー 200

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <https://www.honda.co.jp>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様相談センター
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、車両番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離 ③ ご購入年月日 ④ 販売店名